



JF日本語教育スタンダード

【新版】利用者のためのガイドブック

目次

はじめに 1

1章 知識編

1.1 JF 日本語教育スタンダードとは	5
1.2 「JF スタンダードの木」を理解する	7
1.3 6つのレベルを理解する	12
1.4 Can-do を理解する	14
1.5 ポートフォリオを理解する	25

2章 実践編

2.1 コースをデザインする	39
(1) コースの方針、目標を考える	40
(2) 目標にあった学習内容を考える	41
(3) 学習成果の評価について考える	44
2.2 コースデザインに Can-do を使う	49
(1) 学習目標一覧と自己評価チェックリストを作る	49
(2) 話す力を測るための評価基準と評価シートを作る	55

参考資料・文献

参考資料 1	CEFR 共通参照レベル：自己評価表	68
参考資料 2	言語能力と言語活動のカテゴリー一覧	70
参考資料 3	Can-do のレベル別特徴一覧	72
参考資料 4	能力 Can-do 一覧	78
参考資料 5	共通参照レベル：話し言葉の質的側面	83
文献		84

【JF スタンダードご利用にあたっての免責について】

- 国際交流基金は、JF スタンダードの内容の正確性の確保に努めています。また、掲載する文書・写真・イラストその他各種コンテンツ等については、慎重に作成しておりますが、当基金がこれらの完全性を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- JF スタンダードを利用してコースデザインやカリキュラム作成、試験作成や試験を行った場合、その正確性や有効性の責任はそれぞれの実施主体にあり、国際交流基金および欧州評議会は一切の責任を負いません。以上の内容をご理解頂いた上、ご利用ください。

はじめに

本書は、国際交流基金が「相互理解のための日本語」という理念のもと、2010年より公開しているJF日本語教育スタンダード(以下、JFスタンダード)の利用者のためのガイドブックです。国際交流基金では、海外に日本語を普及するにあたり、日本語のさらなる国際化を目指して、日本語教育のさまざまな基盤整備に取り組んできました。JFスタンダードは、この基盤整備の中心的な役割を担うものです。

価値観が多様化し、人と人との接触や交流が拡大していく現代社会においては、人間同士の相互理解の重要性がますます高まっています。言語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めていくためには、言語を使って何がどのようにできるかという課題遂行の能力と、さまざまな文化にふれることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するかという異文化理解の能力が必要です。

JFスタンダードでは、まず、日本語を使って何がどのようにできるかという能力に重点を置き、日本語の熟達度のレベルを提示しました。また、学習過程を記録し保存し、それを振り返ることの大切さを提案しました。多種多様な日本語教育の現場が、いわば同じものさしを使うことで、世界中のどこで日本語を学んでいても / 教えていても、今自分が学んでいる / 教えているレベルがどこにあるかを知ることができるようになります。また、熟達度を評価し、言語的・文化的体験を記録し振り返ることによって、課題遂行の能力と異文化理解の能力を育成し評価することができます。進学や留学、就職や移住などで人が移動する際にも、それまでの学習成果や熟達度を正確に伝達できるようになります。『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』は、このような教育実践に役立てていただくために作成しました。

JFスタンダードの開発は、これまでの多くの研究知見や教育実践の再検討から出発しましたが、そのとき以来、内外の教育関係者・機関からの助言や協力を得、現場で活用されてきました。ここに厚く御礼申し上げます。今後も、広く各地の現場の声を反映させることを通じ、JFスタンダードの内容の充実と利便性の向上を重ねてゆきたいと考えています。

グローバル化が進む世界において、JFスタンダードにより、学習者、教師のみならず、日本語によるコミュニケーションに関心のあるすべての人々が共通の基盤に立ち、日本語がより学びやすく、教えやすくなることを願っています。そして、JFスタンダードの有用性がより明確にされることを通じて、日本語教育がさらに発展し、国際相互理解が促進されることを願ってやみません。

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）





1 章

知識編

1.1 JFスタンダードとは

1.1.1 言語教育における「スタンダード」とは何か

ここでは、言語教育における「スタンダード」を「その言語の教育や普及に関する一定の目的や理念とともに、その言語の教育の環境をデザインするのに必要なある種の枠組みないしは目安を提供するもの」と広く定義します。ここで重要なのは、「スタンダード」は言語教育環境をデザインする際の枠組みや目安を提供するものであって、拘束力があるものではないということです。

1.1.2 JFスタンダードが参考にしたヨーロッパの取り組み

国際交流基金（以下、基金）は、ヨーロッパの言語教育の基盤である CEFR の考え方を基礎にして JF スタンダードを作りました。CEFR とは、Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment の略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組みです。

CEFR は、2001 年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く着目され、各言語で実際に利用されるようになりました。JF スタンダードも、CEFR の考え方にもとづいて開発しました。JF スタンダードを用いることにより、日本語の熟達度を CEFR に準じて知ることができます。

1.1.3 JF スタンダードと「相互理解のための日本語」

基金は、文化を異にする人々が共に生きていく社会状況の中で、多くの言語の 1 つとして日本語を位置づけることを目指し、「相互理解のための日本語」を理念とする JF スタンダードを開発しました。

「相互理解のための日本語」は、以下の 4 つの特徴を持ちます。

(1) コミュニケーションを共同行為と捉える

共同行為とは、コミュニケーションの発信者と受信者が日本語を使って、ある領域や場で特定の課題を共同で遂行することです。そして、この課題を共同で遂行するときに必要になる能力を「課題遂行能力」と呼びます。課題遂行能力とは、日本語に関する知識だけではなく、日本語を使って何かを行うという言語行動を中心とした幅広い能力を視野に入れた概念です。

(2) 共同行為には領域や場がある

言語使用者は、コミュニケーション上の課題を遂行する領域や場で、さまざまな言語やその変種など、多様な選択肢の中から日本語を選んで使用します。

(3) 国籍や民族を超えた日本語使用者のコミュニケーションを奨励

このコミュニケーションには、母語話者と非母語話者との間のものだけではなく、非母語話者どうしによる日本語でのコミュニケーションも含まれます。母語話者の日本語を理想的なモデルとしない多様な日本語使用を肯定的に捉えます。

(4) 「相互理解のための日本語」を学んだり、使ったりすることで、学習者は母語とは異なる言語や文化にふれる機会を得る

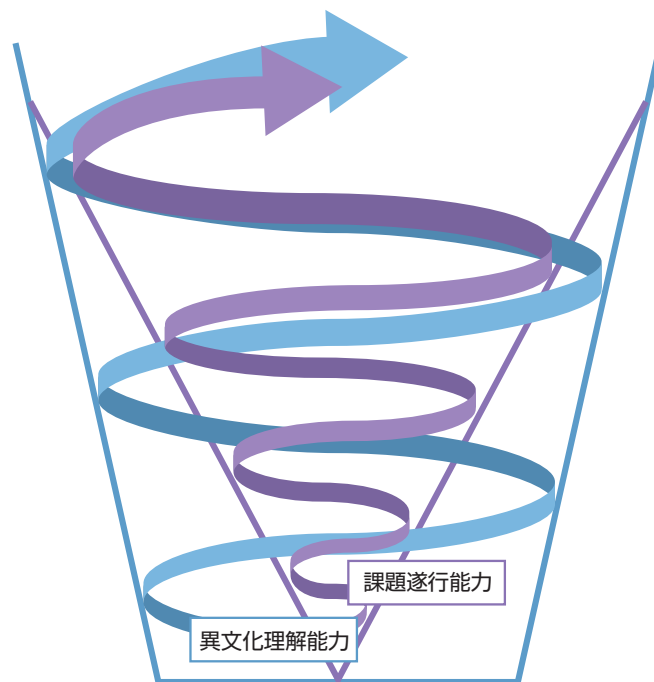
これによって、学習者は複合的な視野を得て、自文化を相対化して新しい視点を持つことができるようになります。その際に求められる能力を「異文化理解能力」と呼びます。

1.1.4 課題遂行能力と異文化理解能力の発達観

「相互理解のための日本語」を達成するには、課題遂行能力と異文化理解能力の2つが必要だと考えます。ここでいう異文化理解能力とは、日本語による発信者と受信者がお互いに柔軟に調整しあう能力のことです。JFスタンダードでは、この能力が多様性に富む社会づくりにつながり、人間的な豊かさを獲得することができるようになると考えます。

JFスタンダードでは、図1-1のように、課題遂行能力と異文化理解能力の2つの能力は一直線に伸びていくのではなく、行きつ戻りつしながら螺旋的に発達していくと考えます。さらに、両者は相互にゆるやかに関連しあいながら発達していくものと捉えています。

図1-1 課題遂行能力と異文化理解能力の発達のイメージ



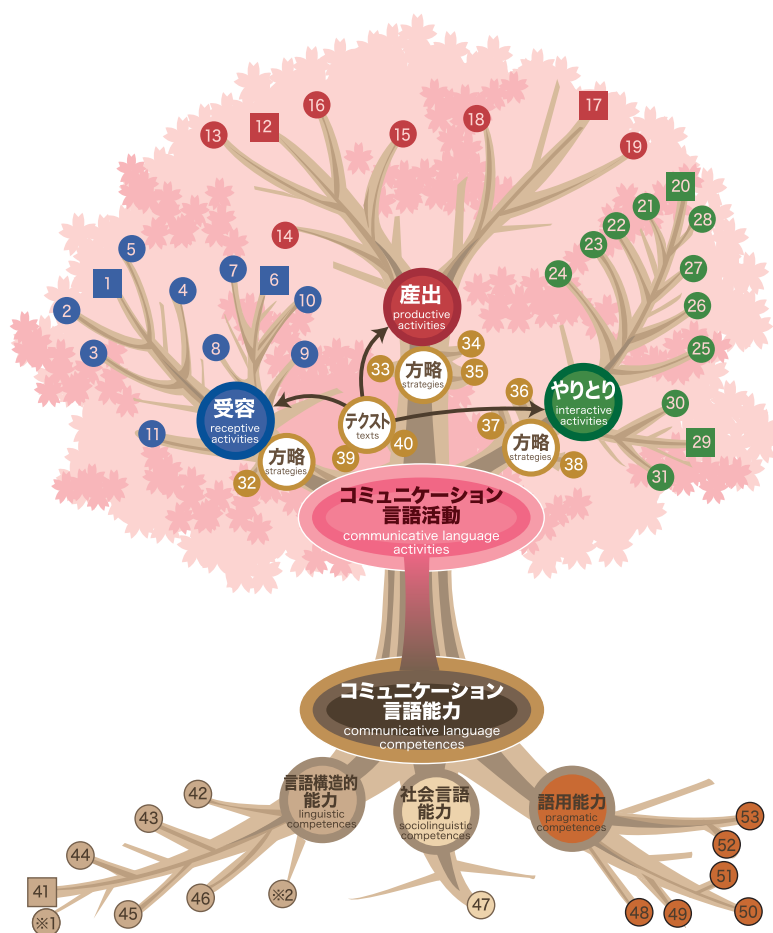
特に「課題遂行能力」の育成に焦点をあてた、「JFスタンダードの木」、「6つのレベルとレベル別 Can-do のデータベース」、異文化理解能力の養成も視野に入れた「ポートフォリオ」が、JFスタンダードを利用する上で重要になります。次ページから詳しく見ていきましょう。

1.2 「JF スタンダードの木」を理解する¹

JF スタンダードは、「相互理解のための日本語」を理念としています。相互理解のためには日本語を使って何がどのようにできるかという「課題遂行能力」と、さまざまな文化にふれることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するかという「異文化理解能力」が必要であると考えます。

この考え方にもとづいて、各教育現場において学習者の「課題遂行能力」の向上を目指した教育実践を行いやすくするために、CEFR のコミュニケーション言語能力 (communicative language competences) とコミュニケーション言語活動 (communicative language activities) の関係を整理し、次のように一本の木で表現しました。この 1-2 の図を「JF スタンダードの木」と呼びます。

図 1-2 JF スタンダードの木



木の根として表現され、言語によるコミュニケーションを支えるのが言語能力です。「JF スタンダードの木」では、**言語能力の構成要素**を例示しました。言語能力を基盤として、木の枝のように広がるのが言語活動です。実際の言語使用は多様で広がりのあるものですが、「JF スタンダードの木」では、**おもな言語活動**を例示しました。

「JF スタンダードの木」のひとつひとつの根や枝で表された言語能力の構成要素とおもな言語活動を「**カテゴリー**」と呼びます。言語能力と言語活動のカテゴリーは全部で 53 あります。

¹ コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) とコミュニケーション言語活動 (communicative language activities) の考え方や構成は CEFR に準じています。

1.2.1 コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) (以下、言語能力)

コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) をめぐっては、さまざまな考え方がありますが、「JF スタンドの木」では、CEFR の考え方にもとづいて、言語構造的な能力 (linguistic competences²)、社会言語能力 (sociolinguistic competences)、語用能力 (pragmatic competences³) の3つから構成されると考えます。

• 言語構造的な能力 (linguistic competences)

言語構造的な能力とは、語彙、文法、発音、文字、表記などに関する能力で、言語教育では古くから注目されてきた能力です。この能力を語彙能力、文法能力、意味的能力、音声能力、正書法の能力、読字能力の6つで捉えます⁴。

• 社会言語能力 (sociolinguistic competences)

社会言語能力とは、相手との関係や場面に応じて、いろいろなルールを守って言語を適切に使用する能力です。

• 語用能力 (pragmatic competences)

語用能力は、ディスコース能力と機能的な能力の2つで捉えます。ディスコース能力とは、ディスコース(談話)を組み立てたりコントロールしたりする能力です。機能的な能力とは、コミュニケーションの中での言語使用の役割や目的(例:事実を報告する、説得するなど)を理解したうえで適切に使用できる能力です。

1.2.2 コミュニケーション言語活動 (communicative language activities) (以下、言語活動)

言語を学習する場合も使用する場合も、言語能力は、実際の言語使用場面で言語活動として表れます。その活動例を、読む・聞くなどの「受容的活動」(以下、**受容**)、一人で長く話す・書くなどの「産出活動」(以下、**産出**)、会話や手紙のやりとりなどの「相互行為活動」(以下、**やりとり**)の3つに分類しました⁵。そして、受容・産出・やりとり、それぞれの言語活動の例を、より詳しいカテゴリーに分類しその例を示しました。

さらに、受容・産出・やりとりに分類しにくい、「メモやノートをとる」「要約したり書き写したりする」の2つの言語活動を、受容と産出の両者を仲介する言語活動の例として、「テキストに関する言語活動」(以下、**テキスト**)としました。

言語能力を効果的に使って言語活動を行うための「**コミュニケーション方略 (communicative strategies)**」(以下、**方略**)の例についても、受容・産出・やりとりの3つの言語活動ごとに示しました。方略は、言語能力と言語活動をつなぐ役割をしています。

² 'linguistic competences' の日本語訳は、「言語構造的な能力」「言語能力」「言語学的な能力」などさまざまな訳がありますが、「JF スタンドの木」では、「言語構造的な能力」とします。

³ 'pragmatic competences' の日本語訳は、「語用能力」「語用論的能力」「言語運用能力」などさまざまな訳がありますが、「JF スタンドの木」では、「語用能力」とします。

⁴ 「意味的能力」と「読字能力」については、能力として明記されていますが、現段階では Can-do の記述はありません。

⁵ CEFR では、この3つの分類に加え、翻訳・通訳などの仲介活動の4つに分類しています。

1.2.3 「JFスタンダードの木」の活用にあたって

教育現場では、「JFスタンダードの木」のどの部分を学習目的とするかを考えることで、目標をより明確にし、多様な学習者のニーズや学習成果が捉えやすくなります。たとえば、海外で日本語を学びはじめた学習者で、日本語を使う機会が少ない人でも、日本語を使ってどんなことができるか、したいかを意識しながら学習を進めることができます。学習者のニーズや目的によっては、枝や根の一部分を集中的に学習することが必要な場合もあるでしょう。

また、学習者の中には、個別の能力や知識は身につけていても、実際に日本語を使用する機会が不足しているため、言語使用の文脈や状況に応じて個別の能力や知識を複合的に組み合わせて課題を遂行することが難しい学習者もいるでしょう。その場合教師は、「JFスタンダードの木」を使って、すでに身につけている能力や知識を確認して、それらを使ってできる言語活動を具体的にイメージしながら、練習機会を多く提供するということもできるでしょう。

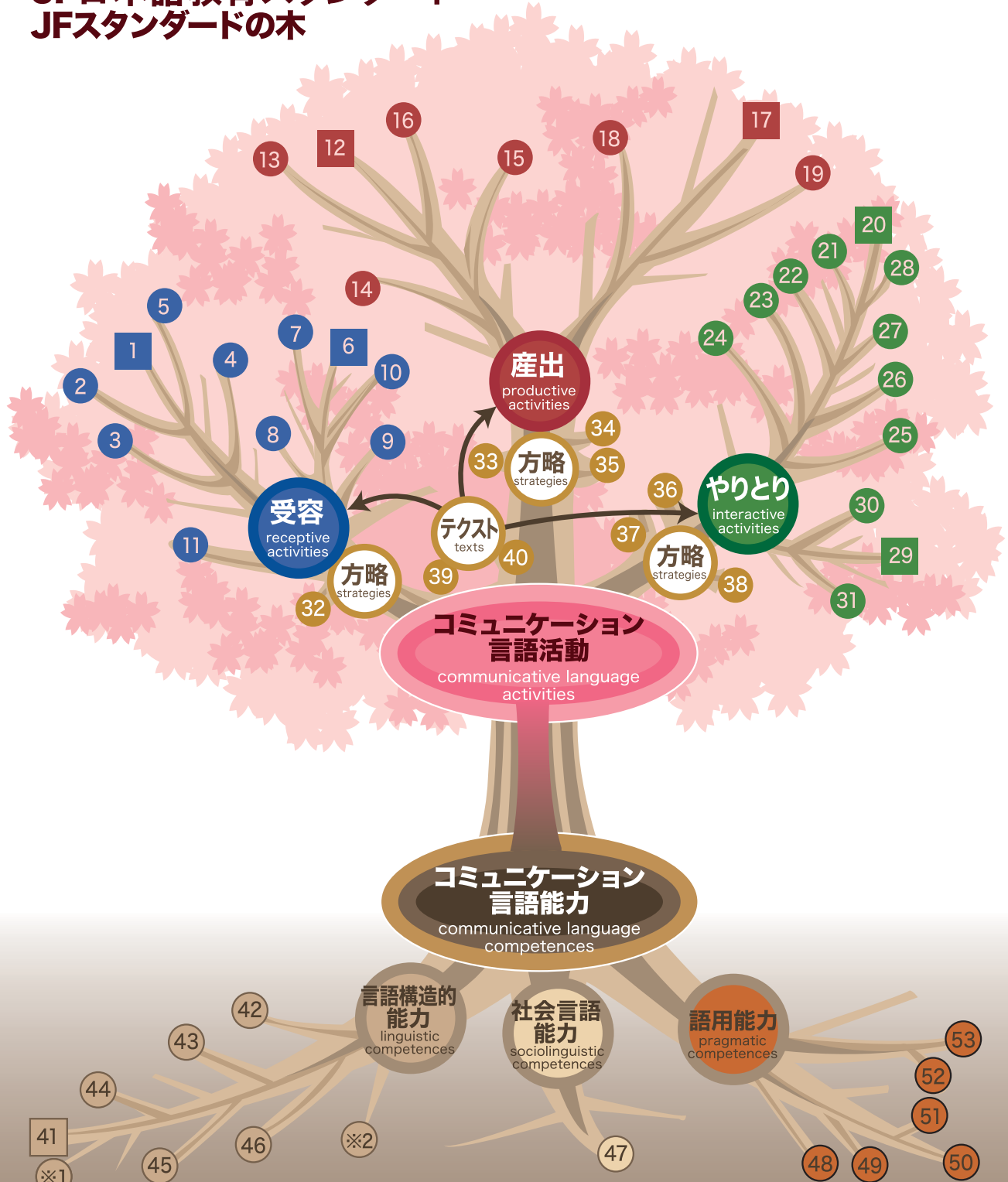
さらに、日本語で専門分野を学ぶ大学生に必要な日本語能力について考える場合など、ターゲットとなる学習者に必要な具体的な言語活動とそれを支える言語能力を関連づけて学習目標を設定することもできます。

このように、JFスタンダードは、「各教育現場が多様な学習者のニーズや学習環境に応じて柔軟に活用されること」が大切であると考えています。

なお、「JFスタンダードの木」の枝や根で示した言語能力と言語活動は、言語によるコミュニケーションを網羅しようとしたものではなく、言語教育の現場で理解しやすく扱いやすくするための例示です。各教育現場のニーズや学習環境に応じて、新しい枝や根をつけ加えて新しいカテゴリーとしたり、不要だと思われる枝や根を取り除くこともあるでしょう。

また、学習者が言語をコミュニケーションのために使用する時、「JFスタンダードの木」で示した言語に関係する能力だけでなく、学習者が経験を通して身につけたさまざまな知識や技能、言語以外の能力を複合的に組み合わせて課題を遂行することになります。それらの能力の日本語教育での取り扱いについては、各教育現場の学習者のニーズや学習環境に応じて、柔軟に対応する必要があります。

JF日本語教育スタンダード JFスタンダードの木



言語能力と言語活動のカテゴリー番号について

「JFスタンダードの木」の言語能力と言語活動のカテゴリー番号は、枝の部分の言語活動から根の部分の言語能力の順番で、木の上部から下部にいくにつれて番号が大きくなっています。また、■で囲まれた数字のカテゴリーは包括的あるいは総合的な活動や能力で、●で囲まれた数字のカテゴリーはより詳しく分類した活動と能力のカテゴリーです。(受容:1~11 産出:12~19 やりとり:20~31 方略:32~38 テキスト:39,40 能力:41~53)
JFスタンダードでは、日本語の熟達度を「～できる」という形式で示した文(Can-do)を、これらのカテゴリーに分類しカテゴリー内の Can-do を6レベルに分けて提供しています。
言語構造的能力の「※1 意味的能力」、「※2 読字能力」については、能力として明記されていますが、現段階では、Can-do の記述はありません。

コミュニケーション言語能力とコミュニケーション言語活動のカテゴリー

(communicative language competences) (communicative language activities)

コミュニケーション言語活動 communicative language activities

産出

活動

- 12 話すこと全般 overall oral production
- 13 経験や物語を語る sustained monologue: describing experience
- 14 論述する sustained monologue: putting a case (e.g. in a debate)
- 15 公共アナウンスをする public announcements
- 16 講演やプレゼンテーションをする addressing audiences
- 17 書くこと全般 overall written production
- 18 作文を書く creative writing
- 19 レポートや記事を書く reports and essays

方略

- 33 表現方法を考える planning
- 34 (表現できないことを)他の方法で補う compensating
- 35 自分の発話をモニターする monitoring and repair

受容

活動

- 1 聞くこと全般 overall listening comprehension
- 2 母語話者同士の会話を聞く understanding conversation between native speakers
- 3 講演やプレゼンテーションを聞く listening as a member of a live audience
- 4 指示やアナウンスを聞く listening to announcements and instructions
- 5 音声メディアを聞く listening to audio media and recordings
- 11 テレビや映画を見る watching TV and film
- 6 読むこと全般 overall reading comprehension
- 7 手紙やメールを読む reading correspondence
- 8 必要な情報を探し出す reading for orientation
- 9 情報や要点を読み取る reading for information & argument
- 10 説明を読む reading instructions

方略

- 32 意図を推測する identifying cues and inferring (spoken & written)

やりとり

活動

- 20 口頭でのやりとり全般 overall spoken interaction
- 21 母語話者とやりとりをする understanding a native speaker interlocutor
- 22 社交的なやりとりをする conversation
- 23 インフォーマルな場面でやりとりをする informal discussion (with friends)
- 24 フォーマルな場面で議論する formal discussion and meetings
- 25 共同作業中にやりとりをする goal-oriented co-operation (e.g. repairing a car, discussing a document, organising an event)
- 26 店や公共機関でやりとりをする transactions to obtain goods and services
- 27 情報交換する information exchange
- 28 インタビューする/受ける interviewing and being interviewed
- 29 文書でのやりとり全般 overall written interaction
- 30 手紙やメールのやりとりをする correspondence
- 31 申請書類や伝言を書く notes, messages & forms

方略

- 36 発言権を取る(ターン・テイキング) taking the floor (turn-taking)
- 37 議論の展開に協力する co-operating
- 38 説明を求める asking for clarification

テキスト

- 39 メモやノートを取る note-taking (lectures, seminars, etc.)
- 40 要約したり書き写したりする processing text

コミュニケーション言語能力 communicative language competences

言語構造的な能力

- 41 使える言語の範囲 general linguistic range
- 42 使用語彙領域 vocabulary range
- 43 語彙の使いこなし vocabulary control
- 44 文法的正確さ grammatical accuracy
- 45 音素の把握 phonological control
- 46 正書法の把握 orthographic control
- ※1 意味的能力 semantic competences
- ※2 読字能力 or theopic competences

社会言語能力

- 47 社会言語的な適切さ sociolinguistic appropriateness

語用能力

ディスコース能力

- 48 柔軟性 flexibility
- 49 発言権 turn-taking
- 50 話題の展開 thematic development
- 51 一貫性と結束性 coherence and cohesion

機能的な能力

- 52 話しことばの流暢さ spoken fluency
- 53 叙述の正確さ propositional precision

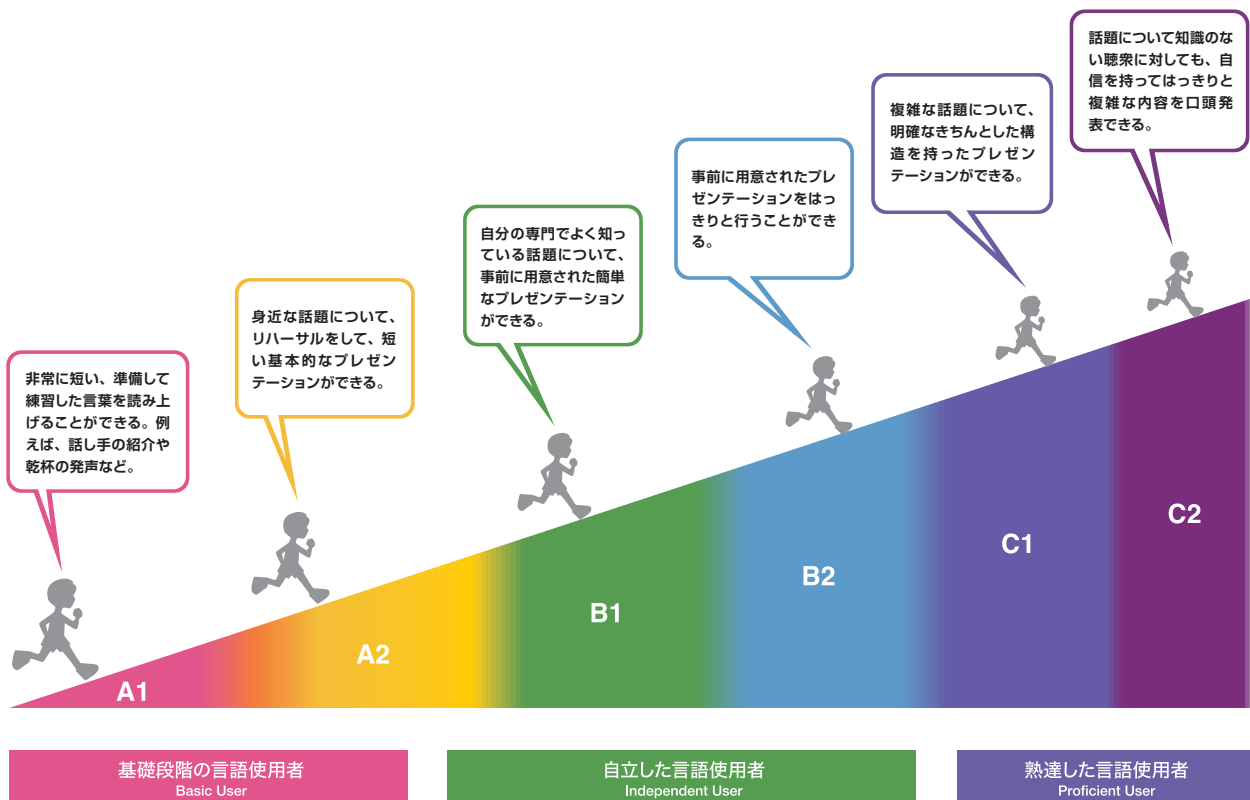
1.3 6つのレベルを理解する

JF スタンダードが学習者の日本語の熟達度の尺度として採用した **CEFR の共通参照レベル** について理解を深めます。

「JF スタンダードの木」のひとつひとつの枝や根で表された、言語能力の構成要素とおもな言語活動の例をカテゴリと呼びます。JF スタンダードでは、日本語の熟達度を示す「～できる」という形式の文 (Can-do) をこれらのカテゴリに分類し、各カテゴリの Can-do を CEFR に準じた 6 つのレベルに分けて提供しています。

言語熟達度は、「A：基礎段階の言語使用者 (Basic User)」、「B：自立した言語使用者 (Independent User)」、「C：熟達した言語使用者 (Proficient User)」の 3 つの大きな段階に分かれています。そして各段階がさらに 2 つに分かれ、全部で 6 つのレベル (A1、A2、B1、B2、C1、C2) となります。言語熟達度の尺度である 6 つのレベルは等間隔ではなく、A2、B1、B2 の幅は、A1、C1、C2 よりも広いので、A2、B1、B2 をそれぞれ A2.1/A2.2、B1.1/B1.2、B2.1/B2.2 に分けて、全部で 9 つのレベルとすることもあります。図 1-3 は「講演やプレゼンテーションをする」という言語活動がレベルによってどう変わっていくのかを Can-do で示したものです。各レベルの Can-do から、そのレベルの熟達度がどのようなものか、レベルが変わると何ができるようになるか理解することができます。

図 1-3 Can-do の 6 レベル



6レベルの大まかなレベルイメージをつかむときには、次の図の「CEFRの共通参照レベル：全体的な尺度」を、学習者の技能別のレベルを確認するときには、CEFRの「自己評価表」参考資料1を使うと便利です。

図 1-4 CEFR 共通参照レベル：全体的な尺度

C2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 ○ いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
C1	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。 ○ 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ○ 社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。 ○ 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
B2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。 ○ お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。 ○ かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
B1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ○ その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 ○ 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。
A2	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ○ 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ○ 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
A1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ○ 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ○ もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

1.4 Can-do を理解する

Can-do とは、言語の熟達度を「～ができる」という形式で示した文です。どのような文型や文法を知っているか、単語や漢字をいくつ知っているかという熟達度の捉え方に対して、Can-do は、たとえば「好きか嫌いかを述べることができる」のように、言語の熟達の、ある段階でできる言語活動や持っている言語能力の例を示し、目安とするものです。

ここでは、Can-do のレベル、種類、使い方、各現場に合った Can-do を作る方法を紹介します。

1.4.1 Can-do とは

(1) Can-do のレベル

言語熟達度の尺度は、低い方から高い方に向かって **A1**、**A2**、**B1**、**B2**、**C1**、**C2** の6つのレベルとなります。各レベルの Can-do を見ると、そのレベルがどのようなものか、レベルが変わると何ができるようになるのか理解することができます。

ここでは、1つの活動を取り上げて見てみましょう。図 1-5 は、**⑩ 講演やプレゼンテーションをする**という言語活動の Can-do の例です。これを見ると、レベルが上がるにつれてどのような講演やプレゼンテーションができるようになるかがわかります。

図 1-5 Can-do の6レベル (⑩ 講演やプレゼンテーションをする)

C2	話題について知識のない聴衆に対しても、自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し、変えていくことができる。難しい、あるいは敵意すら感じられる質問に対処することができる。
C1	複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる。補助事項、理由、関連例を詳しく説明し、論点を展開し、立証できる。聴衆からの不意の発言にも対応することができる。ほとんど苦労せずに自然に反応できる。
B2	事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある視点に賛成、反対の理由を挙げて、いくつかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる。一連の質問に、ある程度流暢に、自然に対応ができる。話を聞く、あるいは話をする際に聴衆にも自分にも余分な負荷をかけることはない。
B1	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べるることができる。質問には対応できるが、質問を話すスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼まねばならない。
A2	身近な話題について、短い、練習済みの基本的なプレゼンテーションができる。質問を繰り返し言ってもらい、回答するのに何らかの助け船を出してくれる人がいるなら、話し終えた後から出される簡単な質問に答えることができる。
A1	非常に短い、繰り返された表現を読むことができる。例えば、話し手の紹介や乾杯の発声など。

(2) Can-do の種類

Can-do は、「JF スタンダードの木」で示した言語能力と言語活動を例示的に記述したものです。言語能力を例示する「能力 Can-do」と、言語活動を例示する「活動 Can-do」「テキスト Can-do」「方略 Can-do」の4種類に分類されます。

言語能力を例示する Can-do

- **能力 Can-do**「JF スタンダードの木」の根にある Can-do で、言語活動を行うために必要な言語能力を例示したものです。言語構造的な能力、社会言語能力、語用能力の3つに分かれます。

言語活動を例示する Can-do

- **活動 Can-do**JF スタンダードの広がる木の枝にある Can-do で、実社会で行う具体的な言語活動を例示したものです。受容・産出・やりとりの3つに分かれます。
- **テキスト Can-do**....「JF スタンダードの木」の受容と産出の枝の間とやりとりにある Can-do で、ノート取りや要約など、まとめたり言い換えたりする活動を例示したものです。受容と産出の両者を仲介する言語活動で、受容・産出・やりとりに分類しにくいものです。
- **方略 Can-do**「JF スタンダードの木」の受容・産出・やりとりの枝の付け根にある Can-do で、言語活動を効果的に行うために言語能力をどのように活用したらよいか方略を例示したものです。受容・産出・やりとりの3つに分かれます。

(3) Can-do のカテゴリー

(2) で述べた4種類の Can-do は、それぞれ、さらに細かいカテゴリーに分類されています。たとえば、活動 Can-do の産出に関わるものには、前述の ⑩ 講演やプレゼンテーションをするのほかに、⑬ 経験や物語を語る ⑰ レポートや記事を書くなど、受容に関わるものには、④ 指示やアナウンスを聞く ⑩ 説明を読むなど、やりとりに関わるものには、②④ インフォーマルな場面でやりとりをする ②⑦ 情報交換するなどのカテゴリーがあります。

カテゴリーによって Can-do の内容は異なります。たとえば、②④ インフォーマルな場面でやりとりをする と ②⑦ 情報交換するの **B1** の Can-do を見てみましょう。

②④ インフォーマルな場面でやりとりをする	②⑦ 情報交換する
<ul style="list-style-type: none"> • どこに行くか何をしたいか、イベントをどのように準備するか（例：外出）などの、実際的な問題や問いの解決に関して、自分の意見や反応を相手に理解させることができる 	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単に事実に基づく情報を見つけ出し、人に伝えることができる • 詳細な説明を求め、理解できる

②④ インフォーマルな場面でやりとりをするの場合は自分の意見や賛成・反対についてやりとりをするのに対し、②⑦ 情報交換するでは事実に基づいた情報をやりとりします。

能力 Can-do、テキスト Can-do、方略 Can-do も細かいカテゴリーに分かれています。それぞれのカテゴリーがどのような言語活動や言語能力を表しているかは、「言語能力と言語活動のカテゴリー一覧」参考資料2を参照してください。また、各カテゴリーの Can-do を読むことで、カテゴリーの内容についての理解が深まります。

(4) Can-do の記述内容

Can-do を読むことによって、記述されているカテゴリーの特徴だけでなく、熟達度が上がるにつれて何がどのように変わるのかを理解することができます。能力 Can-do の記述内容については、「**能力 Can-do 一覧**」参考資料 4 を参照してください。

活動 Can-do の記述内容を見ると、以下のような構造を持っていることがわかります。活動 Can-do の構造にもとづいて Can-do を理解することで、各カテゴリーとレベルの記述の特徴が捉えやすくなります。

【活動 Can-do の構造】

Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

活動 Can-do を構成している条件、話題・場面、対象、行動は、それぞれ次のようなものです。

条件：ゆっくり話すなどの相手の配慮、事前準備の有無など、実現のための条件

話題・場面：日常的な話題、会議の場など、取り上げられる話題や、言語活動が行われる場面

対象：手紙や記事、ニュースや講義など、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりするもの

行動：聞いて理解する、読んで理解する、話す、書く、会話するなど、実際の言語活動

ここでは、**A2** と **B1** の受容 ⑪ **テレビや映画を見る**に関する Can-do を見てみましょう。

	条件	+	話題・場面	+	対象	+	行動
B1	話し方が比較的ゆっくりと、はっきりしていれば	+	本人の関心事である話題について	+	インタビュー、短い講演、ニュースレポートなど多くのテレビ番組の	+	内容をおおいた理解できる
A2	映像が実況のほとんどを説明してくれるならば	+	出来事や事故を伝える	+	テレビのニュース番組の	+	要点がわかる

たとえば **A2** では、話題・場面と対象を見てみると、「出来事や事故を伝える」「テレビのニュース番組」が理解できる段階であるのに対して、**B1** は「本人の関心事である話題」に関する「インタビュー、短い講演、ニュースレポート」などの「多くのテレビ番組」が理解できる段階であるということがわかります。

この4つの要素の特徴的な表現を見ることによって、活動 Can-do のレベルを理解することができます。全レベルの特徴については、「**活動 Can-do のレベル別特徴一覧**」参考資料 3 を参照してください。

(5) Can-do 間のつながり

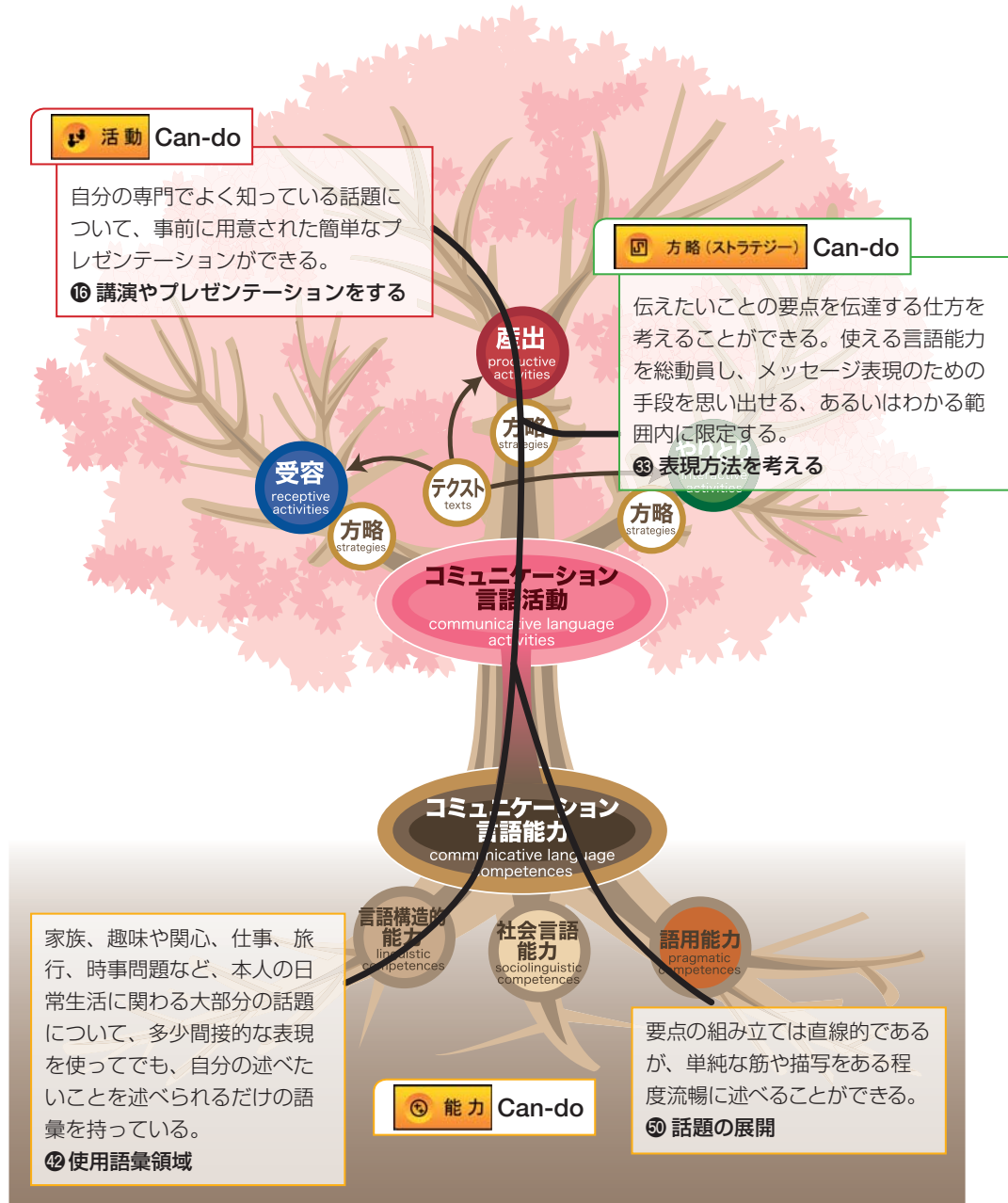
「JF スタンドールの木」で示したように、言語の熟達を示すうえで、能力 Can-do、活動 Can-do、テキスト Can-do、方略 Can-do は、互いに関連しあったものです。

たとえば、先ほどの ⑩ **講演やプレゼンテーションをする**という言語活動を考えてみると、まず、言語能力としては、語彙や文法に関する能力や、談話を構成する能力などが必要となるでしょう。また、表現

方法を考える、自分の発話をモニターする、などの方略を使うことによって、言語活動をより効果的に行うことができます。

図 1-6 は、**B1** レベルの **16** 講演やプレゼンテーションをするという言語活動において関連している Can-do を示したものです。この場合、活動 Can-do、方略 Can-do、能力 Can-do の 3 種類の Can-do が関連しています。また、異なる言語活動の例として、講義を聞きながらノートを取るといった言語活動の場合には、まとめたり言い換えたりするテキスト Can-do も関連する Can-do となります。

図 1-6 Can-do のつながり



このように、その言語活動の内容によって、必要な言語能力やその能力を効果的に使おうとする方略やテキストが変わります。つまり、言語活動を、言語能力、方略、テキストなど異なる Can-do の動的な組み合わせで考えることができます。また、あるレベルの言語能力や方略があるとどのような言語活動ができるのかを考えることもできるでしょう。

1.4.2 Can-do を使う

(1) Can-do を学習目標の設定と学習成果の評価に使う

① 学習目標の設定に利用する

相互理解のための日本語には、言語を使って何がどのようにできるかという課題遂行の能力が必要です。具体的な言語活動を例示する活動 Can-do は、この課題遂行能力の育成を目指した学習目標の設定に利用することができます。目標設定にはどの種類の Can-do も利用できますが、特に具体的な実社会での言語活動を記述した活動 Can-do は、学習者や言語教育を専門としない人にもわかりやすく、教師にとっては授業活動をイメージしやすい目標になります。

② 学習成果の評価に利用する

学習成果の評価には、能力 Can-do のカテゴリーを参考に評価の観点を設定することができます。能力 Can-do は学習目標の達成度を測る評価基準や評価シートの作成にも利用できます。そのほかにも、教師だけでなく学習者自身が目標と評価を意識できるように、Can-do をコースの前後などに実施する自己評価チェックリストに利用することができます。これにより、教師や学習者は現段階で何ができるか、何ができるようになりたいか、あるいは、授業後に何ができるようになったかなどを見ることができます。

コースの目標、評価への活用方法については、2章で詳しく扱います。

(2) Can-do を使うときの留意点

Can-do を利用するにあたって、以下の点に留意しましょう。

① Can-do のほかに必要なものを準備する

Can-do だけでは目標設定や評価は行えません。各現場で、実際の教育活動を行うために必要な言語材料（語彙や文法項目などのリスト）を準備する必要があります。さらに、専門知識や学習能力など、現時点では Can-do で記述されていない能力などについても、各教育現場の学習者のニーズや目的に応じて検討を行うことが必要となるでしょう。

② 複数の Can-do を見比べる

Can-do は1つ見ただけではうまく利用できません。複数の Can-do をレベルやカテゴリーをまたいで見渡すことが重要です。

同じレベルで、少し違った言語活動の Can-do をいくつか見ることで、そのレベルがどのような熟達度なのかを理解して活用できます。また図 1-4 で見たように、同じカテゴリーで同じ言語活動の Can-do をレベルをまたいで見渡せば、学習目的・レベルに合った言語活動を具体的に想定することができます。

③ 自分の現場に合った Can-do を作る

Can-do は、あくまでも言語活動と言語能力の例示であり、すべてを網羅したものではありません。言語能力や言語活動のカテゴリーも、網羅的なものではありません。したがって、各教育現場では、言語能力や言語活動のカテゴリーや、すでにある Can-do を参考にしながら、自分の現場に合った Can-do を新たに作っていく必要があります。

(3) JF Can-do の役割

JF スタンダードで提供する Can-do には、CEFR が提供する Can-do (以下、CEFR Can-do) と、国際交流基金が独自に作成した Can-do (以下、JF Can-do) があります。CEFR Can-do は汎言語的な記述で抽象性や包括性が高いため、日本語での言語活動が想定しにくい面があります。JF スタンダードでは、日本語の使用場面を想定し、日本語での具体的な言語活動を例示した Can-do として、JF Can-do を作りしました。

JF Can-do は **A1** から **B2** までの活動 Can-do があります。トピックが付与されているため、言語活動の場面が具体的で、Can-do の記述から言語活動がよりイメージしやすくなっています。そのため、抽象的な CEFR Can-do に比べ JF Can-do は日本語教育の現場で使いやすくなっています。付与したトピックは以下の 15 のトピックです。

「自分の家族」「住まいと住環境」「自由時間と娯楽」「生活と人生」「仕事と職業」

「旅行と交通」「健康」「買い物」「食生活」「自然と環境」

「人との関係」「学校と教育」「言語と文化」「社会」「科学技術」

(4) みんなの Can-do サイト

JF スタンダードでは、利便性を考慮し、Can-do のデータベース「みんなの Can-do サイト」を開発しました。おもな利用者として、日本語教師やプログラムコーディネーターなどの日本語教育関係者を想定しています。コースデザイン、授業設計、教材開発の際、このサイトを利用すれば、Can-do を取り入れて具体的な課題遂行を目標とした実践が可能になります。「みんなの Can-do サイト」では、CEFR Can-do と JF Can-do を提供しています。

「みんなの Can-do サイト」には、レベルやカテゴリーにチェックをつけて検索する「Can-do を探す」画面と、選んだ CEFR Can-do や JF Can-do をユーザー自身が編集できる「わたしのページ」画面があります。

「Can-do を探す」

種別 (CEFR か JF)、レベル (**A1**、**A2**、**B1**、**B2**、**C1**、**C2**)、種類 (活動、能力、テキストなど)、カテゴリー (店や公共機関でやりとりをする、説明を読むなど) などにチェックをして探すことができます。また、選んだ Can-do のリストをエクセルなどに出力することもできます。

「わたしのページ」

使用目的に応じて Can-do フォルダを作ることができます。その中で、レベルやカテゴリー、トピックごとに Can-do を並び替えて表示したり、Can-do をリスト化し、複数のレベルをまたいで見渡すことができ、熟達度が上がるにつれて言語活動が広がり、課題が複雑になっていくことが読み取れます。

作成した Can-do は、「わたしのページ」に保管できます。

1.4.3 MY Can-do を作る

(1) MY Can-do とは

「みんなの Can-do サイト」で提供されている CEFR Can-do と JF Can-do は、各教育現場でそのまま利用することもできますが、各現場に合った新しい Can-do を作ることもできます。利用者が各現場で新しく独自に作成した Can-do を MY Can-do と呼びます。MY Can-do を作成することで、多様な教育現場の目標設定が柔軟に行えます。

目標設定のために MY Can-do を作るには、活動 Can-do について理解することが必要です。活動 Can-do は、一般によく使われる目標記述や他の Can-do とどこが違うのでしょうか。

たとえば、教育現場に次のような目標があるとします。

- a 体験談を読んで、自分の休み中の体験も話すことができる。
- b レストランでの会話の音声を聞き、内容を理解することができる。
- c 「動詞 + たことがある」と形容詞の過去形が使えるようになる。

どれもよく目にする目標記述の例ですが、活動 Can-do として使うためには、いくつかの点で改良の余地があります。

a の例は実社会で行う言語活動を記述していますが、b や c の例は、授業活動としてできることを目標にしており、学習の結果として何ができるかがわかりにくいものとなっています。特に、c の例のような文法項目の記述は、学校外の社会では理解しにくいものです。b の例ではその授業活動が実社会でどのような言語活動になるのかを、c の例ではその文法項目を使うことによりどのような言語活動が可能になるのかを考えれば、活動 Can-do として目標を作り直すことができます。

a の例は、活動自体は問題ありませんが、1 つの記述の中に「読む」と「話す」という 2 つの活動が含まれていると、それぞれの活動の比重を考えたり、目標の達成度を評価したりするときに使いにくくなります。これは、2 つの Can-do に分けておくと便利です。

そして、どの例も「どのくらいできるか」という到達度については記述されていません。「このクラスならこの程度のレベル」という関係者内の暗黙の了解で省略される場合もありますが、やはり誰が見てもわかることを目指すのであれば、「短い簡単な言葉で（話すことができる）」「詳しく（話すことができる）」などの共通の言語熟達度の尺度にもとづいたレベルの記述が必要となります。

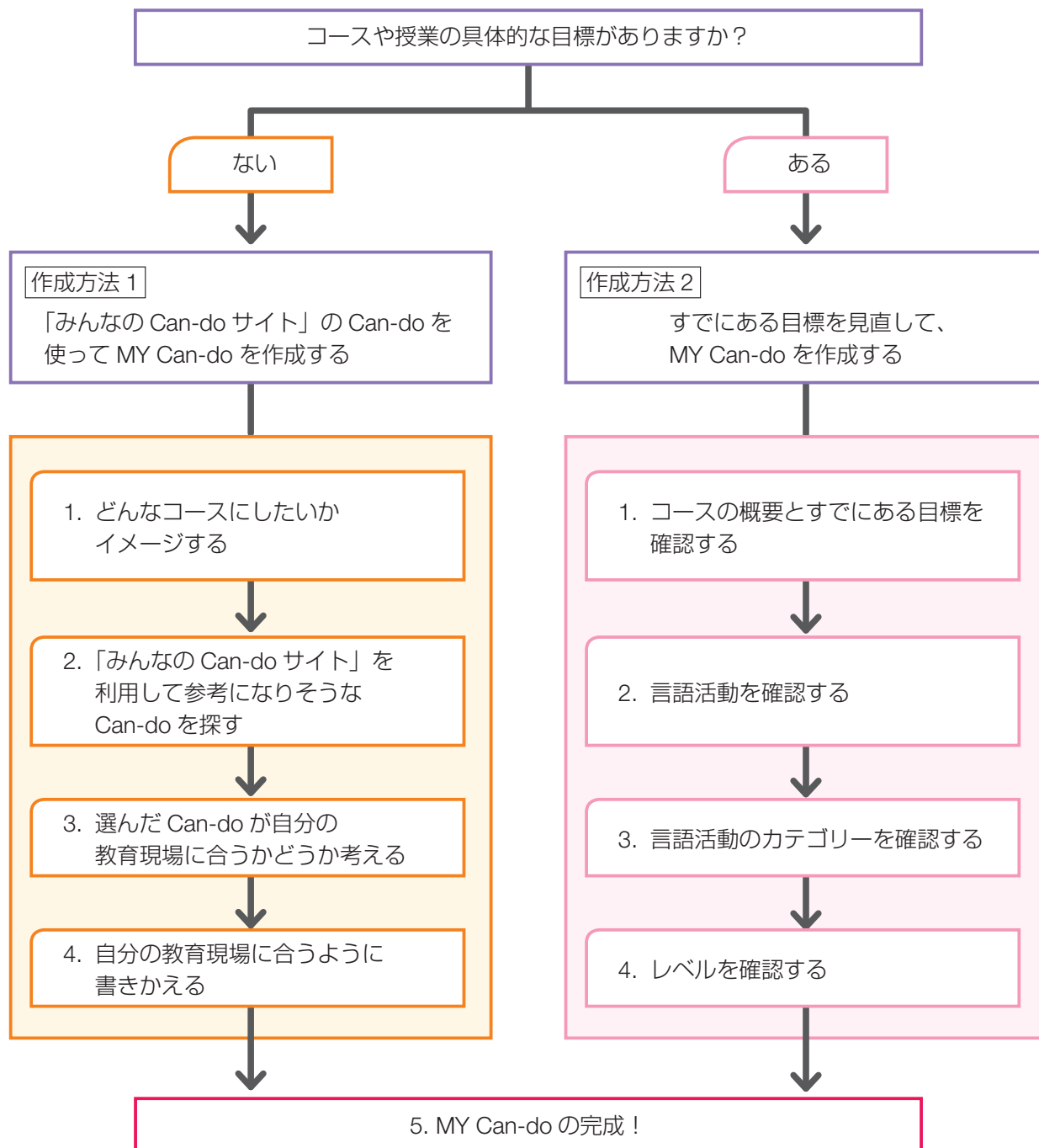
このように、すでに現場にある目標記述を見直し、実社会の言語活動とつながる記述に書きかえたり、新しく MY Can-do を作ったりするときには、「1.4.1 (4) Can-do の記述内容」で述べたような活動 Can-do の構造を知っていると便利です。条件、話題・場面、対象、行動という活動 Can-do の 4 つの要素を確認することによって、目標が明確になり、話題や場面などが現場や学習者の状況に合い、学習者に合ったレベルを示した活動 Can-do を作ることができます。

(2) MY Can-do を作る

それでは、活動 Can-do の構造を使って新しい活動 Can-do (MY Can-do) を作成する方法を見ていきましょう。「みんなの Can-do サイト」の Can-do を使って MY Can-do を作成する場合と、コースや授業の目標を見直して MY Can-do を作成する場合があります。

全体の流れは、図 1-7 のようになります。

図 1-7 新しい活動 Can-do 作成の流れ



作成方法1 「みんなの Can-do サイト」の Can-do を使って、MY Can-do を作成する

新しいコースや授業の目標設定のために、MY Can-do を作成する場合の流れを見ましょう。

1. どんなコースにしたいかイメージする

たとえばこんなコースの場合…

「対象者はタイの大学生で、レベルは中～上級程度。コースの全体的な目標として、口頭能力（特にプレゼンテーション能力）を伸ばしたい」



2. 「みんなの Can-do サイト」を利用して、参考になりそうな Can-do を探す

たとえばこんな Can-do があります！

自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる。

レベル : B1

カテゴリ : 産出 ⑩ 講演やプレゼンテーションをする

トピック : 言語と文化



3. 選んだ Can-do が自分の教育現場に合うかどうか考える

選んだ Can-do に記述されている話題や言語活動が、教育現場の状況に合っているかどうか考えます。合っている場合は、そのまま使うことができますが、合っていない場合は、教育現場の状況に合うように各自で書きかえる必要があります。ここでは、書きかえる場合を想定して、次のステップに進みましょう。



4. 自分の教育現場に合うように書きかえる

📌 MY Can-do 作成における確認ポイント

活動 Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

対象 + 行動…活動やカテゴリはコースや授業でやりたいものになっていますか？
やりたいのはプレゼンテーションですか？ 友人との会話ですか？

話題・場面…学習者のニーズに合っていますか？
学習者の、実際の社会生活の中で起こりそうなことですか？

条件 + Can-do 全体…レベルは難しすぎたり、簡単すぎたりしていませんか？



5. MY Can-do の完成！

こんな MY Can-do を作ってみました！

日本人が集まるタイ文化研究会で、あらかじめ準備してあれば、タイ事情（地理・歴史・文化など）について、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる。

レベルやカテゴリは参考にした Can-do のままにし、書きかえたのは以下の点です。

※「自分の国について学ぶ集まり」を実際にある「タイ文化研究会」にし、具体的に場面が想像しやすくしました。

※トピックを「タイ事情（地理・歴史・文化など）」とより具体的にし、何について話すのかイメージしやすくしました。

作成方法2 コースや授業の目標を見直して、MY Can-do を作成する

すでに教育現場で使っている目標を見直す場合の流れを見てみましょう。

1. コースの概要を確認する

たとえばこんなコースの場合…

「対象者はオーストラリアで日本語を学ぶ、オーストラリアの高校生で、レベルは初級終了～中級程度。コースの全体的な目標として、口頭能力（特にプレゼンテーション能力）を伸ばしたい」

すでにある目標を確認する

たとえばこんな目標記述の場合…

(例) 体験談を読んで、自分の休み中の経験も話すことができる。

**2. 言語活動を確認する**

活動 Can-do = 条件 + 話題・場面 + **対象** + **行動**

まず、**対象**と**行動**に着目し、目標とする活動が受容、産出、やりとりのうちのどれなのかを明確にしましょう。1つのCan-doには基本的に1つの言語活動を記述します。そうすると、評価方法についても考えやすくなり、他のCan-doと組み合わせて使うこともできます。たとえば、上の(例)の目標記述は、次の2つに分けられます。

- (a) 体験談を読んで、理解することができる。
- (b) 自分の休み中の経験を話すことができる。

(a)の言語活動は受容（読む）です。(b)は一人で話す産出の場合と、他の人と会話をするやりとりの場合が考えられます。ここでは、(b)の言語活動を選んで次のステップに進みましょう。

**3. 言語活動のカテゴリーを確認する**

活動 Can-do = 条件 + **話題・場面** + **対象** + **行動**

「話す」という言語活動は、その状況や場面がいろいろ考えられます。(b)の言語活動が産出なのかやりとりなのかを明確にするために、**場面**や状況を考えてみましょう。

- 一人の語り？ 他の人とのやりとり？
- 相手は？ 一人？ 大勢？
- どんな場面？ 友人との打ち解けた会話？ フォーマルな会場？

ここでは、ステップ1で出したコースの大きな目標に合わせて、大勢の前で準備したスピーチをするような場面を想定しましょう。その場合、カテゴリーは産出（話す）の**⑩ 講演やプレゼンテーションをする**になります。このコースの学習者にとって現実的な活動として、クラスメートの前で話をする場面を想定します。

これで、言語活動のカテゴリーが決まり、言語活動が明確になりました。

クラスメートの前で、自分の休み中の経験についてのスピーチをすることができる。



4. レベルを確認する

活動 Can-do = 条件 + 話題・場面 + 対象 + 行動

ステップ3で、活動は具体的になりましたが、このままでは、目標とする熟達度、つまり「どのくらいできるのか」が明確ではありません。熟達度は、該当するレベルの特徴的な表現を Can-do の構造の4つの要素に入れることによって表わすことができます。(詳しくは参考資料3「レベル別特徴一覧」参照)

たとえば、A2 と B1 を参考にすると、産出(話す)に特徴的な表現として、次のような表現があります。

	条件	話題・場面	対象	行動
A2	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手が集中して聞いてくれれば、練習した上で 	<ul style="list-style-type: none"> 家族、住居環境、学歴、現在やごく最近までしていた仕事について 自分の毎日の生活に直接関係ある話題について 	<ul style="list-style-type: none"> 短い、練習済みのプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な言葉で述べるができる 要点を短く述べるができる
B1	<ul style="list-style-type: none"> アクセントやイントネーションには、かなり耳慣れない部分もあるが 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の関心事の身近な話題について 自分の分野に関する話題について 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 順序立てて詳細に述べるができる 事実関係を述べ、理由を説明することができる

ここでは、A2 を目標のレベルとして、「聞き手が集中して聞いてくれれば、練習した上で」と「簡単な言葉で(述べるができる)」という表現を使います。



5. MY Can-do の完成!

すでにあった目標を見直して、書きかえてみたら、たとえばこんな MY Can-do になりました!

聞き手が集中して聞いてくれれば、練習した上で、クラスメートの前で、自分の休み中の経験について、簡単な言葉でスピーチをすることができる。

この My Can-do のレベル、カテゴリー、トピックは、以下のとおりです。

レベル : A2

カテゴリー : 産出 ⑩ 講演やプレゼンテーションをする

トピック : 言語と文化



新しい活動 Can-do を作成したり、すでにある目標記述を見直したりする方法を紹介しました。みなさんも、これらを参考にして、今ある目標を見直したり、MY Can-do を作ったりしてみてください。

1.5 ポートフォリオを理解する

ポートフォリオは、学習者が自分の学習を振り返るための資料を保管するツールです。学習者は、日本語の熟達度を自己評価し、自分の言語的・文化的体験を記録し、それらの資料を収集し、ポートフォリオに保管します。それらの資料をもとに、自分の学習過程・学習成果を振り返ることができます。

1.5.1 ポートフォリオの効果

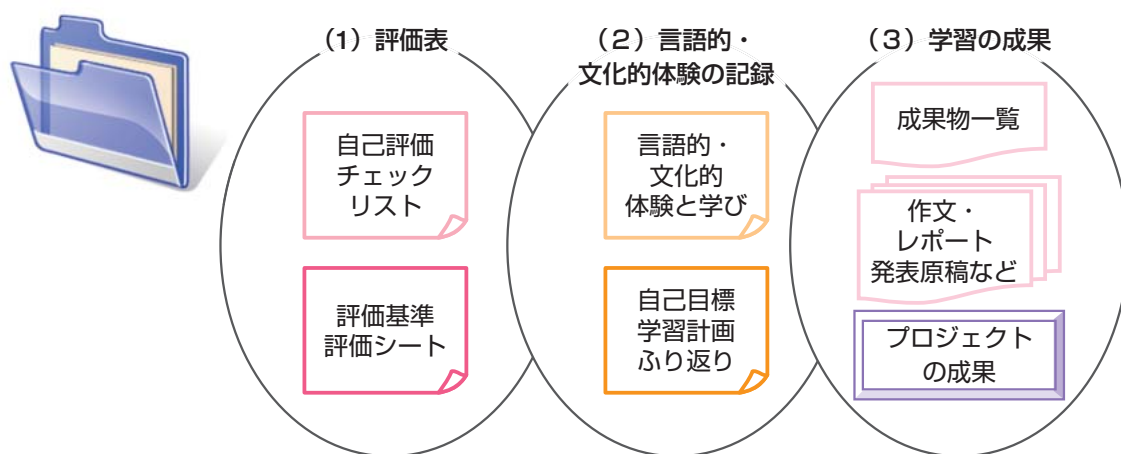
ポートフォリオには、次のような効果があります。

- 教師と学習者が学習目標と学習の過程を共有できます。
- 学習者が他の教育機関に移動したときにそれまでの学習成果を正確に伝えることができます。
- 学習者が自己評価や体験を記録することで、課題遂行能力や異文化理解能力だけでなく、自律的学習能力や学習の動機づけを高めることができます。
- 日本語能力だけでなく、教室の中や外で学んださまざまな知識や技能の学習成果の評価も行うことができます。

1.5.2 ポートフォリオの構成

ポートフォリオを評価のツールとして教育現場で活用するためには、学習者が自分の学習過程を記録し保存しやすい構成や形式で提供し、振り返りやすくすることが大切です。そこで、JF スタンダードでは、ポートフォリオを、次のような「評価表」「言語的・文化的体験の記録」「学習の成果」の3つの構成要素で考えます⁶。

図 1-8 JF スタンダードのポートフォリオの構成



⁶ JF スタンダードでは、CEFR の理念を教育現場で実現するための道具であるヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio) を参考にし、この3つの要素を考えました。ヨーロッパ言語ポートフォリオについては、『JF 日本語教育スタンダード試行版』(2009 : pp.68-91) をご参照ください。

(1) 評価表

(2) 言語的・文化的体験の記録

(3) 学習の成果

① 自己評価チェックリスト

自己評価チェックリストは、学習者が自分の日本語の熟達度を、コースのはじめと終わりや、コースの途中で確認できるようにしたものです。

② 学習活動の評価基準や評価シート

教師が作成した「評価基準」と、評価活動の際に記入した「口頭発表の評価シート」や「作文活動の評価シート」などをポートフォリオに入れます。評価シートは、教師からの評価シートだけでなく、学習者の自己評価やクラスメートからの他者評価のシートなども含みます。

(1) 評価表

(2) 言語的・文化的体験の記録

(3) 学習の成果

① 言語的・文化的体験と学び

言語的・文化的体験を記録することによって、学習者は自分と異なる言語や文化に対する意識を高めることができます。それが、複合的な視野を持ったり、自文化について新しい視点や態度を得たりする、異文化理解能力の育成につながります。日本語を使う機会が少ない海外の場合でも、日本語で書かれたマンガを読む、インターネットで日本語の記事を読むなど、間接的な体験について記録することができます。

② 自己目標や学習計画とふり返し

言語を使ってコミュニケーション上の課題を遂行するためには、文化知識、専門知識、価値観や美意識、問題解決の方法など、言語以外のさまざまな能力や知識が必要となります。コースを通して、学習者が自分のニーズや興味に応じて目標を立て、実行し、結果をふり返る機会を持つことで、そのような能力や知識についても自分で学び続けることができる学習者を育成することにつながります。

(1) 評価表

(2) 言語的・文化的体験の記録

(3) 学習の成果

コースの目標や自己目標にそって学習者が集めた、作文・スピーチなどの音声資料・テスト・プロジェクトの成果物などの、学習の成果をポートフォリオに入れます。作文の場合は、授業で書いたものすべて（書くためのメモ、最初に書いた作文、書き直した作文など）を入れる場合も、自信作を学習者が選んで入れる場合もあります。このように集めた学習の成果は次の学習のための素材にもなります。「成果物一覧」のような目次をつけると、学習の成果を分類し整理するために効果的です。

1.5.3 ポートフォリオを使うときの留意点

教育目的で活用するときの留意点を整理しておきます。

- 対象者の年齢、教育目的や目標に合わせて柔軟にデザインします。構成要素のつながりを意識して全体構成を考え、各現場で使いやすいようにファイルのし方を工夫します。
- 学習活動の評価基準は、教師間で十分に検討し、くり返し使って改善します。それによって、妥当性と信頼性を高めていくことができます。
- 学習成果についての振り返りは、学習者自身の自主性にまかせるだけでなく、コース内の活動として組み込みます。教師やクラスメートと一緒に振り返る機会を設けることで、学習者の自律的な学習能力を継続的に育成します。

1.5.4 ポートフォリオの具体例

国際交流基金関西国際センターで行われた「海外の大学で日本語を学ぶ大学生のための訪日研修」と、国際交流基金日本語国際センターで行われた「外国人日本語教師のための訪日研修」の2つの研修で実際に使ったポートフォリオの例を見てみましょう。

ケース

1

「海外の大学で日本語を学ぶ大学生のための訪日研修」

- **学習者数** : 25名～40名
- **属性** : 海外の大学で日本語を学ぶ大学生
- **日本語能力** : A2、B1、B2
- **コース期間** : 6週間
- **担当した教師数** : 7名～10名
- **研修目的** : 短期の訪日機会を最大限に活かし、日本語学習及び日本社会への理解を深めるための機会を提供する
- **研修目標**
次の3点を目標とし、帰国後の継続学習につなげる。
 - ①日本語を使うことに、更に自信をつける
 - ②日本の文化・社会について、確認・発見する
 - ③日本語学習の目的や方法について、具体的に考える
- **研修の主な内容**
 - 体験・交流活動：大学生との交流会、小学校訪問、ホームビジットなど。
 - 日本語授業 : 体験・交流活動と有機的に結び付いた内容。ディスカッションインタビュー、スピーチなどを中心とした活動。
- **ポートフォリオ活用目的**
体験や交流活動を中心としたコースにおける、学習者の主体的な取り組みを促す自律学習支援のために活用する。

(1) 評価表に入れたもの

【例1 スピーチ自己評価シート】

このコースでは研修中に2回スピーチを行いました。自己評価シート（例1）を使って、1回目と2回目のスピーチについて自己評価を行い、それらを比較することで、自分の伸びや課題を確認できるようにしました。このクラスでは、**B1** 程度を目標にしています。

例1 スピーチ自己評価シート

2013UP 冬 スピーチ3・4クラス

目標： 聞く人が興味を持つような例をあげて、わかりやすく、まとまりのあるスピーチができる

①構成・内容	<ul style="list-style-type: none"> 3～4分のスピーチに適切な量のポイントを選び組み立てて、まとまりのある話ができる 具体的な例や理由をあげて説明したり意見を述べたりすることができる
②スピーチの表現	<ul style="list-style-type: none"> スピーチのはじめ、おわりによく使われる定型表現、聴衆への問いかけの表現をつかって話すことができる 話の順番、比較、原因と結果の関係などをわかりやすくする表現をつかって話すことができる インフォーマルな表現を混ぜないで話すことができる
③話し方	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトをしながら話すことができる ときどき発音をまちがえることがあるが、大体明瞭で、聞きやすいイントネーション、ポーズで話すことができる
④Q&A (質疑応答)	<ul style="list-style-type: none"> ほかの人のスピーチを聞いて、内容を確認したり詳しく聞いたりすることができる 少し時間がかかることもあるが、質問に答えることができる
(⑤見せる資料) Visual Aids	<ul style="list-style-type: none"> スピーチのキーワードに関して、聞く人が知らないイメージなどを写真で見せて説明することができる

スピーチはどうでしたか？
チェックしてみましょう。

スピーチ①：赤のペンでチェック
スピーチ②：青のペンでチェック

1: まだむずかしい
2: まあまあ
3: だいたいできた
4: ようできた

スピーチ②のあとで

スピーチ①と②をくらべて
どんなことがよくなるようになりましたか？
これらもっとがんばりたいことは何ですか？

Progress Note

★スピーチ ① (2014年2月12日)

タイトル: _____

クラスメートや先生からのコメントは？

自分でビデオを見てどうでしたか？

つぎのスピーチではどんなことに気をつけたいですか？

★スピーチ ② (2014年2月26日)

タイトル: _____

クラスメート、日本の大学生のみなさん、先生からのコメントは？

自分でビデオを見てどうでしたか？

帰国してから、スピーチをするチャンスがあったら、どんなふうに話したいですか？

①構成・内容	<ul style="list-style-type: none"> 3～4分のスピーチに適切な量のポイントを選び組み立てて、まとまりのある話ができる 具体的な例や理由をあげて説明したり意見を述べたりすることができる
②スピーチの表現	<ul style="list-style-type: none"> スピーチのはじめ、おわりによく使われる定型表現、聴衆への問いかけの表現をつかって話すことができる 話の順番、比較、原因と結果の関係などをわかりやすくする表現をつかって話すことができる インフォーマルな表現を混ぜないで話すことができる
③話し方	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトをしながら話すことができる ときどき発音をまちがえることがあるが、大体明瞭で、聞きやすいイントネーション、ポーズで話すことができる
④Q&A (質疑応答)	<ul style="list-style-type: none"> ほかの人のスピーチを聞いて、内容を確認したり詳しく聞いたりすることができる 少し時間がかかることもあるが、質問に答えることができる
(⑤見せる資料) Visual Aids	<ul style="list-style-type: none"> スピーチのキーワードに関して、聞く人が知らないイメージなどを写真で見せて説明することができる

【例3 この研修での自己目標と自己評価】

日本語と体験について、教師やクラスの仲間と話し合っ、自己目標を立て、それを評価しました。まず、研修のはじめに、「この研修でしたいこと・知りたいこと」を記入し、目標とします。そして、研修の終わりには「できたこと・気づいたこと」を記入し、目標が達成できたかを評価しました。帰国後の目標も記入しました。

例3 この研修での自己目標と自己評価（記入例）

(研修のはじめに記入)

3. この研修での自己目標 No. 13UP266名前

●日本の社会・文化の理解について

研修のはじめに考えたこと (1月30日)

私の卒業論文は「日本人の日常会話の知恵(知恵)」についてこの研究です。自分の肌で、日本人のライフスタイルとか、会話の深い意味とか、感じたいです。
 ちなみに、日本のアニメが大好きで、声優さんたちの仕事とか、声優学校も見学したいです。
 または、今までのアニメという言葉を学ばず、どんな場合で使ったらいいかと確認したいです。

(研修の終わりに記入)

7. この研修での自己評価 No. 13UP266名前

●日本の社会・文化の理解について

- ・インタビューの授業で、日本人の考えをひとつ詳しく勉強しました。発表会のために準備する資料はこれからも役立つものだと思います。
- ・「アニメ・マンガの日本語」というホームページを作る人に会えました。自分の夢はある程度で叶いました。
- ・日本の伝統的な文化について、体験した後、その魅力をもっと知りたかったです。

●日本語の学習について

○この研修のお陰で、いろいろな話す機会をもらいました。昔々えびいことも考えていました。自分の日本語はまだまだだと思っ、ここで話すことはいっぱい練習できたのはよかったです。

○世界各国の人たちと交流して、自分の弱さも知人と克服して、いい友達ができまし。その友達から、日本語言語、或いは学習方法も勉強できました。

~~~~~

■国へ帰ってからしたいこと

日本との関わり、日本語の学習などについて考えたこと

日本人らしい日本語を話したい事は、やはりより多くの本を読んで、ビデオを見て、日本人と交流したいです。  
 そして、文法とごいはもっと頑張ります！  
 最後は、文化について、もっと深く考えたいです。

### (3) 学習の成果に入れたもの

#### 【例4 スピーチ原稿】

研修中に作成したスピーチ原稿の例です。

#### 例4 スピーチ原稿

スピーチ原稿 1 [04]

「今日は韓国の教育問題についてお話しします。」  
 私が話したい韓国の教育問題は大学の学費の問題です。」

「まず、韓国の大学についてお話しします。」  
 韓国にはたくさんの大学があります。どのくらいかという、学費が足りない大学がある  
 ほどです。つまり、学費家比べて学校の数がもっと多いという事です。こんなに多くの  
 大学がありますが、この中で一部の学校は学費がすごく高いです。」

「私は韓国の学費についてお話しします。」  
 韓国の大学の学費は一学期につき、だいたい30万円ぐらいから50万円ぐらいまでかか  
 ります。一年に学費は100万円ぐらいになります。これも大変ですけど、大学生が二人  
 いる家でもっと大変です。さらに、暑い目で見ると学費の問題はもっと大きくなります。  
 たとえば、大学生が二人いる家では学費として使われるお金は1年に300万円ぐらいに  
 なります。ちなみに韓国の大学の過程は四年です。そうすると、韓国で大学を卒業するた  
 めにどのくらいのお金がかかりますか？そうです。約800万円になります。学費をもっ  
 と高く払う家ではほぼ1000万円になります。これは本当に大変なことです。大学には  
 奨学金がありますが、ほとんどの大学では奨学金がすごく少ないし、奨学金をもらえる学  
 生の数も少ないので、あまり役に立ちません。」

「このように、学費にお金がたくさんかかるせいで発生する問題についてお話しします。」  
 一つは、多くの大学生が学費を稼ぐためにアルバイトをするので、自分の勉強ができない  
 ことです。韓国のアルバイトは毎日する機会が多いので、大学生たちは自分の勉強をする  
 時間が足りません。勉強する時間がないので、大学でいい点を取るのが難しいです。  
 だから奨学金をもらうこともできません。もう一つは、学費を全部自分のお金で払うこと  
 ができなくてどんどん借金が増えていくことです。韓国では学費を払うことができなかったら  
 銀行からお金を借りて学費を払うことができます。でも、その利息はあまり安くはない  
 ので借金がどんどん増えていきます。だからどんなにアルバイトをしても、大学を卒業し  
 ても、借金を返すことは難しいです。」

「こんな問題を解決するためには、政府の努力が必要だと私は思います。政府が大学の学費  
 を減らす政策を行うことができるなら、このような問題が減っていくでしょう。そして、  
 政府だけではなく大学も努力する必要があります。少しでも多くの学生が奨学金をもらえ  
 るようにするか、奨学金の額をもっと高める方法を考えるほうが良いと思います。」

「今日は韓国の大学の学費の問題についてお話ししました。皆さんの国の大学の学費はどうで  
 すか？ご意見、ご質問がありましたら、よろしくお願ひします！」

このほかに、インタビュー発表原稿及び資料もポートフォリオに入れました。

- **学習者数** : 13名
- **属性** : 日本語が母語ではない日本語教師
- **日本語能力** : A2、B1
- **学習時間** : 40時間
- **担当した教師数** : 2名
- **研修目的** : 日本語学習および日本文化・社会理解を深める機会と、日本語教授能力を高める機会を提供する
- **研修目標**  
次の4点を目標とする。
  - ①日本語運用力の向上
  - ②日本語の教授能力の向上のための情報や知識の整理及び新しい視点や方法の導入と活用
  - ③日本の文化や社会に対する理解の深化
  - ④帰国後の自己研修の促進
- **研修の主な内容**  
日本語科目（総合日本語、文法）、教授法科目、日本事情科目、日本文化体験プログラム
- **「総合日本語」の概要**
  - 研修目標の「①日本語運用力の向上」と「③日本の文化や社会に対する理解の深化」を目指した授業である。
  - 学習成果を自己評価し、学習活動をふり返る機会を持つことで、研修目標の「②日本語の教授能力の向上のための情報や知識の整理および新しい視点や方法の導入と活用」につなげる。
  - 「自分・家族」「旅行・交通」「学校・教育」「自然・環境」「異文化」などのトピックに関連する学習活動を「読む・聞く・話す・書く」の4つの技能のバランスを取りながら行う。
  - 各トピックのまとめとして、スピーチ発表や作文活動を行う。
- **ポートフォリオ活用の目的**  
研修全体の学習成果の評価として活用する。  
ここでは「総合日本語」の作文活動の評価のために活用した部分についてのみ紹介する。

**(1) 評価表に入れたもの****【例 5 意見文・説明文のための評価基準】**

このクラスの「作文」では、意見文と説明文を書く活動を行いました。教師は、Can-do を利用して各トピックの作文活動の目標を考え、例 5 のような「意見文・説明文のための評価基準」を作成しました。Can-do を活用した評価基準や評価シートの作成手順については、2 章で説明します。

**例 5 意見文・説明文のための評価基準**

| 達成度<br>評価項目 | 目標以上を達成<br>4                                                        | 目標を達成 (B1)<br>3                                        | もう少しで目標に達成<br>2                                       | 努力が必要<br>1                                                   |
|-------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 内容          | 伝えたい (主張したい) ことに必要な情報について、正確、かつ詳しい説明を書いている。                         | 伝えたい (主張したい) ことに必要な情報について、具体的な説明をある程度詳しく書いている。         | 伝えたい (主張したい) ことがだいたい理解できる。十分理解するためには、確認しないと分からない点がある。 | 伝えたい (主張したい) ことを漠然と理解することはできるが、説明が不足していて、全体的に何を伝えたいのかわかりにくい。 |
| 構成          | 主張したい論点を補強するために詳しい情報や具体例、理由などを書き、分かりやすく描写している。                      | 文を続けていくつも書いている。段落を使って簡単な筋や描写を書いているため、構成が分かりやすく読みやすい。   | 文と文の関係が部分的に分かりにくい部分もあるが、大きな流れをつかむことはできる。              | 文や単語をばらばらに書いている。文章としての構成がない。                                 |
| 読み手への配慮     | 読み手にとって必要な情報や説明を詳しく書いている。また、読み手の興味を引くような工夫をしている。                    | 読み手にとって必要な情報や説明を書いている。そのため、伝えたいメッセージをほぼ的確に伝えている。       | 読み手にとって必要な情報や説明が不足しているため、伝えたいメッセージが伝わらない部分がある。        | 情報を断片的に書いているため、何を伝えようとしているかわかりにくい。                           |
| 語彙・文法など     | トピックに関連した適切な語彙や表現、複雑な構文を使って、自分の考えを示し、明瞭に説明している。誤解につながるような文法上の誤りもない。 | トピックに関連した語句・表現・構文を正確に使っている。また、文体や表記などに書きことばとしての適切さがある。 | 部分的に語彙が不適切だったり、文法的な誤りもあるが、文の理解に影響を与えるほどではない。          | 不適切な語句・表現や文法的な誤りがやや多いため、文を理解しにくいことがある。                       |



## 【例6 作文評価シート】

例5の評価基準にもとづいて、教師が例6の「作文評価シート」を作成し、学習者は自分の作文を自己評価しました。教師は作文の添削をするとともに、この「作文評価シート」を使って評価し、コメントを記入しました。そして、面談の時間をとり、学習者の評価と講師の評価のずれについて話し合い、教師は学習継続のためのアドバイスをしました。

例6 作文評価シート（記入例）

| 点 | 内容                                                                |
|---|-------------------------------------------------------------------|
| 4 | 伝えたい(主張したい)ことに必要な情報について、具体的な説明をある程度詳しく書いてあり、読み手にとってたいへん理解しやすい。    |
| 3 | 伝えたい(主張したい)ことがない理解ができる。十分理解するためには、具体的な説明が不足していたり、確認しないと分からない点がある。 |
| 2 | 伝えたい(主張したい)ことを漠然と理解することはできるが、説明が不足していて、全体的に何を伝えたいのかわかりにくい。        |
| 1 | 伝えたい(主張したい)ことに必要な情報が正確でないか、トピックと関係がないため、何を伝えたいのかわかりにくい。           |

| 点 | 構成                                                        |
|---|-----------------------------------------------------------|
| 4 | 文を続けていくつも書いている。段落を使って簡単な筋や描写を書いているため、構成がわかりやすく、たいへん読みやすい。 |
| 3 | 文と文の関係が部分的に分りにくい部分もあるが、大きな流れをつかむことはできる。                   |
| 2 | 短い文や語句を使ったり、基本的な接続助詞で文と文をつなげたりして、伝えたいことのポイントだけを並べて書いている。  |
| 1 | 文や単語をばらばらに書いている。文章としての構成がない。                              |

| 点 | 読み手への配慮                                          |
|---|--------------------------------------------------|
| 4 | 読み手にとって必要な情報や説明を詳しく書いている。また、読み手の興味を引くような工夫をしている。 |
| 3 | 読み手にとって必要な情報や説明を書いている。そのため、伝えたいメッセージをほぼ的確に伝えている。 |
| 2 | 読み手にとって必要な情報や説明が不足しているため、伝えたいメッセージが伝わらない部分がある。   |
| 1 | 情報を断片的に書いているため、何を伝えようとしているかわかりにくい。               |

| 点 | 語彙・文法など                                                   |
|---|-----------------------------------------------------------|
| 4 | トピックに関連した語句・表現・構文を正確に使っている。また、文体や表記などに書きことばとしての適切さがある。    |
| 3 | 部分的に語彙が不適切だったり、文法的な誤りもあるが、文の理解に影響を与えるほどではない。              |
| 2 | 不適切な語句・表現や文法的な誤りがやや多いため、文を理解しにくいことがある。                    |
| 1 | 暗記した表現や文をばらばらに書いている。必要な語・表現が使えず、文法的な誤りが多いため、文を理解することが難しい。 |

| 自己評価                                                             | コメント                                            | 講師評価 | コメント                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伝えたい(主張したい)ことに必要な情報について、具体的な説明をある程度詳しく書いてあり、読み手にとってたいへん理解しやすい。   |                                                 | ✓    |                                                                                                                               |
| 伝えたい(主張したい)ことがない理解できる。十分理解するためには、具体的な説明が不足していたり、確認しないと分からない点がある。 | レポートを<br>書いた経路が<br>ない。                          |      | モンゴルの教育問題の中から、1点に絞り込んで、卒業途中の選挙の経緯を挙げたのでもいい。政府のアンケートなどの信頼できる情報を使って出典も明確に書いてあり、大変わかりやすい。                                        |
| 伝えたい(主張したい)ことを漠然と理解することはできるが、説明が不足していて、全体的に何を伝えたいのかわかりにくい。       |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 伝えたい(主張したい)ことに必要な情報が正確でないか、トピックと関係がないため、何を伝えたいのかわかりにくい。          |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 文を続けていくつも書いている。段落を使って簡単な筋や描写を書いているため、構成がわかりやすく、たいへん読みやすい。        |                                                 | ✓    |                                                                                                                               |
| 文と文の関係が部分的に分りにくい部分もあるが、大きな流れをつかむことはできる。                          | 日本語で書か<br>れたその文章<br>時、内容を<br>考え、構成を<br>しっかり見たり。 |      | 大まかな段落の構成が良く、現状→原因→結果→意見の流れで、大変わかりやすい。                                                                                        |
| 短い文や語句を使ったり、基本的な接続助詞で文と文をつなげたりして、伝えたいことのポイントだけを並べて書いている。         |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 文や単語をばらばらに書いている。文章としての構成がない。                                     |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 読み手にとって必要な情報や説明を詳しく書いている。また、読み手の興味を引くような工夫をしている。                 |                                                 | ✓    |                                                                                                                               |
| 読み手にとって必要な情報や説明を書いている。そのため、伝えたいメッセージをほぼ的確に伝えている。                 | 接続詞の<br>使い方をよく<br>わかっていない<br>ことがある。             |      | 構成に凝って、数字や事例などを引く、必要な情報がはっきりわかるように書いている。また、縦書きではわからない、手紙の気持ちをアンケートを元に書いているので、読み手に興味を持たせることができている。出典元のホームページなどを閲覧したい気持ちにさせられる。 |
| 読み手にとって必要な情報や説明が不足しているため、伝えたいメッセージが伝わらない部分がある。                   |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 情報を断片的に書いているため、何を伝えようとしているかわかりにくい。                               |                                                 |      |                                                                                                                               |
| トピックに関連した語句・表現・構文を正確に使っている。また、文体や表記などに書きことばとしての適切さがある。           |                                                 | ✓    |                                                                                                                               |
| 部分的に語彙が不適切だったり、文法的な誤りもあるが、文の理解に影響を与えるほどではない。                     | なんとかが、<br>かえられる。                                |      | ほぼ正確に文法的な語句が使用されている。接続詞も、機能的には何ら問題がない使い方、モンゴルの重要問題を表すのに適した文体になっている。                                                           |
| 不適切な語句・表現や文法的な誤りがやや多いため、文を理解しにくいことがある。                           |                                                 |      |                                                                                                                               |
| 暗記した表現や文をばらばらに書いている。必要な語・表現が使えず、文法的な誤りが多いため、文を理解することが難しい。        |                                                 |      |                                                                                                                               |

## (2) 言語的・文化的体験の記録

## 【例7 作文活動をふり返って】

次のようなシートを使って、作文活動全体についてふり返り、クラスで共有しました。

## 例7 作文活動をふり返って（記入例）

1. 自分の1箇目の作文と、今日の作文を比べてみてください。何か気づいたことがありますか。  
 文の構成がよくなったと思います。自分の意見を伝えるために読み手にわかりやすく書くことが大切だということがよくわかりました。

2. 色々なテーマについて、4回作文を書いたことは、役に立ちましたか。(はい)・いいえ  
 理由: 色々なテーマについて自分の意見を伝えることができて、よかったです。  
 また学生達に作文を書かせる時、ここで習ったことを使ってみたいということです。たとえば: 注意するものを教えることや、まんがをみながら作文を書く練習、コメントとか。

3. 自分の作文を自分で評価したことは、役に立ちましたか。(はい)・いいえ  
 理由: これからどんな点に注意をしないといけないかと考えることや先生にいいコメントをいた"たくと"こと"もかんは"ろう"と思う



以上、JFスタンダードのポートフォリオについての考え方と、実際に学習成果の評価ツールとして教育現場で活用したポートフォリオの例を紹介しました。各教育現場で、コースの目的や内容に合ったポートフォリオをデザインし、教育効果を考えながら改善していくことが大切です。

はじめはポートフォリオにとまどう学習者もいるでしょう。しかし、徐々に使い方に慣れ、自己評価能力が育っていきます。教師もポートフォリオを実際に活用することを通して、その効果や意義を確認することができるでしょう。







2 章

---

実践編



### 2.1 コースをデザインする

1章では、JFスタンダードの考え方を説明しました。2章では、それらの考え方を活用して、コースをデザインする手順について説明します。図2-1は、コースデザインの全体像を示したものです。

図2-1 コースデザインの全体像



図 2-1 で示したように、コースデザインは 3 つの段階に分けることができます。

- (1) コースの方針、目標を考える
- (2) 目標に合った学習内容を考える
- (3) 学習成果の評価について考える

これら 3 つの内容は、相互に関連しています。図 2-1 の矢印で示しているように、前の段階で検討した内容をふり返って、関連性があるかどうかを確認しながらコースデザインを進めます。目標と学習内容は合っているか、評価の観点や評価方法が学習成果を評価するのに適切か、目標と評価につながりがあるかなどを考えながらコースデザインをすることによって、目標から評価までが一貫性のあるものとなります。

実際の日本語コースをデザインする時に、「JF スタンドールの木」、Can-do、ポートフォリオをどのように使うのでしょうか。次のような具体的なコースを想定して、詳しく見ていきましょう。



### A 国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース

#### 学習者に関する情報

- 学習者  
教師、ビジネスマン、大学生など 12 ~ 20 名  
日本を訪れた経験のある人もない人もいるが、ある人も 2 週間から 1 ヶ月の短い期間である。
- 学習歴  
日本語学習経験がある。この日本語学校で勉強していた人、以前にほかの学校で勉強していた人、自分で勉強していた人などがいる。  
日本人とごく基本的なやりとりはなんとかできる。
- 学習目的／動機
  - 日本の社会や文化について理解を深めたい。
  - 仕事などで出会う日本人と日本語でコミュニケーションができるようになりたい。
  - 身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について、詳しく、わかりやすく話せるようになりたい。

#### カリキュラムに関する情報

- 学習時間  
総学習時間：42 時間（3 時間× 14 回）  
ただし、初回は「オリエンテーション」、最終回は「まとめ」の時間とするため、授業は、3 時間× 12 回となる。
- 使用教材  
特に教材は決まっていない。教師が独自に作成した教材を使用する。

## (1) コースの方針、目標を考える

まず、コースの方針や目標を決めます。日本語に対する社会的なニーズや学習者の学習目的を念頭に、「JF スタンドールの木」のどの部分に重点を置くのかを考えます。たとえば、「JF スタンドールの木」の枝で示された言語活動の中の産出に力を入れる、根で示された語彙や文法などの言語能力の育成に力を入れるなど、教育現場の現状や特色、学習者の学習目的などに合わせてコースの方針や目標を検討しましょう。

次に、「全体的な尺度」(p.13) や「自己評価表」参考資料 1 を見て、学習者の現在のレベルを確認し、コースで目標とするレベルも設定します。

## ■ 「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」の場合…

「全体的な尺度」や「自己評価表」を見て、このコースの学習者の現時点のレベルは **A2** 程度であると想定し、目標レベルを **B1** と考えました。そして、学習者やカリキュラムに関する情報を考慮して、コースの目標として以下の2点を設定しました。

### コースの目標

- 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

「ある程度の長さで、わかりやすく話す」というのは、JF スタンダードでは、やりとり（話す）ではなく、産出（話す）と捉えます。そこで、**B1** レベルの産出（話す）の Can-do や、**B1** レベルで使用できそうな市販教材の学習内容を見て、「ある程度の長さで、わかりやすく話すこと」を達成するために必要な項目として、「手順関係を述べる、描写する、対比する」を選びました。

## (2) 目標に合った学習内容を考える

ここでは、コースの目標を念頭に置き、具体的にどのような内容を取り上げ、コースの中にどのような順番で配置し、各授業で何を目標にどのような内容を学習するかを考えます。このときに、「みんなの Can-do サイト」にある Can-do が参考になります。特に JF Can-do は日本語の使用場面での具体的な言語活動を例示したもので、目標がイメージしやすいでしょう。

授業の具体的な学習目標が決まったら、まず目標の実現例として、談話モデル（会話と独話を含む）をイメージします。談話モデルは1つだけではなく、目標とするレベルで複数考えるとよいでしょう。学習者が談話モデルを参考にして、自分で談話を組み立てられるようになることが目標です。

次に、目標レベルの談話モデルにもとづいて、目標達成に必要な語彙・表現・文型などを考えます。「みんなの Can-do サイト」の中の能力 Can-do や、既存の教材を参考に、語彙・表現・文型などの言語項目を考えます。そして、聴解や読解などのインプット素材を集めながら、「インプット素材・言語項目・学習活動」の組み合わせや順番を決めていきます。

このようにして、学習内容が考えられます。この作業過程で常に、目標と学習内容のつながりや、学習内容どうしのつながり、評価とのつながりを再検討します。



Can-do による学習目標から、語彙・表現・文型を考えるには、JF スタンダードに準拠して作成した『まるごと 日本のことばと文化』（**A1**、**A2**、**B1** レベル）が参考になるでしょう。

<http://marugoto.org>

## ■「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」の場合…

### 1. 各授業の配置を考える

このコースでは、コース目標や学習目的などを考慮して、JF Can-do のトピックの中から、「自分と家族」「仕事と職業」「買い物」「旅行と交通」「食生活」「言語と文化」の6つのトピックを取り上げ、14回の授業で扱います。各トピックの授業は、3時間×2回です。6つのトピックのうち、「自分と家族」はウォーミングアップとして行います。「仕事と職業」のトピックでは「手順を述べる」、「買い物」「旅行と交通」では「描写する」、「食生活」「言語と文化」では「対比する」を学習項目として扱うことにします。

表 2-1 A国○△□日本語学校のコースの学習内容一覧

- 【コースの目標】 ■日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。  
 ■仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

【目標とするレベル】 **B1**

| 回  | 時間  | トピック        | 学習目標                                                                                         | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 語彙・文型                                                                                                                                     | 社会文化的知識                                                                    |  |
|----|-----|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--|
| 1  | 3時間 | (オリエンテーション) |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 2  | 3時間 | 自分と家族       | 新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。                                                 | …                                                                                                                                                                                                                                                                                            | …                                                                                                                                         | …                                                                          |  |
| 3  | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 4  | 3時間 | 仕事と職業       | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社員が新しいスタッフに自分たちの仕事内容を説明しているビデオをいくつか見たり、そのスクリプトを読んだりして、必要な語彙や発表のためのフォーマット（談話構成）を学習する。</li> <li>自分の発表の全体構成を考える。</li> <li>新しいスタッフに自分たちの仕事内容を説明することを想定して発表原稿を書く。</li> <li>ペアになって仕事内容を相手に説明する。</li> <li>グループ内で仕事内容について説明する。(録音する)</li> <li>ふり返り</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>会議、出張、営業、貿易会社、担当します…</li> <li>手順を表わす表現（まず、～てから、～場合、…）</li> <li>対比を表わす表現（Aは～ですが、Bは～です。…）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の会社文化</li> <li>日本人の労働観</li> </ul> |  |
| 5  | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 6  | 3時間 | 買い物         | 日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。    | …                                                                                                                                                                                                                                                                                            | …                                                                                                                                         | …                                                                          |  |
| 7  | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 8  | 3時間 | 旅行と交通       | 日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。                                       | …                                                                                                                                                                                                                                                                                            | …                                                                                                                                         | …                                                                          |  |
| 9  | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 10 | 3時間 | 食生活         | 日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。                       | …                                                                                                                                                                                                                                                                                            | …                                                                                                                                         | …                                                                          |  |
| 11 | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 12 | 3時間 | 言語と文化       | 日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。                     | …                                                                                                                                                                                                                                                                                            | …                                                                                                                                         | …                                                                          |  |
| 13 | 3時間 |             |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |
| 14 | 3時間 | (まとめ)       |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                           |                                                                            |  |



では、「仕事と職業」のトピックを例に、学習目標の設定と学習内容の検討をどのように行ったのか見ていきましょう。

## 2. 各授業の学習目標を設定する

コースの目標と、「手順を述べる」という学習項目をふまえ、「仕事と職業」のトピックの学習目標を以下のように設定しました。

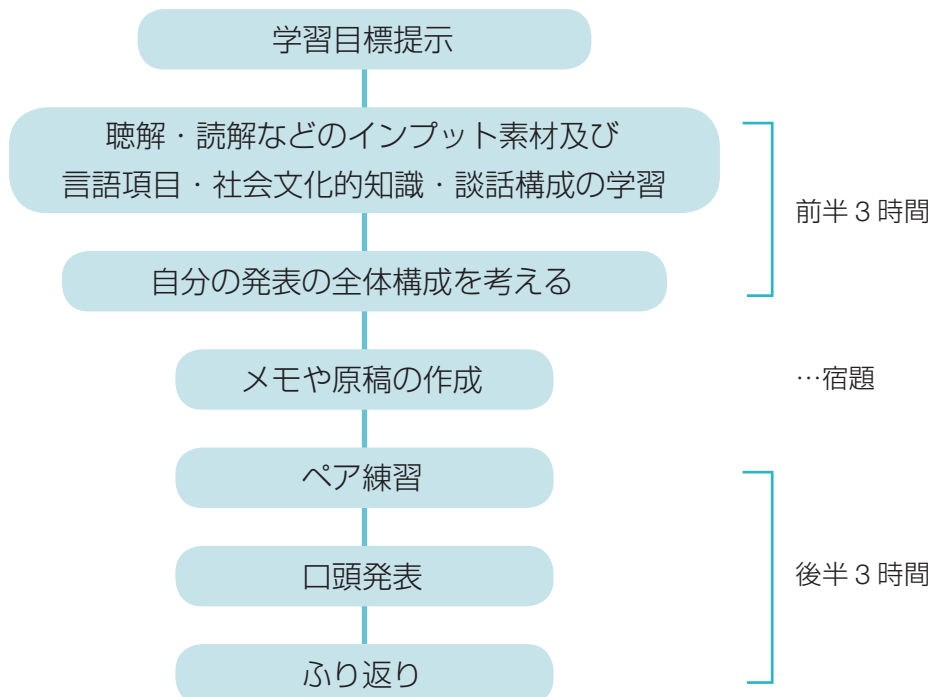
### 学習目標

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

なお、Can-do を使った学習目標一覧の作成方法は 2.2 で詳しく説明します。

## 3. 学習内容を検討する

トピック「仕事と職業」の学習の最後に、学習者に、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明する」という場面設定で、口頭発表させることにします。口頭発表の具体的な談話モデルを **B1** レベルでイメージし、それを達成するために必要な学習内容を決定します。3 時間×2 回の合計 6 時間の授業の流れを以下のように考えます。



### <授業の流れ・前半3時間>

- 1) 背景知識の活性化をかねて、「ふり返しシート」(P46、図2-3)に、日本人の仕事のし方や、仕事に対する考え方などについて、知っていることや興味のあることを記入する。
- 2) ビデオを視聴する。(日本人及び日本人と仕事しているA国の人、自分の仕事の内容や仕事に対する考え方などについて日本語で話している場面)
- 3) ビデオの内容が理解できたかどうかを確認する(タスクシートに学習者が記入した後で、ペアで確認したり、クラス全体で確認したりする)。
- 4) ビデオのスク립トを見ながら、仕事に関する語彙や表現、手順や対比などの文型を学習する。
- 5) 仕事に対する考え方の違いなどを、母語や簡単な日本語で話し合う。A国の会社で働くときに日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本との相違点・共通点などを整理する。
- 6) 発表のために語彙、表現、談話構成などを学習する。
- 7) 自分の発表の全体構成を考え、発表用のメモや原稿を書く。(時間内に終わらなければ、宿題にする)

### <授業の流れ・後半3時間>

- 8) 発表用のメモや原稿をもとに、ペアになって、お互いに自分の仕事内容を相手に説明する。相手の発表を聞いて、質問する。
- 9) 質問を踏まえて、発表用のメモや原稿を修正する。内容を補ったり、語彙や表現を言い換えたり、文のつながりをよくする。修正したら、メモや原稿をとときどき見ながら話す練習をする。
- 10) グループ内で仕事内容について説明する。聞いている人は質問をする。(発表は録音し、あとで自己評価等に使用する)
- 11) トピックの学習を通して、気づいたことや考えたことなどを「ふり返しシート」に記入し、グループで共有する。

## (3) 学習成果の評価について考える

学習成果をいつ、どのように評価するかを考えましょう。学習目標、学習内容、学習成果の評価の3つは相互に関連していますから、評価を考える過程で、(2)に戻って学習内容を変更する場合があります。

### ■ 「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」の場合…

このコースの学習成果の評価を以下のように設定しました。

#### 学習成果の評価

- ① 学習者はコースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」を使った自己評価を行う。
- ② 授業の中で、3つのトピック(旅行と交通、仕事と職業、言語と文化)で口頭発表を行い、「評価基準」と「評価シート」を使って評価する。その他の3つのトピック(自分と家族、買い物、食生活)は、「ふり返しシート」への記入のみとする。
- ③ コースの最終評価として、2つのロールプレイによる口頭テストを行い、コース目標である産出(話す)の能力を測る。「評価基準」は、授業で行った口頭発表に利用したものを使用する。
- ④ 学習者は学習を通じて、日本人の考え方や習慣・文化、自分自身の考え方や自国の習慣・文化について、新しく気づいたことや考えたことなどをトピックごとに「ふり返しシート」に書く。
- ⑤ ポートフォリオを活用して学習成果の評価を行う。

\* 「自己評価チェックリスト」と口頭発表の「評価基準」「評価シート」を、ポートフォリオの【①評価表】に入れる。「ふり返しシート」を、ポートフォリオの【②言語的・文化的体験の記録】に入れる。発表原稿や提示資料、録音した音声などを、ポートフォリオの【③学習の成果】に入れる。

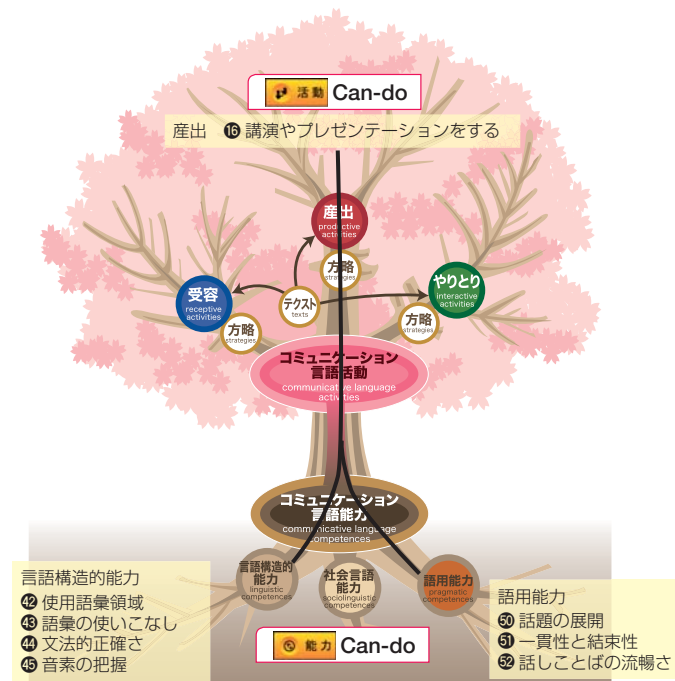
### ① 「自己評価チェックリスト」による自己評価

コースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」使って、学習者が自己評価を行います。リストの作成方法は「2.2 コースデザインに Can-do を使う」で扱います。

### ② トピックごとの口頭発表の評価

6つのトピックのうち、「仕事と職業」「旅行と交通」「言語と文化」の3つのトピックでは、口頭発表を学習者に課し、それを評価の対象にします。評価の観点を設定するため、「JF スタンダードの木」を使います。まず、学習目標や学習活動として扱う言語活動のカテゴリーを確認します。次に、その言語活動を支える言語能力のカテゴリーを考えます。図 2-2 は、**B1** レベルの産出（話す）の言語活動のうち、授業で扱う言語活動と、その言語活動の達成に必要なものとして選んだ言語能力のカテゴリーを示したものです。「評価シート」の作成方法は「2.2 コースデザインに Can-do を使う」で扱います。

図 2-2 産出（話す）の評価の観点として選んだカテゴリー



### ③ コースの最終評価（口頭テスト）

コースの最終評価として、教師と学習者が 1対1 で口頭テストを行います。「手順を述べる」ことができるかどうかを見るために、仕事の職業の場面を設定したロールプレイを1つと、「描写する、対比する」ことができるかどうかを見るために、「買い物」「旅行と交通」「食生活」「言語と文化」の中から、ロールプレイを1つ行います。2つのロールプレイで10分ぐらいの時間が目安になるでしょう。

教師はロールカードを用意し、会話テストでは日本人役になります。学習者は、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく、まとまった内容を独話の形で説明することが目標です。テストは録音し、②で作成した「評価シート」を使って、教師による評価と、学習者による自己評価を行います。

学習者にとっては、授業で口頭発表をした「旅行と交通」「言語と文化」のトピックはやさしく、「買い物」と「食生活」はやや難しく感じられるでしょう。どちらにするかは、学習者のレベルに応じて教師が選んでも、学習者が自分に必要なトピックを考えさせた上で選んでもいいでしょう。

#### ④ふり返りシート

「日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる」というコース目標の成果を確認するために、学習者は毎回、図2-3の「ふり返りシート」に記入しました。そのあとで、ペアやグループで共有しました。

図2-3 ふり返りシート

年 月 日

ふり返りシート 名前: \_\_\_\_\_

<自分と家族 **仕事と職業** 買い物 旅行と交通 食生活 言語と文化>

1 「仕事と職業」の学習が始まる前に記入してください。

日本人の仕事のしかたや、仕事に対する考え方について、知っていることや興味のあることを書いてみましょう。

2 「仕事と職業」の学習が終わったら記入してください。

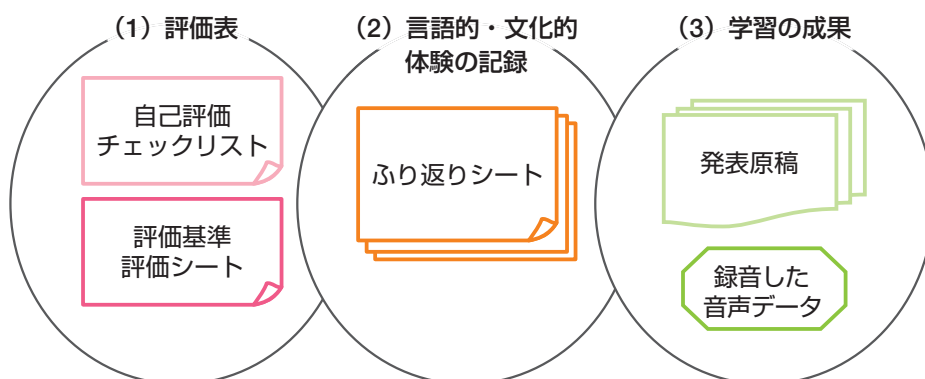
このトピックを学習して、新しく発見したこと、自分の考え方との違い、感じたことなどを書いてみましょう。書いた後に、グループで話し合ってみましょう。

教師のコメント

#### ⑤ポートフォリオによる評価

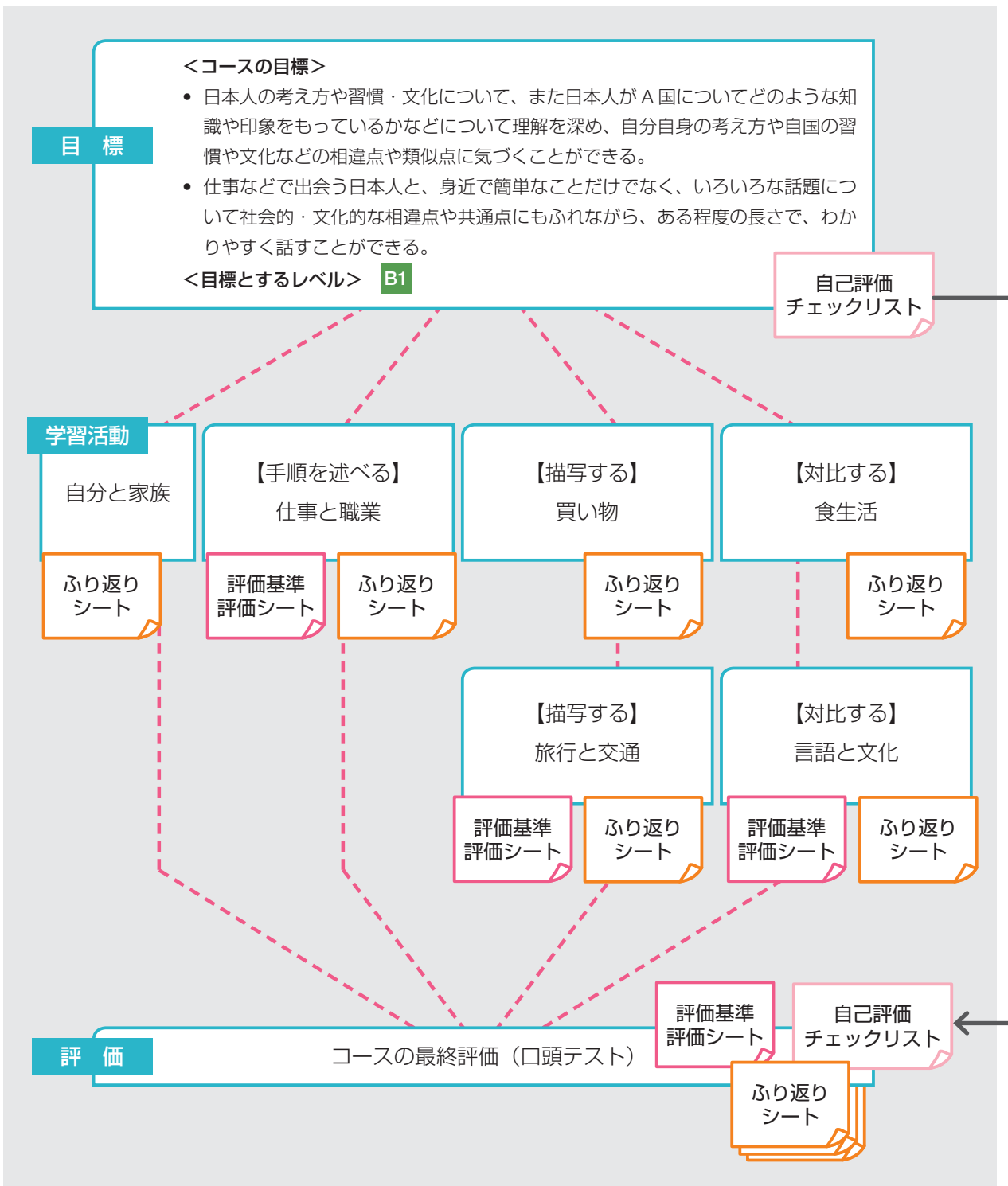
「自己評価チェックリスト、評価基準、評価シート、ふり返りシート、および発表原稿や口頭発表の録音などを整理したもの」をポートフォリオに保管します。保管のし方は、次の図2-4のように構成要素ごとにファイルしてもいいですし、トピックごとに関連するシートをまとめるのもよいでしょう。

図2-4 このコースのポートフォリオの構成



以上、このコースの評価のし方をまとめると図 2-5 になります。

図 2-5 A 国○△□日本語学校のコースの評価の全体像

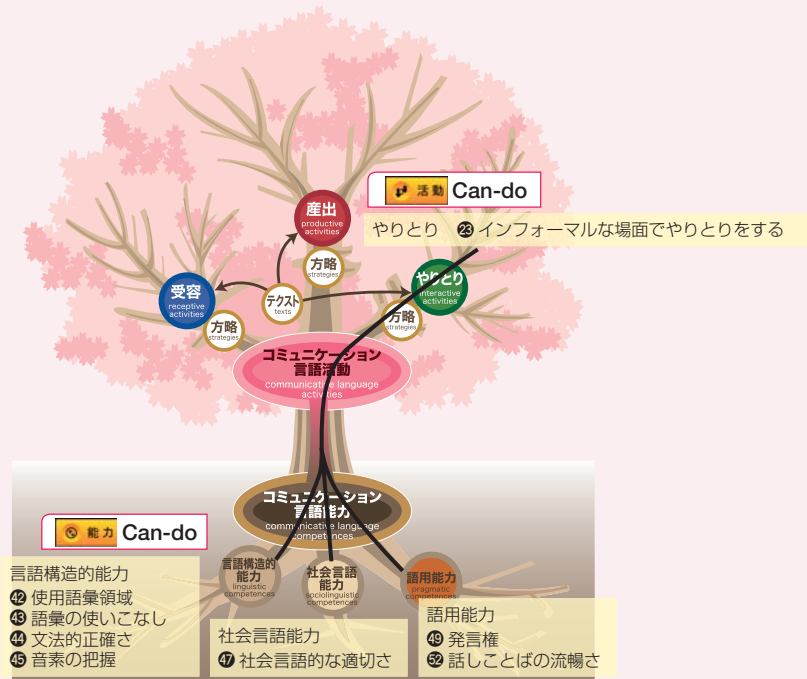




### 【参考1：評価の観点】

**B1** レベルのやりとり（話す）であれば、**50** 話題の展開、**51** 一貫性と結束性のかわりに、**47** 社会的な適切さや **49** 発言権などが評価の観点に含めるとよいでしょう。

図 2-6 やりとり（話す）の評価の観点として選んだカテゴリー



### 【参考2：やりとり（話す）の評価方法】

国際交流基金が開発した JF スタンダード準拠の「ロールプレイテスト」が参考になります。このテストは、JF Can-do を元にしたロールプレイを通して「口頭のやりとり」能力を測ることができます。学習者の能力を JF スタンダードのレベル基準を使って判定でき、各現場や学習者に合わせてカスタマイズができる設計になっています。

**ロールカード**

あなたの町に来た日本人の友だちが、**食材**を買いに行きたいと言っています。あなたが知っている**お店**を紹介し、どんな**店**か、なぜその**店**がいいのかなど、詳しく説明してください。

Your Japanese friend who is visiting your home town says that they would like to go and buy some groceries. Introduce a shop that you know, including details about what kind of shop it is, why you think that shop is a good choice etc.





## 2.2 コースデザインに Can-do を使う

ではここから、A国○△□日本語学校のコースを例として、コースデザインの中での「JFスタンダードの木」やCan-doの次のような活用方法について紹介します。

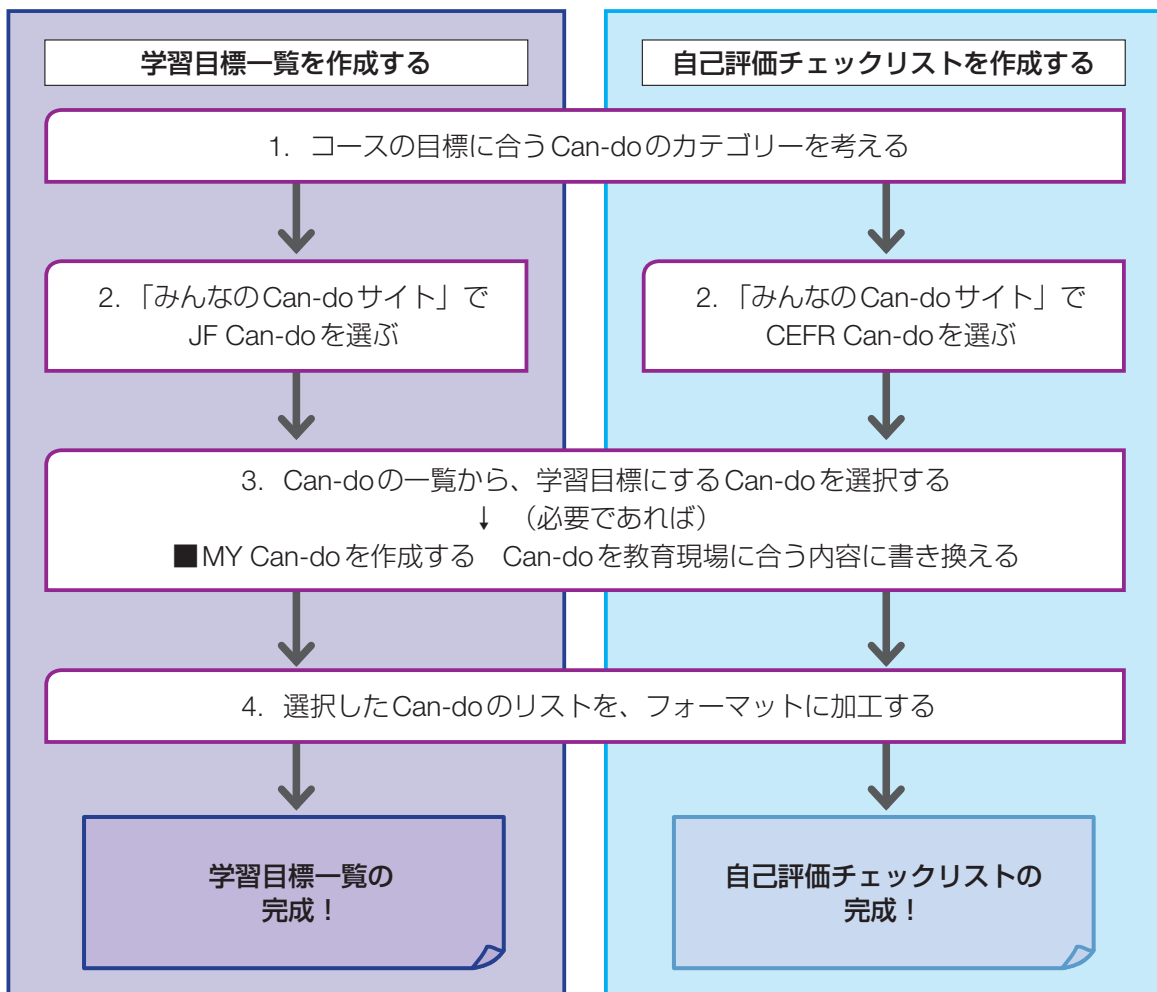
- (1) 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作る
- (2) 話す力を測るための「評価基準」と「評価シート」を作る

### (1) 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作る

Can-doを使って、「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成することにより、学習内容や評価内容がイメージしやすくなり、教師と学習者で共有しやすくなります。学習者は目標を意識化でき、学習の動機付けに役立ちます。JFスタンダードのCan-doは、共通の尺度にもとづいているため、他の機関や他の言語との比較、共有もできるようになります。

学習目標一覧と自己評価チェックリストを作成する全体の流れは、図2-7のようになります。

図2-7 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」作成の流れ

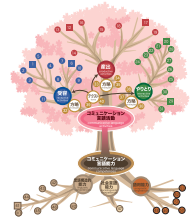


## ■ 「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」

### —学習目標一覧を作成する—

#### 1. コースの目標に合う Can-do のカテゴリーを考える

「JFスタンダードの木」を見ます。このコースの目標は、人にまとまった話を語ることなので、活動 Can-do の中から、産出（話す）を選び、その中から ⑬ 経験や物語を語ると、⑭ 講演やプレゼンテーションをするのカテゴリーを選びます。



#### 2. 「みんなの Can-do サイト」で、該当するトピック、レベル、カテゴリーの JF Can-do を選ぶ



⑬ 経験や物語を語ると ⑭ 講演やプレゼンテーションをするのカテゴリーの Can-do のうち、コースの目標レベルである **B1** で、このコースで取り上げる 6 つのトピック（「自分と家族」、「仕事と職業」、「買い物」、「旅行と交通」、「食生活」、「言語と文化」）の Can-do を選択します。表 2-2 は、「みんなの Can-do サイト」で選択した Can-do（トピックつき）をエクセルファイルに出力した一覧です。

表 2-2 サイトから出力した Can-do（トピックつき）の一覧

| 種別 | レベル | 種類 | 言語活動 | カテゴリー           | Can-do 本文（日本語）                                                           | トピック  |
|----|-----|----|------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|-------|
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る        | 来客に自分の会社の工場などを案内するとき、機械の機能や生産過程などを、ある程度詳しく紹介することができる                     | 仕事と職業 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする | 電気屋などの職場で、あらかじめ準備してあれば、客に電子辞書などの商品について、ある程度詳しく紹介し、想定した質問に答えることができる       | 仕事と職業 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする | ガイドとして有名な観光地などを案内するとき、あらかじめ準備してあれば、名所や名物などを、ある程度詳しく紹介することができる            | 仕事と職業 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る        | お土産を渡しながら、休み中に行った場所や出来事などについて、まとまりのある話を友人に語ることができる                       | 旅行と交通 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る        | 電子辞書など、新しく買い替えた物について、前に持っていた物と比べながら、ある程度詳しく友人に話すことができる                   | 買い物   |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る        | 自分の得意な料理の作り方などを順序だてて友人に説明することができる                                        | 食生活   |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る        | 異文化体験の出来事や感想について、まとまりのある話を友人に語ることができる                                    | 言語と文化 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする | 弁論大会などで、あらかじめ準備してあれば、異文化体験の出来事や感想などを含んだまとまりのある簡単なスピーチをすることができる           | 言語と文化 |
| JF | B1  | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする | 自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる | 言語と文化 |

#### 3. Can-do の一覧から、実際に学習目標にする Can-do を選択する

表 2-2 で選択した Can-do の一覧の中から、授業で目標とする Can-do はどれかを考え、必要なものを選びます。選んだ Can-do の記述内容が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、内容の意図が伝わるよう注意して、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

一覧の中に、目標に合う Can-do が無いときは、これらを参考にしながら、MY Can-do を作成する必要があります。

## ● MY Can-do を作成する

選択した Can-do の一覧を参考にして、具体例や **B1** レベルの記述の特徴を入れて、必要な場合は Can-do のトピックを変えたりしながら、次のような MY Can-do を作成しました。

### 作成した MY Can-do

#### 「自分と家族」

新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。

#### 「仕事と職業」

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

#### 「買い物」

日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。

#### 「旅行と交通」

日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。

#### 「食生活」

日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。

#### 「言語と文化」

日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげてある程度詳しく説明することができる。

## 4. 選択した Can-do の一覧を学習目標一覧のフォーマットに加工する

Can-do の一覧を、目標一覧に加工します。学習者と共有するために、目標一覧には、たとえば以下の項目を記入する欄が必要でしょう。

- (例)
- コースの名前や期間
  - 評価を行うトピック

次の図 2-8 は、学習目標一覧の例です。

図 2-8 学習目標一覧の例

**学習目標**

○△□日本語学校

【コースの目標】

- 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

名前 ( )

| 回  | トピック           | 学習目標                                                                                         |
|----|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション      |                                                                                              |
| 2  | 自分と家族          | 新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。                                                 |
| 3  |                |                                                                                              |
| 4  | 仕事と職業<br>【評価①】 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。 |
| 5  |                |                                                                                              |
| 6  | 買い物            | 日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。    |
| 7  |                |                                                                                              |
| 8  | 旅行と交通<br>【評価②】 | 日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。                                       |
| 9  |                |                                                                                              |
| 10 | 食生活            | 日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。                       |
| 11 |                |                                                                                              |
| 12 | 言語と文化<br>【評価③】 | 日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。                     |
| 13 |                |                                                                                              |
| 14 | まとめ            |                                                                                              |

これで学習目標一覧が完成しました。

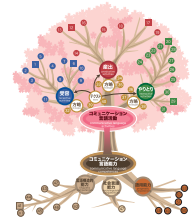
## ■ 「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」

### —自己評価チェックリストを作る—

このコースでは、学習者が自己評価しやすい具体的な活動を示す活動 Can-do と方略 Can-do でリストを作ります。

#### 1. コースの目標に合う Can-do のカテゴリーを考える

「JF スタンドの木の」を見ます。学習目標一覧を作成したときに選んだ2つのカテゴリー **13 経験や物語を語る**、**16 講演やプレゼンテーションをする**の Can-do に加えて、それを達成するのに必要な、方略 Can-do のカテゴリーを選びます。



##### ◆活動 Can-do 産出 (話す)

**13 経験や物語を語る**、**16 講演やプレゼンテーションをする**

##### ◆方略 Can-do 産出

**33 表現方法を考える**、**34 (表現できないことを) 他の方法で補う**、**35 自分の発話をモニターする**

#### 2. 「みんなの Can-do サイト」で、該当するカテゴリーと

##### レベルの JF Can-do を選ぶ



上記の5つのカテゴリーの Can-do のうち、学習者の現時点のレベルである **A2** と、目標とするレベルである **B1** の Can-do を選択します。コースの開始時と終了時に自己評価チェックリストを使うため、トピックが限定されていない CEFR Can-do を選びます。表 2-3 は、「みんなの Can-do サイト」で選択した **B1** の活動 Can-do と B1.1 の方略 Can-do をエクセルファイルに出力した一覧です。

表 2-3 サイトから出力した活動 Can-do と方略 Can-do の一覧

| 種別   | レベル  | 種類 | 言語活動 | カテゴリー               | Can-do本文 (日本語)                                                                                                         |
|------|------|----|------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 物語を語るができる。                                                                                                             |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 現実や想像上の出来事を述べるができる。                                                                                                    |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べるができる。                                                                                  |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。                                                                                     |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べるができる。                                                                                         |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 夢や希望、野心を述べるができる。                                                                                                       |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 本や映画の筋を順序だてて話し、それに対する自分の考えを述べるができる。                                                                                    |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 経験や物語を語る            | 予測不能の出来事 (例えば事故など) を、順序だてて詳細に述べるができる。                                                                                  |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする     | 質問には対応できるが、そのスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼むこともある。                                                                            |
| CEFR | B1   | 活動 | 産出   | 講演やプレゼンテーションをする     | 自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。 |
| CEFR | B1.1 | 方略 | 産出   | 表現方法を考える            | 伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。その際、使える言語能力を総動員して、表現のための手段が思い出せる、あるいは見つかる範囲内にメッセージの内容を限定する。                                 |
| CEFR | B1.1 | 方略 | 産出   | (表現できないことを) 他の方法で補う | 母語を学習対象言語の形に変えて使ってみて、相手に確認を求めることができる。                                                                                  |
| CEFR | B1.1 | 方略 | 産出   | (表現できないことを) 他の方法で補う | 伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。                                                                 |
| CEFR | B1.1 | 方略 | 産出   | 自分の発話をモニターする        | コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて出直すことができる。                                                                                   |
| CEFR | B1.1 | 方略 | 産出   | 自分の発話をモニターする        | 自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。                                                                                          |

### 3. Can-do の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

学習目標や学習内容と深く関連する Can-do を選びます。選んだ Can-do の記述が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。今回は Can-do を書きかえずに、そのまま次のステップに進みます。

### 4. 選択した Can-do の一覧を自己評価チェックリストのフォーマットに加工する

表 2-3 のように Can-do が並んだリストを、自己評価チェックリストに加工します。自己評価チェックリストには、必要な項目を記入する欄を作ります。

(例) ● コースの名前や期間

● 学習者の名前

学習者による自己評価（コース開始時と終了時など、異なる時期に自己評価ができるように複数の欄を作ることがおすすめです。）

● 記入マークの説明

図 2-9 は、作成した自己評価チェックリストの例です。

図 2-9 自己評価チェックリストの例

| 自己評価チェックリスト |                                                                                |    |                               |                                                                                                                       |    |     |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----|
| ○△□日本語学校    |                                                                                |    |                               |                                                                                                                       |    |     |
| 名前:         |                                                                                |    |                               |                                                                                                                       |    |     |
|             | A2                                                                             | 初日 | 最終日                           | B1                                                                                                                    | 初日 | 最終日 |
| 活<br>動      | 出来事や活動の要点を短く述べるができる。                                                           |    |                               | 自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べるができる。                                                                                 |    |     |
|             | 計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べるができる。                                               |    |                               | 事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。                                                                                    |    |     |
|             | 好きか嫌いかを述べるができる。                                                                |    |                               | 自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べるができる。                                                                                        |    |     |
|             | 事柄を列挙して簡単に述べたり、物語るができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べるができる。                 |    |                               | 夢や希望、野心を述べるができる。                                                                                                      |    |     |
|             | 自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして、短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べるができる。 |    |                               | 自分の専門でよく知っている話題について、事前を用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難しく話についていけない程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べるができる。 |    |     |
|             | 話し終えた後、限られた数の簡単な質問に対処することができる。                                                 |    |                               | 質問には対応できるが、そのスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼むこともある。                                                                           |    |     |
| 方<br>略      | 自分のレパートリーの中から適切な表現形を思い出して、使ってみることができる。                                         |    |                               | 伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。使える言語能力を総動員して、表現のための手段が思い出せる、あるいは見つかる範囲内にメッセージの内容を限定する。                                    |    |     |
|             | 手持ちの語彙の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことをはっきりとさせるためにジェスチャーを使うことができる。                       |    |                               | 母語を学習対象言語の形に変えて使ってみて、相手に確認を求めることができる。                                                                                 |    |     |
|             |                                                                                |    |                               | 伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。                                                                |    |     |
|             |                                                                                |    |                               | コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて出直すことができる。                                                                                  |    |     |
|             |                                                                                |    | 自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。 |                                                                                                                       |    |     |

マーク  
 ● 自信がある    ○ できる    △ 難しい    ✓ これからがんばりたい

これで自己評価チェックリストが完成しました。



## (2) 話す力を測るための「評価基準」と「評価シート」を作る

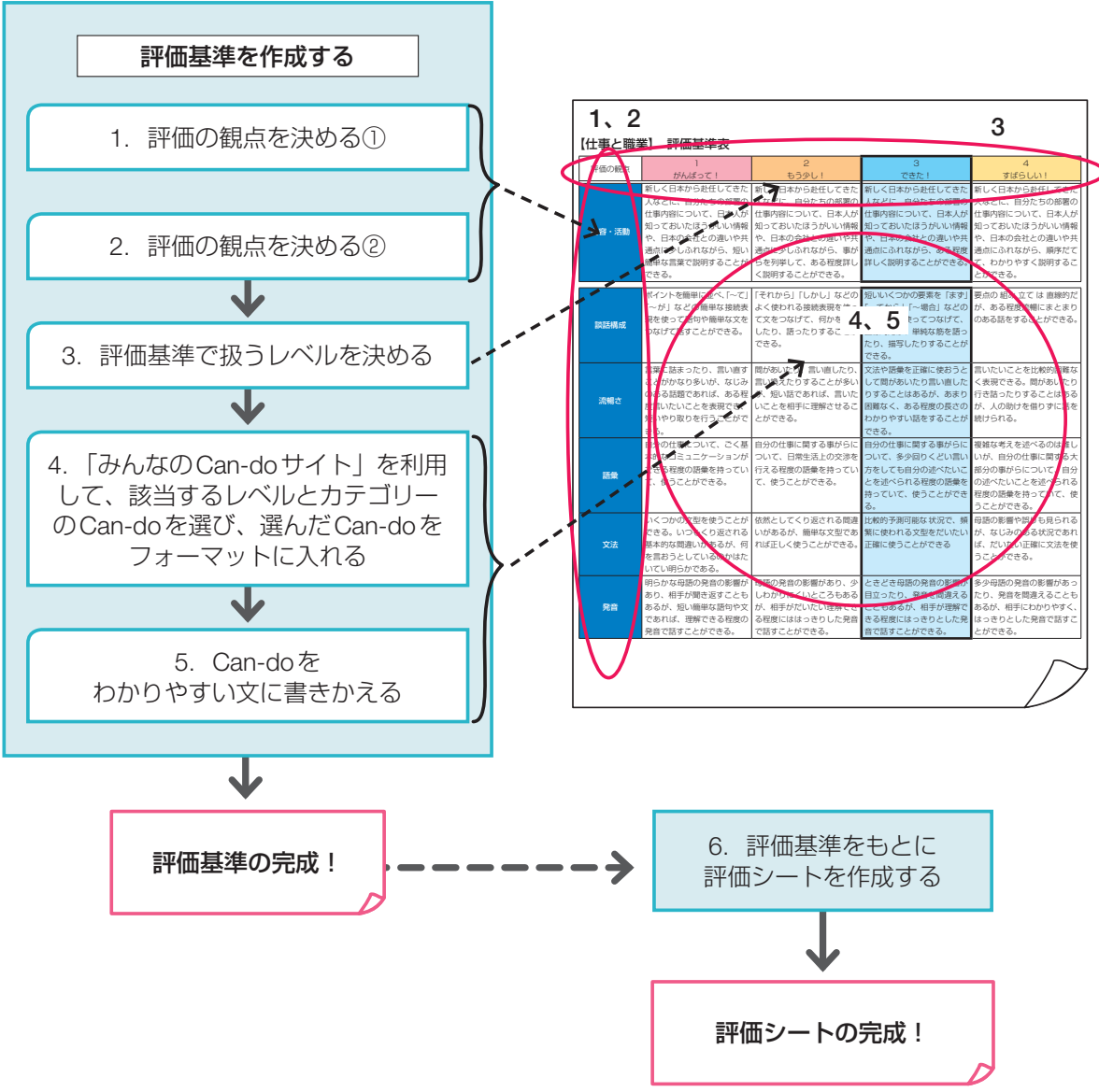
このコースでは、学習する6つのトピックのうち、「仕事と職業」「旅行と交通」「言語と文化」の3つのトピックで口頭発表の評価を行います。ここでは、「仕事と職業」のトピックを例にして、口頭発表の「評価基準」と「評価シート」を作成する流れを見てみましょう。

「仕事と職業」のトピックの学習目標のCan-doは、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる」です。目標を達成できたかどうかを評価するために口頭発表を行います。口頭発表は、次のような状況設定で行います。

「あなたが働いている会社に、新しい社員が日本からやって来ました。あなたは、自分の部署の仕事内容を説明することになりました。どのような仕事をどのように進めているのか、できるだけ詳しく説明してください。日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社と違う点や同じ点などにもふれてください。」

この課題を評価する「評価基準」を作成しましょう。作成の流れは図2-10のようになります。

図 2-10 「評価基準」と「評価シート」作成の流れ



## ■ 「A国 ○△□日本語学校 成人を対象とした日本語コース」

### —評価基準と評価シートを作る—

このコースでは、縦軸に評価の観点、横軸に達成度を配置した以下の表 2-4 のような評価基準フォーマットを使います。

表 2-4 評価基準のフォーマット例

|       |  |     |  |  |
|-------|--|-----|--|--|
|       |  |     |  |  |
| 評価の観点 |  | 達成度 |  |  |
|       |  |     |  |  |
|       |  |     |  |  |
|       |  |     |  |  |
|       |  |     |  |  |
|       |  |     |  |  |

では、評価基準を作成する流れを詳しく見ていきましょう。

### 1. 評価の観点を決める①

まず、学習目標である **B1** レベルの産出（話す）の Can-do が、どのぐらい達成できたかを評価する観点を用意します。この観点は、「内容・活動」と名づけ、異文化理解の視点も含めた、課題の達成度を評価します。この観点には、学習目標である **B1** レベルの活動 Can-do（MY Can-do、P51 参照）をそのまま利用します。

**「仕事と職業」** 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

**「旅行と交通」** 日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。

**「言語と文化」** 日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。

## 2. 評価の観点を決める②

次に、**B1** レベルの産出（話す）の Can-do を達成するために必要な言語能力を評価の観点とします。このコースでは、能力 Can-do の中の以下のようなカテゴリーが重要だと考え、これらを実際の観点として選びました。（P45 図 2-2）

### <能力 Can-do >

- 言語構造的な能力
  - ④2 使用語彙領域
  - ④3 語彙の使いこなし
  - ④4 文法的正確さ
  - ④5 音素の把握
- 語用能力
  - ⑤0 話題の展開
  - ⑤1 一貫性と結束性
  - ⑤2 話しことばの流暢さ

ステップ 1、2 で選んだカテゴリーは、名前が長く難しいものは、適宜わかりやすく書き変えて、評価の観点の欄に記入します。このコースでは、以下のように変更しました。

- 言語構造的な能力
  - ④2 使用語彙領域 ④3 語彙の使いこなし → 2 つまとめて「語彙」
  - ④4 文法的正確さ → 「文法」
  - ④5 音素の把握 → 「発音」
- 語用能力
  - ⑤0 話題の展開 （このまま）
  - ⑤1 一貫性と結束性 （このまま）
  - ⑤2 話しことばの流暢さ → 「流暢さ」

このコースでは、「内容・活動」、「話題の展開」、「一貫性と結束性」、「流暢さ」、「語彙」、「文法」、「発音」の 7 項目を実際の観点とし、表 2-5 の縦軸に配置しました。

表 2-5 評価基準のフォーマット例（評価の観点を記入したもの）

| 評価の観点   |  |  |  |  |
|---------|--|--|--|--|
| 内容・活動   |  |  |  |  |
| 話題の展開   |  |  |  |  |
| 一貫性と結束性 |  |  |  |  |
| 流暢さ     |  |  |  |  |
| 語彙      |  |  |  |  |
| 文法      |  |  |  |  |
| 発音      |  |  |  |  |

### 3. 評価基準で扱うレベルを決める

このコースでは、評価基準の達成度を4段階に設定します（「4 すばらしい」「3 できた」「2 もう少し!」「1 がんばって!」）。このコースの目標レベルである **B1** は、4段階の達成度の「3」に置き、その少し上のレベルを「4」としました。これは、次の目標が見えたほうが、学習者の動機づけにつながるからです。

表 2-6 評価基準のフォーマット例（達成度を記入したもの）

| 評価の観点   | 1<br>がんばって! | 2<br>もう少し! | 3<br>できた! | 4<br>すばらしい! |
|---------|-------------|------------|-----------|-------------|
| 内容・活動   |             |            |           |             |
| 話題の展開   |             |            |           |             |
| 一貫性と結束性 |             |            |           |             |
| 流暢さ     |             |            |           |             |
| 語彙      |             |            |           |             |
| 文法      |             |            |           |             |
| 発音      |             |            |           |             |

なお、このコースでは、目標レベルである **B1** の Can-do と、学習者の現在の熟達度である **A2** の Can-do を利用して、評価基準を作成しましたが、学習者の話す力に大きな差がある場合は、**A2** から **B2** までの Can-do を利用するなど、レベルの幅を検討してください。

### 4. 「みんなの Can-do サイト」を利用して、該当するレベルとカテゴリーの Can-do を選び、選んだ Can-do をフォーマットに入れる



言語構造的能力の ④② 使用語彙領域、④③ 語彙の使いこなし、④④ 文法的正確さ、④⑤ 音素の把握と、語用能力の ⑤① 話題の展開、⑤② 一貫性と結束性、⑤③ 話しことばの流暢さを各 Can-do のうち、**A2** と **B1** レベルのものを「みんなの Can-do サイト」から出力し、表 2-6 のフォーマットの縦軸の項目に配置します。

カテゴリーによっては、**A2** レベル、**B1** レベルが細かいレベル（A2.1、A2.2、B1.1、B1.2）に分かれていないため、2段階の達成度に Can-do が1つしかないこともあります。また、ある1つの段階に複数の Can-do があてはまる場合もありますが、この段階では、そのままフォーマットに入れます。

次の表 2-7 は、「みんなの Can-do サイト」から出力した Can-do 一覧の抜粋です。

表 2-7 サイトから出力した Can-do 一覧の抜粋

| 種別   | レベル  | 種類 | 言語活動        | カテゴリー                 | Can-do 本文 (日本語)                                                                    |
|------|------|----|-------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| CEFR | A2.1 | 能力 | 語用能力        | 一貫性と結束性<br>(ディスコース能力) | "and" 「そして」、"but" 「しかし」、"because" 「～だから」の<br>ような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけること<br>ができる。 |
| CEFR | A2.2 | 能力 | 語用能力        | 一貫性と結束性<br>(ディスコース能力) | 最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物<br>事を語ったり、描写することができる。                                 |
| CEFR | B1   | 能力 | 語用能力        | 一貫性と結束性<br>(ディスコース能力) | 短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直<br>線的に並べて、繋がりをつけることができる。                              |
| CEFR | A2   | 能力 | 言語構造<br>的能力 | 音素の把握                 | 話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らか<br>な外国語訛りが見られるものの、大体的場合、発音は理解でき<br>る程度にははっきりとしている。    |
| CEFR | B1   | 能力 | 言語構造<br>的能力 | 音素の把握                 | 時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体<br>よく理解できるくらいに発音は明瞭である。                               |
| CEFR | A2   | 能力 | 言語構造<br>的能力 | 語彙の使いこなし              | 具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うこと<br>ができる。                                              |
| CEFR | B1   | 能力 | 言語構造<br>的能力 | 語彙の使いこなし              | 複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べよう<br>とすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使<br>いこなせる。             |

表 2-8 は、表 2-7 の Can-do をフォーマットに入れた例です。評価の観点の「内容・活動」は、ステップ 1 で説明したように、「3 できた」の部分に「仕事と職業」トピックの学習目標である MY Can-do が入ります。

表 2-8 サイトから出力した Can-do を評価基準のフォーマットに入れた例

| 評価の観点   | 1<br>がんばって！                                                                                                                   | 2<br>もう少し！                                                       | 3<br>できた！                                                                                                      | 4<br>すばらしい！                                                                                                 |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | A2                                                                                                                            |                                                                  | B1                                                                                                             |                                                                                                             |
| 内容・活動   |                                                                                                                               |                                                                  | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。                   |                                                                                                             |
| 話題の展開   | ポイントを簡単に並べ上げる形で、物事を語ったり事物を記述できる。(A2)                                                                                          |                                                                  | 事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語りや記述ができる。(B1)                                                                         |                                                                                                             |
| 一貫性と結束性 | "and"「そして」、"but"「しかし」、"because"「～だから」のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりを付けることができる。(A2.1)                                                 | 最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。(A2.2)             | 短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりを付けることができる。(B1)                                                          |                                                                                                             |
| 流暢さ     | 言葉に詰まったり、話し始めて言い直すことが目立つて多いが、馴染みのある話題であれば、あまり困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる。(A2.1)                                        | 話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる。(A2.2) | ある程度の長さの、理解可能な発話を行うことができるが、制限を受けない自由な発話で比較的長いものになると特に、談話を続けていく時に文法のおよび語彙的に正確であろうとして間があいたり、発話の修復を行うのが目立つ。(B1.1) | 自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発話を続けることができる。(B1.2)                     |
| 語彙      | ・ 基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。(A2.1 使用語彙領域)<br>・ 生活上の単純な要求に対応できるだけの語彙を持っている。(A2.1 使用語彙領域)                           | 馴染みのある状況や話題に関して、日常的な生活上の交渉・取引を行うのに十分な語彙を持っている。(A2.2 使用語彙領域)      | 家族、趣味や 関心、仕事、旅行、時事問題など、本人の日常生活に関わる大部分の話題について、多少間接的な表現を使ってでも、自分の述べたいことを述べられるだけの語彙を持っている。(B1 使用語彙領域)             |                                                                                                             |
|         | 具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うことができる。(A2 語彙の使いこなし)                                                                                |                                                                  | 複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。(B1 語彙の使いこなし)                                    |                                                                                                             |
| 文法      | いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まって犯す基本的な間違いがある一例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れていたりする傾向がある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいいていの場合明らかである。(A2) |                                                                  | 比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる「繰り返し」やパターンのレパートリーを、割合正確に使うことができる。(B1.1)                                                    | 馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかに分かる。(B1.2) |
| 発音      | 話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体的場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。(A2)                                                   |                                                                  | 時には外国語訛りが目立つたり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。(B1)                                                           |                                                                                                             |



## 5. Can-do をわかりやすい文に書きかえる

評価基準のフォーマットに入れた Can-do を、学習者にもわかりやすい文に書きかえます。学習者の母語で書いてもいいでしょう。達成できていることを前向きな表現で書くことが大切です。それが学習者の動機づけにつながります。

あるカテゴリーの、ある達成度で、複数の Can-do が当てはまる場合は、目標に照らして、それぞれの Can-do から合う内容を抽出し、まとめます。また、複数の達成度に対して Can-do が 1 つしかない場合は、内容を段階づけして分けることが必要になります。

評価の観点のうち、「内容・活動」については、ステップ 1 と 4 で述べたように、学習目標（**B1** レベルの MY Can-do）になっているので、達成度の「3」はそのままの記述を利用します。達成度の「1」「2」「4」への書きかえについては、「**レベル別特徴一覧**」参考資料 3 などを参考にしてください。

ステップ 4 で作った表 2-8 の中の Can-do を見ると、**50 話題の展開**と**51 一貫性と結束性**の Can-do は同じような内容を含んでいるので、最終的に 1 つにまとめて「談話構成」とします。

完成した評価基準の例が、次の図 2-11 です。図 2-11 は、「仕事と職業」トピックの、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる」という目標と、それにもとづく学習活動をふまえた内容になっています。

図 2-11 完成した評価基準の例

【仕事と職業】 評価基準表

| 評価の観点 | 1<br>がんばって!                                                                                     | 2<br>もう少し!                                                                                             | 3<br>できた!                                                                                    | 4<br>すばらしい!                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容・活動 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事らを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。 |
| 談話構成  | ポイントを簡単に並べ、「～で」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。                                          | 「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。                                              | 短いいくつかの要素を「まず」「～で」「～から」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。                   | 要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするができる。                                                             |
| 流暢さ   | 言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。                            | 間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。                                            | 文法や語彙を正確に使おうとて間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするができる。                           | 言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。                                        |
| 語彙    | 自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                                              | 自分の仕事に関する事からについて、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。                                                     | 自分の仕事に関する事からについて、多少回りくどい言い方をして自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                           | 複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事からについて、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                         |
| 文法    | いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。                                  | 依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。                                                               | 比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる                                                        | 母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。                                                   |
| 発音    | 明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。                                | 母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。                                         | ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にははっきりとした発音で話すことができる。                             | 多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。                                       |

## 6. 評価基準をもとに、評価シートを作成する

ステップ5で完成した評価基準をもとに、図2-12のような評価シートを作成します。このコースでは、教師も発表した学習者も図2-12の評価シートを使うことにしました。学習者のレベルによっては、母語やさしい日本語で書いた発表者用を作ったほうがいいでしょう。

学習者は、自分のスピーチを録音したものを授業後に聞いて、チェックします。教師は、スピーチを聞きながらチェックしてもいいですし、録音したものを聞いてチェックしてもかまいません。同じ評価シートを使って、学習者どうしでピア評価をしてもいいでしょう。

図 2-12 評価基準をもとに作成した評価シートの例

|              |                                                                                                 |                                                                                                             |                                                                                              |                                                                                                   |    |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <b>仕事と職業</b> |                                                                                                 | <b>【目標】</b><br>新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。 |                                                                                              |                                                                                                   | 名前 |
| 評価の観点        | 1<br>がんばって！                                                                                     | 2<br>もう少し！                                                                                                  | 3<br>できた！                                                                                    | 4<br>すばらしい！                                                                                       |    |
| 内容・活動        | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事柄を列挙して、ある程度詳しく説明することができる。      | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。 | 新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。 |    |
| 談話構成         | ポイントを簡単に並べ、「～で」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。                                          | 「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。                                                   | 短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。                       | 要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をする事ができる。                                                            |    |
| 流暢さ          | 言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。                            | 間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。                                                 | 文法や語彙を正確に使おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をする事ができる。                         | 言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。                                        |    |
| 語彙           | 自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                                              | 自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。                                                           | 自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                           | 複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。                          |    |
| 文法           | いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返されるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。                                            | 依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。                                                                    | 比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる                                                        | 母語の影響も見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。                                                      |    |
| 発音           | 明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。                                | 母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。                                              | ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手に理解される程度にはっきりとした発音で話すことができる。                              | 母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。                                         |    |
| よかったところ      |                                                                                                 | これからがんばること                                                                                                  |                                                                                              |                                                                                                   |    |

以上、学習目標、自己評価チェックリスト、評価基準、評価シートを作成する過程を紹介しました。評価基準を作成する際には、CEFR で提供している共通参照レベルの「話し言葉の質的側面」参考資料5も参考にできます。

書く力を測るための評価基準や評価シートを作成する場合は、「1.5 ポートフォリオを理解する」で紹介している作文の評価基準や評価シートを参考にしてください。CEFR が提供している「書き言葉の質的側面」は、『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（2013年 キース・モロウ編 研究社）の pp.200-201 に掲載されています。



The background is a solid teal color. Overlaid on this is a large, stylized graphic of a plant with several overlapping, teardrop-shaped leaves. The leaves are rendered in a darker shade of teal, creating a layered effect. The text is centered horizontally and partially overlaid by the leaves.

# 参考資料・文献



# 参考資料

参考資料 1 CEFR 共通参照レベル：自己評価表

|          |             | A1                                                                                                                        | A2                                                                                                            | B1                                                                                                                                    |
|----------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 理解 (かみい) | 聞く (きく)     | はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。                                                            | (ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。<br>短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。 | 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。<br>話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。 |
|          | 読む (よむ)     | 例えば、掲示やポスター、カタログの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。                                                                               | ごく短い簡単なテキストなら理解できる。<br>広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。<br>簡単で短い個人的な手紙は理解できる。        | 非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。<br>起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。                                                           |
| 話す (かた)  | やり取り (やりとり) | 相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。<br>直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。 | 単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。<br>通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。            | 当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいていの状況に対処することができる。<br>例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。                        |
|          | 表現 (ひょうげん)  | どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。                                                                               | 家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単なことばで一連の語句や文を使って説明できる。                                                                  | 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るすることができる。<br>意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。<br>物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。               |
| 書く (かく)  | 書く (かく)     | 新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。たとえばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。                                                         | 直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。<br>短い個人的な手紙なら書くことができる：たとえば礼状など。                                        | 身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。                                                                            |

| B2                                                                                                                                                     | C1                                                                                                                               | C2                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。</p> <p>たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。</p> <p>標準語の映画なら大多数は理解できる。</p>                        | <p>たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているにすぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。</p> <p>特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。</p>                                       | <p>生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。</p>                                                                         |
| <p>筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。</p> <p>現代文学の散文は読める。</p>                                                                                           | <p>長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。</p> <p>自分の関連外の分野での専門の記事も長い技術的説明書も理解できる。</p>                                        | <p>抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、たとえばマニュアルや専門的記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。</p>                                                                        |
| <p>流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。</p> <p>身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。</p>                                                                 | <p>言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。</p> <p>社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。</p> <p>自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。</p> | <p>慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。</p> <p>自分を流暢に表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。</p> <p>表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し、うまく繕うことができる。</p> |
| <p>自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。</p> <p>時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。</p>                                                 | <p>複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って、詳しく論ずることができる。</p> <p>一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。</p>                                                 | <p>状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。</p> <p>効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。</p>                                                                  |
| <p>興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。</p> <p>エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。</p> <p>手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。</p> | <p>適当な長さでいくつかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。</p> <p>自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。</p> <p>読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。</p>      | <p>明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。</p> <p>効果的な論理構成で事情を説明し、その重要点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。</p> <p>仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。</p>               |

参考資料 Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝(訳、編) 朝日出版社 (第二版作成にあたり参考資料中の漢字表記を一部修正した)

参考資料 2 言語能力と言語活動のカテゴリー一覧

| 分類            | No.            | カテゴリー                 | カテゴリーの説明                                                                                                                                |                                                                                            |
|---------------|----------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| コミュニケーション言語活動 | 受容<br>(理解する)   | 1 聞くこと全般              | 聞くことに関する全般的な記述。<br>[CEFR: overall listening comprehension]                                                                              |                                                                                            |
|               |                | 2 母語話者同士の会話を聞く        | 母語話者同士の会話を理解する。<br>[CEFR: understanding conversation between native speakers]                                                           |                                                                                            |
|               |                | 3 講演やプレゼンテーションを聞く     | 講演やプレゼンテーションなどを、その場にいる聴衆として聞く。<br>[CEFR: listening as a member of a live audience]                                                      |                                                                                            |
|               |                | 4 指示やアナウンスを聞く         | 駅の構内放送など公共のアナウンスや、直接自分に向けられた指示を聞く。<br>[CEFR: listening to announcements and instructions]                                               |                                                                                            |
|               |                | 5 音声メディアを聞く           | ラジオ番組などの音声メディアや録音された音声を聞く。<br>[CEFR: listening to audio media and recordings]                                                           |                                                                                            |
|               |                | 6 読むこと全般              | 読むことに関する全般的な記述。<br>[CEFR: overall reading comprehension]                                                                                |                                                                                            |
|               |                | 7 手紙やメールを読む           | 手紙、ファックス、メールなどの通信文を読む。<br>[CEFR: reading correspondence]                                                                                |                                                                                            |
|               |                | 8 必要な情報を探し出す          | 掲示、広告、資料などから、必要となる特定の情報を探し出す。<br>[CEFR: reading for orientation]                                                                        |                                                                                            |
|               |                | 9 情報や要点を読み取る          | 新聞記事や専門的な資料の概要や要点を読み取る。<br>[CEFR: reading for information & argument]                                                                   |                                                                                            |
|               |                | 10 説明を読む              | 取扱説明書や規約など、指示や説明を読む。<br>[CEFR: reading instructions]                                                                                    |                                                                                            |
|               |                | 11 テレビや映画を見る          | テレビ番組や映画など、映像を見ながら音声を聞く。<br>[CEFR: watching TV and film]                                                                                |                                                                                            |
|               | 活動             | 産出<br>(表現する)          | 12 話すこと全般                                                                                                                               | 話すことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall oral production]                                            |
|               |                |                       | 13 経験や物語を語る                                                                                                                             | 自分が経験したこと、知っていること、物語などを語る。<br>[CEFR: sustained monologue: describing experience]           |
|               |                |                       | 14 論述する                                                                                                                                 | ディベートなどで自分の意見、理由や根拠を述べる。<br>[CEFR: sustained monologue: putting a case (e.g. in a debate)] |
|               |                |                       | 15 公共アナウンスをする                                                                                                                           | 公共の場でアナウンスをする。 [CEFR: public announcements]                                                |
|               |                | 16 講演やプレゼンテーションをする    | 講演、スピーチ、プレゼンテーションなど、聴衆に向かって話をする。 [CEFR: addressing audiences]                                                                           |                                                                                            |
|               |                | 17 書くこと全般             | 書くことに関する全般的な記述。<br>[CEFR: overall written production]                                                                                   |                                                                                            |
|               |                | 18 作文を書く              | 自分が経験したこと、知っていること、物語などを書く。<br>[CEFR: creative writing]                                                                                  |                                                                                            |
|               |                | 19 レポートや記事を書く         | 情報をまとめて、レポート、報告書、記事などを書く。<br>[CEFR: reports and essays]                                                                                 |                                                                                            |
|               | やりとり<br>(相互行為) | 20 口頭でのやりとり全般         | 口頭でのやりとりに関する全般的な記述。<br>[CEFR: overall spoken interaction]                                                                               |                                                                                            |
|               |                | 21 母語話者とやりとりをする       | 母語話者を交えたやりとりをする。<br>[CEFR: understanding a native speaker interlocutor]                                                                 |                                                                                            |
|               |                | 22 社交的なやりとりをする        | 挨拶、社交辞令、世間話など、社会的な関係を維持するためのやりとりをする。<br>[CEFR: conversation]                                                                            |                                                                                            |
|               |                | 23 インフォーマルな場面でやりとりをする | 友人・知人とのインフォーマルな場面で、相談や意見交換をする。<br>[CEFR: informal discussion (with friends)]                                                            |                                                                                            |
|               |                | 24 フォーマルな場面で議論する      | 会議やディベートなどフォーマルな場面で議論をする。<br>[CEFR: formal discussion and meetings]                                                                     |                                                                                            |
|               |                | 25 共同作業中にやりとりをする      | イベントの企画や引越など、人との共同作業中にやりとりをする。<br>[CEFR: goal-oriented co-operation (e.g. repairing a car, discussing a document, organising an event)] |                                                                                            |
|               |                | 26 店や公共機関でやりとりをする     | 店や駅、役所、銀行などの公共機関で、商品やサービスを得るためにやりとりをする。<br>[CEFR: transactions to obtain goods and services]                                            |                                                                                            |
|               |                | 27 情報交換する             | 何かのために必要な、実質的な情報を交換する。<br>[CEFR: information exchange]                                                                                  |                                                                                            |

| 分類               | No.                                                      | カテゴリー                                             | カテゴリーの説明                                                                   |                                                                                     |                                                            |
|------------------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 方<br>略           | 28                                                       | インタビューする／受ける                                      | インタビューをしたり、受けたりする。病院での診察も含まれる。 [CEFR: interviewing and being interviewed]  |                                                                                     |                                                            |
|                  | 29                                                       | 文書でのやりとり全般                                        | 文書を使ったやりとりに関する全般的な記述。 [CEFR: overall written interaction]                  |                                                                                     |                                                            |
|                  | 30                                                       | 手紙やメールのやりとりをする                                    | 手紙、ファックス、メールなどでやりとりをする。 [CEFR: correspondence]                             |                                                                                     |                                                            |
|                  | 31                                                       | 申請書類や伝言を書く                                        | 申請書類やアンケートなど、提示された書式に応じて記入したり、伝言メモを書いたりする。 [CEFR: notes, messages & forms] |                                                                                     |                                                            |
|                  | 受<br>容                                                   | 32                                                | 意図を推測する                                                                    | 文脈から手がかりを発見し、意味や意図を推測する。 [CEFR: identifying cues and inferring (spoken & written)]  |                                                            |
|                  |                                                          | 33                                                | 表現方法を考える                                                                   | 伝えたいことをどのように表現するか考える。 [CEFR: planning]                                              |                                                            |
|                  | 産<br>出                                                   | 34                                                | (表現できないことを) 他の方法で補う                                                        | 適切に言い表せないことを、他の表現で言い換えたり、ジェスチャーで補ったりする。 [CEFR: compensating]                        |                                                            |
|                  |                                                          | 35                                                | 自分の発話をモニターする                                                               | 自分の発話をモニターし、誤りを修正したり、言い直したりする。 [CEFR: monitoring and repair]                        |                                                            |
|                  | や<br>り<br>と<br>り                                         | 36                                                | 発言権を取る (ターン・テイキング)                                                         | 適切に発言権 (ターン) を取って、会話を始め、続け、終わらせる。 [CEFR: taking the floor (turn-taking)]            |                                                            |
|                  |                                                          | 37                                                | 議論の展開に協力する                                                                 | 相手の話に自分の話を関連づけたり、これまでの流れを確認したりして、会話や議論の展開に協力する。 [CEFR: co-operating]                |                                                            |
|                  |                                                          | 38                                                | 説明を求める                                                                     | 理解できなかったことを確認したり、より詳しい説明を求めたりする。 [CEFR: asking for clarification]                   |                                                            |
|                  | テ<br>ク<br>ス<br>ト                                         | 39                                                | メモやノートを取る                                                                  | 人の話を聞いてメモを取ったり、講義やセミナーなどでノートを取ったりする。 [CEFR: note-taking (lectures, seminars, etc.)] |                                                            |
|                  |                                                          | 40                                                | 要約したり書き写したりする                                                              | テキストの内容を要約したり、重要な点を書き写したりする。 [CEFR: processing text]                                |                                                            |
|                  | コ<br>ム<br>ニ<br>ケ<br>ー<br>シ<br>ョ<br>ン<br>言<br>語<br>能<br>力 | 言<br>語<br>構<br>造<br>的<br>能<br>力                   | 41                                                                         | 使える言語の範囲                                                                            | 語彙、文法、音声、識字など使用可能な範囲について。 [CEFR: general linguistic range] |
| 42               |                                                          |                                                   | 使用語彙領域                                                                     | 語彙知識の広さ。 [CEFR: vocabulary range]                                                   |                                                            |
| 43               |                                                          |                                                   | 語彙の使いこなし                                                                   | 語彙知識を使いこなす能力。 [CEFR: vocabulary control]                                            |                                                            |
| 44               |                                                          |                                                   | 文法的正確さ                                                                     | 文法的な正確さ。 [CEFR: grammatical accuracy]                                               |                                                            |
| 45               |                                                          |                                                   | 音素の把握                                                                      | 発音やイントネーションの知識とそれを使いこなす技能。 [CEFR: phonological control]                             |                                                            |
| 46               |                                                          |                                                   | 正書法の把握                                                                     | つづり、書記法、句読点の使い方などの知識とそれを使いこなす技能。 [CEFR: orthographic control]                       |                                                            |
| 社会言語能力           |                                                          | 47                                                | 社会言語的な適切さ                                                                  | 社会言語的な適切さ。 [CEFR: sociolinguistic appropriateness]                                  |                                                            |
| 語<br>用<br>能<br>力 |                                                          | デ<br>ィ<br>ス<br>コ<br>ー<br>ス<br>能<br>力              | 48                                                                         | 柔軟性                                                                                 | 場面や聞き手に応じて内容、話し方を調整する能力。 [CEFR: flexibility]               |
|                  |                                                          |                                                   | 49                                                                         | 発言権                                                                                 | 発言を始め、続け、終わらせる能力。 [CEFR: turn-taking]                      |
|                  |                                                          |                                                   | 50                                                                         | 話題の展開                                                                               | 論点を並べたり、展開したりする能力。 [CEFR: thematic development]            |
|                  | 51                                                       |                                                   | 一貫性と結束性                                                                    | 接続表現や結合表現を使ってテキストを構成する能力。 [CEFR: coherence and cohesion]                            |                                                            |
|                  | 機<br>能<br>的<br>能<br>力                                    | 52                                                | 話しことばの流暢さ                                                                  | はっきりと発音し、会話を続けたり、行き詰った時に対処したりする能力。 [CEFR: spoken fluency]                           |                                                            |
| 53               | 叙述の正確さ                                                   | 明確に考えや事柄を言語化する能力。 [CEFR: propositional precision] |                                                                            |                                                                                     |                                                            |

参考資料 Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

参考資料 3-1 Can-do のレベル別特徴一覧【受容（理解する）】

|    | 条件                                                                                                                                                                                                                 | + | 話題・場面                                                                                                                                                                 | + | 対象                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | + | 行動                                                                                                                                                                                                                                     |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| C2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>母語話者にかなり速いスピードで話されても</li> </ul>                                                                                                                                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い分野にわたって</li> </ul>                                                                                                          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生であれ、放送であれ、あらゆる種類の話しことば</li> <li>かなり程度の高い口頭表現や方言的な慣用表現、馴染みの薄い専門用語を利用した専門の講義やプレゼンテーション</li> <li>あらゆる形式の書きことば</li> <li>長い複雑なテキスト</li> </ul>                                                                                                                                               |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>難なく理解できる</li> <li>実質的に理解して批判的に解釈できる</li> </ul>                                                                                                                                                  |
| C1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>耳慣れない話し方の場合には、ときどき細部を確認する必要があるが</li> <li>いくつかの非標準的な表現があっても</li> <li>難しい箇所を読み返すことができれば</li> <li>辞書をときどき使えば</li> </ul>                                                        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の専門分野に関連していなくても</li> <li>社会、専門、学問の分野</li> <li>自分の専門外の抽象的で複雑な話題</li> </ul>                                                    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>長い発話</li> <li>録音され、放送された広範囲な音声素材</li> <li>相当数の俗語や慣用表現のある映画</li> <li>ある程度長い、複雑なテキスト</li> <li>幅広い慣用表現や口語表現のテキスト</li> </ul>                                                                                                                                                                |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>容易に理解できる</li> <li>中身を詳細に理解できる</li> </ul>                                                                                                                                                        |
| B2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば（専門外であっても）(B2.2)</li> <li>話の方向性が明示的な標識で示されていれば (B2.1)</li> <li>少し努力すれば (B2.1)</li> <li>標準語で普通のスピードで話されていれば</li> <li>難しい箇所を読み返すことができれば</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な話題でなくとも(B2.2)</li> <li>個人間、社会、専門、学問の世界で普段出合う話題 (B2.2)</li> <li>幅広い専門的な話題</li> <li>自分の興味のある分野</li> <li>具体的／抽象的な話題</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>母語話者同士の活気に富んだ会話 (B2.2)</li> <li>非常に専門的な資料 (B2.2)</li> <li>自分の周りで話されていること (B2.1)</li> <li>内容的にも言語的にも複雑な話</li> <li>学問的／専門的なプレゼンテーション</li> <li>たいていのテレビのニュースや時事問題の番組</li> <li>ドキュメンタリー、生のインタビュー、トークショー、演劇、大部分の映画</li> <li>長い複雑なテキスト</li> <li>情報や記事、レポート</li> </ul>                         |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>母語話者の会話についていくことができる (B2.2)</li> <li>情報、考え、意見を読み取ることができる (B2.2)</li> <li>流れを理解できる (B2.1)</li> <li>要点を理解できる</li> <li>独力で読み解くことができる</li> <li>重要事項を見定めることができる</li> <li>内容やその重要度をすぐに把握できる</li> </ul> |
| B1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き慣れた話し方で、発音もはっきりとしていれば (B1.2)</li> <li>話し方がゆっくりとはっきりとしていれば (B1.1)</li> <li>話が標準的なことばで、発音もはっきりとしていれば</li> </ul>                                                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日や普段の仕事上の話題 (B1.2)</li> <li>身近な話題 (B1.1)</li> <li>仕事、学校、余暇などの場面で普段出合う、ごく身近な事柄 (B1.1)</li> <li>自分の専門分野や興味のある話題</li> </ul>      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>簡潔で明確な構成のプレゼンテーション、講義、話 (B1.2)</li> <li>多くのテレビ番組（インタビュー、短い講演、ニュースレポート）(B1.2)</li> <li>簡単な短い話 (B1.1)</li> <li>ラジオの短いニュースや、比較的簡単な内容の録音された素材 (B1.1)</li> <li>かなりの映画、テレビ番組 (B1.1)</li> <li>日常の資料（手紙、パンフレット、短い公文書）(B1.1)</li> <li>簡単な新聞記事 (B1.1)</li> <li>簡単な専門的情報</li> <li>詳細な指示</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>内容をおおいた理解できる (B1.2)</li> <li>要点を理解できる (B1.1)</li> <li>重要点を取り出すことができる (B1.1)</li> <li>理解できる</li> <li>出来事、感情、希望の表現を理解することができる</li> </ul>                                                          |

|    | 条件                                                                                                                                                                              | + | 話題・場面                                                                                                                                                      | + | 対象                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | + | 行動                                                                                                                                                                                      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 簡単なことばで表現されていれば (A2.2)</li> <li>• 映像が実況のほとんどを説明してくれるならば (A2.2)</li> <li>• ゆっくりとはっきりと話されれば</li> </ul>                                   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的で身近な事柄 (A2.2)</li> <li>• 最も直接的な優先事項の領域 (ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、雇用) (A2.1)</li> <li>• 予測可能な日常の事柄</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常の手紙やファックス (照会、注文、確認) (A2.2)</li> <li>• 短い個人の手紙 (A2.1)</li> <li>• 短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンス</li> <li>• 日常の看板や掲示 (道路、レストラン、鉄道の駅などの看板、指示、危険警告などの掲示)</li> <li>• 日常の簡単な資料 (広告、メニュー、時刻表)</li> <li>• 日常の簡単なテキスト (手紙、パンフレット、新聞の短い事件記事)</li> <li>• テレビのニュース番組</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる (A2.2)</li> <li>• 内容を大まかに理解できる (A2.1)</li> <li>• 話題が理解できる</li> <li>• 要点が理解できる</li> <li>• 必要な情報を取り出すことができる</li> </ul> |
| A1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 意味が取れるように長い区切りをおいて、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば</li> <li>• 当人に向かって、丁寧にゆっくりと話されれば</li> <li>• 必要であれば読み直したりしながら</li> <li>• 視覚的な補助があれば</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日常のよくある状況で</li> </ul>                                                                                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 短い簡単な説明、指示、情報</li> <li>• 非常に短い簡単なテキスト</li> <li>• 簡単な掲示の中にある身近な名前や語、基本的な表現</li> </ul>                                                                                                                                                                              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一文一節ずつ理解することができる</li> <li>• 概要を把握することができる</li> </ul>                                                                                           |

\* (括弧) 内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

- 参考資料 Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝 (訳、編) 朝日出版社  
 Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝 (訳、編) 朝日出版社



参考資料 3-2 Can-do のレベル別特徴一覧【産出（表現する）】

|    | 条件                                                                     | + | 話題・場面                                                                                                                          | + | 対象                                                                                                                                                                                               | + | 行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|------------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| C2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 話題について知識のない聴衆に対しても</li> </ul> |   |                                                                                                                                |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 記憶に残るような経験談</li> <li>• 論理的な構造を持った、流れのよいスピーチ</li> <li>• 複雑なテキスト</li> <li>• 明瞭で流れるような、複雑なレポート、記事、エッセイ</li> <li>• 実情説明、提案、文学作品の批評文</li> </ul>              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 明瞭で滞りなく、詳しく話す／書くことができる</li> <li>• 読者に重点がわかるように、適切で効果的に論理を構成することができる</li> <li>• 聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化できる</li> <li>• 自信を持ってはっきりと発表できる</li> <li>• そのジャンルに適切な文体で書き、読み手を完全に引き込むことができる</li> </ul>                                                                                                                   |
| C1 |                                                                        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 複雑な話題</li> </ul>                                                                      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーション</li> <li>• 明瞭な、きちんとした構造を持ったプレゼンテーション、テキスト</li> <li>• 的確な構成と展開を持つ描写文や創造的なテキスト</li> </ul>                                             |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 論点を展開し、立証できる</li> <li>• 補助事項、理由、関連事例を詳しく説明できる</li> <li>• 読者として想定した相手にふさわしい自然な文体で書くことができる</li> <li>• 明瞭かつ詳細に述べることができる</li> <li>• 下位テーマをまとめ、要点を展開して、適切な結論で終わらせることができる</li> </ul>                                                                                                                              |
| B2 |                                                                        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題</li> <li>• 一般的な話題のほとんど</li> <li>• 自分の関心がある専門分野の多様な話題</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーション (B2.2)</li> <li>• 事前に用意されたプレゼンテーション (B2.1)</li> <li>• 映画、本、演劇の批評 (B2.1)</li> <li>• 明瞭で詳しいテキスト</li> <li>• エッセイやレポート</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 適切に要点を強調し、補足事項を詳しく取り上げて、整然と論拠を展開できる (B2.2)</li> <li>• 非常に流暢に、楽に表現できる (B2.2)</li> <li>• 当該ジャンルの書式習慣に従って詳細に記述することができる (B2.2)</li> <li>• 根拠を提示しながら、利点と不利な点、賛成や反対の理由を挙げて、説明できる (B2.1)</li> <li>• いろいろなところから集めた情報や議論をまとめることができる (B2.1)</li> <li>• 明確で詳しく述べるができる</li> <li>• いろいろな情報や議論を評価したうえで書くことができる</li> </ul> |



|    | 条件                                                                                                | 話題・場面                                                                                                                                                                                                                  | 対象                                                                                                                                                                                  | 行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>練習しておけば</li> <li>アクセントとイントネーションにはかなり耳慣れない部分もあるが</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の専門範囲の日常的／非日常的な事柄 (B1.2)</li> <li>日常的な事柄 (B1.1)</li> <li>意見、計画、行動 (B1.1)</li> <li>自分の関心のあるさまざまな話題</li> <li>現実や想像上の出来事、経験</li> <li>事故などの予測不能の出来事</li> <li>夢や希望、野心</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>短い、簡単なエッセイ (B1.2)</li> <li>極めて短い報告文 (B1.1)</li> <li>ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーション</li> <li>本や映画の筋</li> <li>単純につながりあわせたテキスト</li> <li>物語</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>集めた事実情報をもとに総括し、報告できる (B1.2)</li> <li>ある程度の自信を持って自分の意見を提示できる (B1.2)</li> <li>事実を述べ、理由を説明することができる (B1.1)</li> <li>標準的な常用形式に沿って書くことができる (B1.1)</li> <li>自分の感情や反応を描写することができる</li> <li>自分の考えを述べることができる</li> <li>夢、希望、野心を述べることができる</li> <li>順序だてて詳細に述べることができる</li> <li>比較的流暢に事柄を直線的に並べて述べるができる</li> </ul> |
| A2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手が集中して聞いてくれれば、練習したうえで</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の毎日の生活に直接関連のある話題 (A2.2)</li> <li>計画、準備、習慣、日々の仕事、過去の活動や個人の経験 (A2.2)</li> <li>家族、住居環境、学歴、現在やごく最近までしていた仕事 (A2.1)</li> <li>人物や生活、職場環境、日課、好き嫌いなど</li> <li>予測可能で身近な内容の事柄</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>短いプレゼンテーション (A2.2)</li> <li>短い基本的なプレゼンテーション (A2.1)</li> <li>単純な記述やプレゼンテーション</li> <li>短いアナウンス</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>要点を短く述べるができる (A2.2)</li> <li>事柄を列挙して、簡単に述べるができる (A2.2)</li> <li>好きか嫌いかを述べるができる (A2.2)</li> <li>文を連ねて書くことができる (A2.2)</li> <li>簡単なことばで述べることができる (A2.1)</li> <li>簡単な句や文を連ねて書くことができる (A2.1)</li> <li>簡単な字句や文を並べて話すことができる</li> <li>「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげて書くことができる</li> </ul>                     |
| A1 |                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>人物や場所について</li> <li>自分や想像上の人々について (どこに住んでいるか、何をしているか)</li> </ul>                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>非常に短い、準備して練習した表現 (話し手の紹介や乾杯の発声)</li> <li>簡単な表現、句や文</li> </ul>                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>読み上げることができる</li> <li>単純な字句を並べて、述べるができる</li> <li>単独に書くことができる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                              |

\* (括弧) 内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

参考資料 Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Council of Europe (2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝(訳、編)朝日出版社  
 Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝(訳、編)朝日出版社

参考資料 3-3 Can-do のレベル別特徴一覧【やりとり（相互行為）】

|    | 条件                                                                                                                          | + | 話題・場面                                                                                                                                                                                           | + | 対象                                                                                                                                 | + | 行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| C2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>母語話者と比べても引けをとらず</li> <li>標準的でない話し方や言い方に慣れれば</li> </ul>                               |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会や個人生活全般にわたって</li> <li>自分の専門分野を超えた専門家の抽象的な複雑な話題</li> </ul>                                                                                              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>慣用的な表現や口語表現</li> <li>複雑な議論</li> <li>明確で説得力のある議論</li> </ul>                                  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>（慣用的表現や口語表現を）使いこなすことができる</li> <li>的確に修飾を加え、細かいニュアンスまで伝えることができる</li> <li>堂々と、非常に流暢に話や対話を組み立てることができる</li> <li>言語上の制限もなく、ゆとりをもって、適切に、自由に会話ができる</li> <li>自己主張できる</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |
| C1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>助け船を出さなくても</li> <li>馴染みのない話し方の場合にとどき詳細を確認する必要がある</li> </ul>                          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>抽象的かつ複雑で身近でない話題</li> <li>自分の専門分野外の話題</li> </ul>                                                                                                          |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>専門家による抽象的な複雑な話</li> <li>インタビュー</li> <li>ディベートでの第三者間の複雑な対話</li> <li>個人的な通信</li> </ul>        |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>はっきりと正確に表現することができる</li> <li>らくらくと流暢に、自然に言いたいことを表現できる</li> <li>（インタビューに）完全に参加することができる</li> <li>（ディベートに）容易についていくことができる</li> <li>なめらかに議論点を発展させることができる</li> <li>感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、柔軟に対応することができる</li> </ul>                                                                                                                                                    |
| B2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>話し方を全く変えない複数の母語話者との議論に加わるのは難しいかもしれないが、多少の努力をすれば (B2.1)</li> <li>騒音のある環境でも</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一般的、学術的、職業上、余暇に関する幅広い話題 (B2.2)</li> <li>生活上のさまざまなトラブルに対して (B2.2)</li> <li>自分の職業上の役割に関するあらゆる事柄 (B2.2)</li> <li>たいていの話題</li> <li>自分の専門分野に関連した事柄</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な情報や助言 (B2.2)</li> <li>母語話者との活発な議論 (B2.2)</li> <li>インタビュー (B2.2)</li> <li>長い会話</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>議論の複雑な道筋を理解して、自信を持って反応できる (B2.2)</li> <li>うまく交渉の話し合いができる (B2.2)</li> <li>（インタビューを）なめらかに効果的に行うことができる (B2.2)</li> <li>自分の考えや意見をはっきりと説明し、主張できる (B2.1)</li> <li>多くの情報源からの情報と論拠を統合して報告できる (B2.1)</li> <li>代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる (B2.1)</li> <li>（会話に）積極的に参加できる</li> <li>論点や問題の概略をはっきりと述べるができる</li> <li>効果的に書いて表現でき、他の人の書いたものにも関連づけることができる</li> </ul> |

|    | 条件                                                                                                                                                                                                                                                                      | 話題・場面                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 対象                                                                                                                                                                                                         | 行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>時には言いたいことが言えないこともあるが</li> <li>ディベートに参加するのは難しいが</li> <li>時にはくり返しを求めることもあるが</li> <li>相手が標準的な言葉遣いではっきりと発音してくれる</li> <li>話が自分に向けられていれば</li> </ul>                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な話題 (B1.2)</li> <li>音楽や映画のような抽象的、文化的話題 (B1.2)</li> <li>興味のある話題 (B1.1)</li> <li>身近で個人的関心のある事柄 (B1.1)</li> <li>日常生活に関連する話題 (家族、趣味、仕事、旅行) (B1.1)</li> <li>自分の専門分野に関する話題</li> <li>身近な話題</li> <li>具体的／抽象的な話題</li> <li>あまり日常的では起きない状況 (気に入らなかった品を返品するなど)</li> <li>旅行中に起きそうなこと</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な情報 (B1.2)</li> <li>友人との非公式の議論 (B1.1)</li> <li>簡単に事実に基づく情報 (B1.1)</li> <li>会話や議論</li> <li>個人的な手紙</li> <li>情報や意見</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報を交換、チェックし、確認できる (B1.2)</li> <li>代案を比較し、対照できる (B1.2)</li> <li>他人の見方に短いコメントをすることができる (B1.2)</li> <li>個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる (B1.1)</li> <li>信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現できる (B1.1)</li> <li>理由をあげて説明することができる (B1.1)</li> <li>(会話に) 参加し、続けることができる</li> <li>驚き、悲しみなどの感情を表現し、また相手の感情に反応することができる</li> <li>自分が重要だと思う点を相手に理解させることができる</li> <li>苦情を言うことができる</li> <li>(旅行中に起こるたいていの状況に) 対処することができる</li> </ul> |
| A2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要がある場合に相手が助けてくれれば、(A2.2)</li> <li>議論がゆっくりとはっきりとなされれば (A2.2)</li> <li>はっきり、ゆっくりと、自分に直接向けられた発話ならば (A2.1)</li> <li>必要な場合に鍵となるポイントを繰り返しもらえるならば (A2.1)</li> <li>地図や図を参照しながら (A2.1)</li> <li>ときどきくり返しや言いかえを求めることが許されるのであれば</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の周りで議論されている話題 (A2.2)</li> <li>旅行、宿泊、食事、買い物のような毎日の生活での普通の状況 (A2.2)</li> <li>日常の課題に関して (A2.1)</li> <li>仕事中や自由時間に関わる身近な毎日の事柄 (A2.1)</li> <li>直接必要なこと</li> <li>予測可能な日常の状況で</li> <li>身近な話題</li> <li>興味のある話題</li> </ul>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>短い会話 (A2.2)</li> <li>簡単な説明や指示 (A2.2)</li> <li>考えや情報 (A2.2)</li> <li>簡単な情報 (A2.1)</li> <li>非常に短い社交的なやりとり (A2.1)</li> <li>短い、簡単なメモや伝言</li> <li>ごく簡単な個人的な手紙</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(考えや情報を) 交換し、質問に答えることができる (A2.2)</li> <li>会話に参加できる (A2.2)</li> <li>他の人の意見に賛成や反対ができる (A2.2)</li> <li>会う約束をすることができる (A2.1)</li> <li>好き嫌いを言うことができる (A2.1)</li> <li>日用品やサービスを求めたり、提供したりできる (A2.1)</li> <li>食事を注文することができる (A2.1)</li> <li>行き方を聞いたり、教えたりすることができる。切符を買うことができる (A2.1)</li> <li>(メモ、伝言、手紙を) 書くことができる</li> </ul>                                                                       |
| A1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接自分に話が向けられれば</li> </ul>                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>直接必要なこと</li> <li>ごく身近な話題</li> <li>自分自身や他人に関して (住まい、知人、所有物など)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的に単純な必要性を満たすための日常の表現</li> <li>短い簡単な質問、説明、指示</li> <li>短い簡単なはがき</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な方法でやりとりができる</li> <li>聞いたり答えたりすることができる</li> <li>(短い簡単なはがきを) 書くことができる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

\* (括弧) 内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

参考資料 Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝 (訳、編) 朝日出版社  
 Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝 (訳、編) 朝日出版社

参考資料 4 能力 Can-do 一覧

| レベル | A2                                                                             |                                                                                                  | B1                                                                                                                                                     |                                                                                           | B2                                                                             |                                            | C1                                                                     | C2                                                                                                        |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | A2.1                                                                           | A2.2                                                                                             | B1.1                                                                                                                                                   | B1.2                                                                                      | B2.1                                                                           | B2.2                                       |                                                                        |                                                                                                           |
|     | 非常に基本的な範囲で、自分自身に関することや、具体的な要求を満たすための単純な表現を知っている。                               | たいいていの場合、言いたいことを内容的に妥協・制限したり、言葉を探したりする必要はあるが、予測可能な日常的状況に本人が対応するために必要な、基本的な言語のレパートリーを持っている。       | 何とか生活できるだけの言語能力は持っている。語彙的な幅の狭さのために発音内容に繰り返しが生じたり、なかなか内容を言語化できなかつたりすることもあるが、多少詰まったり回りくどかったりしても、家族や趣味や、興味のあること、仕事、旅行、そして時事問題などについて、述べることで、さるだけの語彙を持っている。 | 予想外の状況を描写できるだけの十分な言語の幅を持っており、ある程度正確さで考えや問題の主要点を説明することができ、抽象的な内容や、音楽や映画と関連しても考えを述べることができる。 | 言葉を探していることをそれほど感じず、明確な描写や、自分の視点の表明、議論の組み立てが十分に可能だけの言語の幅を持っており、複雑な文構造で使えるものもある。 | 自分が言いたいことを明確に述べることができ、その内容を制限している感はそれほどない。 | 自分が言いたいことを明確に言語化するために、幅広い使用可能な言語の範囲から適切な表現を選ぶことができ、その内容を制限する必要がほとんどない。 | 正確に自分の考えを言語化したり、特定の点を強調したり、区別したり、あいまいさを除いたりするために、包括的で現実な、非常に幅広い習熟した言語の範囲を利用することができる。発言内容を制限する必要は全く感じられない。 |
|     | 基本的な構文を使うことができ、いくつかの単語や覚えた言い回しを使って、自分自身や他人について、職業、特定の場所、持ち物などに関してコミュニケーションできる。 | 算えた短い言い回しや、限られたレパートリーを駆使して、生活していく上で予測可能な状況に対処できる。しかし予想外の状況では、コミュニケーションが成り立たなかったり、あるいは誤解を生むことが多い。 |                                                                                                                                                        |                                                                                           |                                                                                |                                            |                                                                        |                                                                                                           |
|     | 使える言語の範囲                                                                       | 言語構造的な能力                                                                                         |                                                                                                                                                        |                                                                                           |                                                                                |                                            |                                                                        |                                                                                                           |

| レベル    | A2                                                                   |                                                                                                                      | B1                                                                                                    |                                                                                        | B2                                                                                                |                                                                                            | C1                                                                                         | C2 |
|--------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|        | A2.1                                                                 | A2.2                                                                                                                 | B1.1                                                                                                  | B1.2                                                                                   | B2.1                                                                                              | B2.2                                                                                       |                                                                                            |    |
| 使用語彙領域 | 特定の具体的な状況に関して、基本的な単語や言い回しのレパートリーを持っていない。ただしそれらの間の繋がりはない。             | 基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。                                                                               | 馴染みのある状況や話題に関して、日常的な生活上の交渉・取引を行うのに十分な語彙を持っている。                                                        | 家族、趣味や関心、仕事、旅行、時事問題など、本人の日常生活に関わる大部分の話題について、多少間接的な表現を使ってでも、自分の述べたいことを述べられるだけの語彙を持っている。 | 本人の専門分野や大部分の一般的な話題に関して、幅広い語彙を持っている。語彙に不足があるために、時々詰まったり、間接的な表現をすることがあるが、頻繁な繰り返しを避けて、言い方を変えることができる。 | 広い語彙レパートリーを使いこなせるし、言い換えて語彙の不足を埋めることができる。言葉を探したり、回避方略の使用がはっきりと分かることはない。定型表現や口語表現の使い方も上手である。 | 定型表現や口語表現も含め、非常に幅広い語彙のレパートリーを使うことができる。コンテキストに対する意識もある。                                     |    |
| 使用し易さ  |                                                                      | 生活上の単純な要求に対応できるだけの語彙を持っている。                                                                                          | 具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うことができる。                                                                     | 複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとする時、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。                         | 語彙的な正確さは一般的に高い。多少の混乱や間違っただけの単語の選択もコミュニケーションを邪魔しない範囲である。                                           | 時には些細な言い間違いがあるが、大きな語彙上の誤りはない。                                                              | 一貫して正しく、適切に語彙が使用できる。                                                                       |    |
| 文法的正確さ | 学習済みのレパートリーの中から、限られた、いくつかの単純な文法構造や構文を使うことができる。                       | いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まらず基本的な間違いがある。例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れたりする傾向がある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいがいの場合明らかである。 | 馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかに分かる。 | 比較的高い文法駆使能力が見られる。時には「言い間違い」や、文構造での偶然起こした誤りや些細な不備が見られる場合があるが、その数は少なく、後で見直せば訂正できるものが多い。  | 高い文法駆使能力がある。時には「言い間違い」や、文構造での偶然起こした誤りや些細な不備が見られる場合があるが、その数は少なく、後で見直せば訂正できるものが多い。                  | 常に高い文法的正確さを維持する。誤りは少なく、見つけることは難しい。                                                         | (例えば、これから言うことを考えている時や、他人の反応をモニターしているような時といった) 高いことに注意を払っている時でも、複雑な言葉について常に高い文法駆使能力を維持している。 |    |
| 音素の把握  | 非常に限られたレパートリーの、学習・練習済みの単語や言い回しなら、本人の言葉を聞き慣れている母語話者であれば、多少努力すれば理解できる。 | 話の相手から時々、繰り返しが求められるもの、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体的な場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。                                                | 時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違いもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。                                                      | はっきりとした、自然な発音やイントネーションを身につけている。                                                        | より微妙なニュアンスを表現するために、イントネーションを変化させたり、文の特定部分を正しく強調することができる。                                          |                                                                                            |                                                                                            |    |

言語構造的な能力

| レベル       | A1                                                                                                  |                                                       | A2                                                        |                                                                                             | B1                                                                     |                                                                                             | B2                                                                                            |                                               | C1                                            | C2                                                                   |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
|           | A2.1                                                                                                |                                                       | A2.2                                                      |                                                                                             | B1.1                                                                   |                                                                                             | B2.2                                                                                          |                                               |                                               |                                                                      |
| 言語構造的な能力  | 例えば、簡単な記号や指示、日常物や名前、店の名前や普段使う定型表現など、馴染みのある単語や言い回しを書き写すことができる。                                       | 日常的话题に関する短い文を書き写すことができる。例えば、道順の説明など。                  | 日常的な話題に含まれる短い単語の音声を、完全に標準的な綴りではない場合もあるが割合に正確に文字化することができる。 | 日常的な形で挨拶や呼びかけなど、礼儀正しい言葉遣いで、短い社交的な会話を招いたりできる。招待や提案、謝罪などを行ったり、それらに応じることができる。                  | 中立的な、ごく一般的な言葉遣いで、幅広い言語機能を遂行し、対応できる。                                    | 話の速度が速く、口語的であっても、ある程度の努力をして、グループ討議についていくことができ、また参加することもできる。                                 | 公式の言葉遣いでも、くだけた言葉遣いでも、その場や会話の参加者に応じて適切な言葉遣いで、はっきりと理解できる。礼儀正しい言葉遣いで、自分自身の述べたいことを自信を持って言うことができる。 | 標準的なレイアウトや段落切りの慣習に従って、ある程度の長さの文章を書くことができる。    | レイアウト、段落切り、句読点の打ち方が統一されており、読者にとって読みやすい。       | 正書法の誤りなしに文章を書くことができる。                                                |
|           | 例えば、簡単な記号や指示、日常物や名前、店の名前や普段使う定型表現など、馴染みのある単語や言い回しを書き写すことができる。                                       | 日常的话题に関する短い文を書き写すことができる。例えば、道順の説明など。                  | 日常的な話題に含まれる短い単語の音声を、完全に標準的な綴りではない場合もあるが割合に正確に文字化することができる。 | 日常的な形で挨拶や呼びかけなど、礼儀正しい言葉遣いで、短い社交的な会話を招いたりできる。招待や提案、謝罪などを行ったり、それらに応じることができる。                  | 中立的な、ごく一般的な言葉遣いで、幅広い言語機能を遂行し、対応できる。                                    | 話の速度が速く、口語的であっても、ある程度の努力をして、グループ討議についていくことができ、また参加することもできる。                                 | 公式の言葉遣いでも、くだけた言葉遣いでも、その場や会話の参加者に応じて適切な言葉遣いで、はっきりと理解できる。礼儀正しい言葉遣いで、自分自身の述べたいことを自信を持って言うことができる。 | 標準的なレイアウトや段落切りの慣習に従って、ある程度の長さの文章を書くことができる。    | レイアウト、段落切り、句読点の打ち方が統一されており、読者にとって読みやすい。       | 正書法の誤りなしに文章を書くことができる。                                                |
| 社会言語的な適切さ | 挨拶や「～紹介、"please"、"thank you"、"どうもありがとうございます"、"すみません"などの、最も簡単な日常的に用いられる丁寧な言葉遣いで、基本的な社交関係を確立することができる。 | 最も簡単な、一般的な表現や、基本的な慣習に従って、単純な形ではあるが、効果的に交際を維持することができる。 | 明示的な礼儀慣習を認識しており、適切に行動できる。                                 | 母語話者との対人関係を維持できるが、その際、相手の意図に反して母語話者がおかしかったり、いらつくことばなく、また母語話者が相手と話す際、母語話者同士の場合と違った話し方をしなくすむ。 | 目標言語の文化と当人の文化との間の慣習、言葉遣い、態度、価値観や信条について、最も重要な違いに対する認識があり、それを配慮することができる。 | 母語話者との対人関係を維持できるが、その際、相手の意図に反して母語話者がおかしかったり、いらつくことばなく、また母語話者が相手と話す際、母語話者同士の場合と違った話し方をしなくすむ。 | 感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。                                          | 母語話者が言語を使用する際の社会的、文化的な意味を十分に理解し、適切に応じることができる。 | 母語話者が言語を使用する際の社会的、文化的な意味を十分に理解し、適切に応じることができる。 | 社会的、文化的、および社会的な違いを考慮しながら、目標言語の話者と自分自身の生活地域の言語の話者との間を、効果的に仲介することができる。 |
|           | 挨拶や「～紹介、"please"、"thank you"、"どうもありがとうございます"、"すみません"などの、最も簡単な日常的に用いられる丁寧な言葉遣いで、基本的な社交関係を確立することができる。 | 最も簡単な、一般的な表現や、基本的な慣習に従って、単純な形ではあるが、効果的に交際を維持することができる。 | 明示的な礼儀慣習を認識しており、適切に行動できる。                                 | 母語話者との対人関係を維持できるが、その際、相手の意図に反して母語話者がおかしかったり、いらつくことばなく、また母語話者が相手と話す際、母語話者同士の場合と違った話し方をしなくすむ。 | 目標言語の文化と当人の文化との間の慣習、言葉遣い、態度、価値観や信条について、最も重要な違いに対する認識があり、それを配慮することができる。 | 母語話者との対人関係を維持できるが、その際、相手の意図に反して母語話者がおかしかったり、いらつくことばなく、また母語話者が相手と話す際、母語話者同士の場合と違った話し方をしなくすむ。 | 感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。                                          | 母語話者が言語を使用する際の社会的、文化的な意味を十分に理解し、適切に応じることができる。 | 母語話者が言語を使用する際の社会的、文化的な意味を十分に理解し、適切に応じることができる。 | 社会的、文化的、および社会的な違いを考慮しながら、目標言語の話者と自分自身の生活地域の言語の話者との間を、効果的に仲介することができる。 |



| レベル   | A1                                     |                                                         | A2                                                  |                                             | B1                                                    |                                                                                        | B2                                                                         |  | C1 | C2 |
|-------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--|----|----|
|       | A2.1                                   | A2.2                                                    | B1.1                                                | B1.2                                        | B2.1                                                  | B2.2                                                                                   |                                                                            |  |    |    |
| 柔軟性   | 既に学習済みの言い回しの組み合わせを変えて、使える表現を増やすことができる。 | 限られた範囲で、言語的差を差し替えて、充分練習した、覚えていた言い回しを使って特定の状況に合わせる事ができる。 | 簡単な言語を幅広く柔軟に使って、述べたいことを多く表現できる。                     | 難しい場面においてさえも、型通りの表現をあまり多用せず、表現を順応させることができる。 | 会話で通常見られる流れ、話し方、強調の変化に適応することができ。                      | その場の状況や聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる。                              | 強調したり、その場の状況や聞き手などに応じて変化をつけたり、あいまいさをなくすために、さまざまな言語形式を使って、発言を言い直す幅広い柔軟性がある。 |  |    |    |
|       | 発言権を得るために何らかの言語行動をとれる。                 | 簡単なやり方で、短い会話を始め、続け、また終えることができる。                         | 馴染みのある話題や、個人的興味のある話題なら、対面での簡単な会話を始め、続け、終わらせることができる。 | 適切な言い回しを使って、馴染みのある話題についての議論に途中からでも加わる事ができる。 | 自分が述べたいことを表現する仕方に変化をつけることができる。                        | ディスコース機能の中のいつでも使える範囲から、自分の発言の前置きにふさわしい言い回しを適切に選び、発言の機会を獲得できる。また話の内容を考えている間も、発言権を維持できる。 |                                                                            |  |    |    |
| 発言権   |                                        | 簡単な対面での会話を始め、続け、終えることができる。                              |                                                     |                                             | 上手に発言権をとって、談話を始め、続け、終えることができる。                        | 必ずしもスマートとは言えないが、会話を始めること、適切なときに発言権を取り、必要ときに会話を終わらせることができる。                             | 洗練された描写や語りができる。そして、下位テーマをまとめ、要点の一つを展開して、適切な結論で終わらせることができる。                 |  |    |    |
| 話題の展開 | ポイントを簡単に並べ上げられる形で、物事を語りたり事物を記述できる。     | 事柄を直線的に並べていく、比較的流暢に、簡単な語りや記述ができる。                       |                                                     |                                             | 論拠となる詳細関連事項や具体例などによって自分の主要な論点を補強して、明快な描写や語りをすることができる。 |                                                                                        |                                                                            |  |    |    |

語用能力 (ディスコース能力)



| レベル       | A1                                                                                             |                                                                        | A2                                                                               |                                                                                                          | B1                                                                                   |                                                                    | B2                                                                                                 |                                                                                                    | C1                                                         | C2                                                                  |                                                            |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
|           | A2.1                                                                                           | A2.2                                                                   | B1.1                                                                             | B1.2                                                                                                     | B2.1                                                                                 | B2.2                                                               |                                                                                                    |                                                                                                    |                                                            |                                                                     |                                                            |
| 一貫性と結束性   | "and"「そして」や"then"「それから」のような、非常に基本的な並列の接続表現を用いて単語や語句をつなげることができる。                                | 最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。                         | "and"「そして」、「but"「しかし」、「because"「～だから」のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりを付けることができる。          | 短め、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりを付けることができる。                                                         | 限定的な範囲ではあるが、さまざまな結束手段を使って、自分の発話を、明快な、結合性のあるディスコースへ作り上げる、長く話すとすると若干の「ぎこちなさ」があるかもしれない。 | 複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合語を効果的に使うことができる。                         | さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段が使い、上手に構成された、明快で流暢な話を作ることができる。                                                | さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段が使い、上手に構成された、明快で流暢な話を作ることができる。                                                | さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段が使い、上手に構成された、明快で流暢な話を作ることができる。        | さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段が使い、上手に構成された、明快で流暢な話を作ることができる。                 |                                                            |
| 話しことばの流暢さ | 適切な表現を探したり、あまり馴染みのない言葉を言おうとするとき、また話の流れの修復のために、間が多くあくが、非常に短い、単独の多くは予め準備しておいた発話を行うことができる。        | 話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたことを理解してもらえる。              | 言葉に詰まったり、話し始めて言い直すことが目立って多いが、馴染みのある話題であれば、あまり困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる。 | ある程度の長さの、理解可能な発話を行うことができるが、制限を受けない自由な発話で比較的長いものになる。特に、談話を続けていく時に文法のおよび語彙的に正確であろうとして間があいたり、発話の修復を行うのが目立つ。 | 比較的一定の速さを保って発話を行うことができる。言い方の型や表現を採る際に話まることであっても、目立って長い間があくことは少ない。                    | 無理なく自然に、コミュニケーションを行うことができ、長く、複雑な一連の発話であっても、非常に流暢で、表現に余裕があることが見られる。 | 自分自身の述べたいことを流暢かつ無理なく自然に、ほとんど苦勞せずに述べるように、表現することができ、滞ることは、考えを表現するために最適な言葉を選んだり、適切な例や説明を探そうとする時だけである。 | 自分自身の述べたいことを流暢かつ無理なく自然に、ほとんど苦勞せずに述べるように、表現することができ、滞ることは、考えを表現するために最適な言葉を選んだり、適切な例や説明を探そうとする時だけである。 | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。 | 例えば、程度の副詞や、限定を表す節などの修飾語句を、幅広く、比較的正確に使うことによって、意味の微妙なあやを正確に伝えることができる。 |                                                            |
| 叙述の正確さ    | 馴染みのある事柄や型にはまった事柄であれば、限られた情報を、簡単かつ分かりやすい形で交換して、自分が述べたいことを伝えることができるが、その他の場面ではたい内容的に妥協しなければならない。 | 直接関わりのあることについては、簡単かつ分かりやすい形で情報を伝えることができ、自分が最も大切だと思ふ点を、聞き手に理解させることができる。 | 概念や問題の主要な点を、比較的正確に表現することができる。                                                    | 信頼を得られる程度に情報を詳しく伝えることができる。                                                                               | 互いに無理することなく、ある程度の流暢さで、無理なく自然に、母語話者と普通にやり取りができる。                                      | 信賴を得られる程度に情報を詳しく伝えることができる。                                         | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。                                         | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。                                         | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。 | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。          | 内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を正確に述べることができる。 |

参考資料 Council of Europe (2001) Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge: Cambridge University Press.  
 Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

参考資料 5 共通参照レベル：話し言葉の質的側面

|     | 使用領域の幅                                                                                                    | 正確さ                                                                    | 流暢さ                                                                          | やり取り                                                                                                        | 一貫性                                                                   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| C2  | 細かい意味のニュアンスを正確に伝えたり、強調したり、区別したり、あいまいさを避けるために、いろいろな言語形式で自由に言い換えができ、非常に柔軟に考えを表現できる。慣用表現、口語体表現も上手に用いることができる。 | 例えば、先を考えたり、他人の反応に注意を向けながらも、複雑な言葉を文法的に正しく使える。                           | 自然な流れの口語体で、ある程度の長さの自己表現ができる。難しいところは避け、修正を円滑に行い、相手がそれと気がつかないくらいである。           | 非言語標識、あるいはイントネーション標識を選んで使い、明らかに無理せずに、軽々と上手に会話することができる。発言の機会を自然に上手につかみ、前の発言に言及したり示唆したりしながら、会話の流れに寄与することができる。 | 適切に多様な談話構築手法と幅広い接続表現、結束手段を用いて、具体性があり、脈絡があり、また一貫性のある談話をすることができる。       |
| C1  | 幅広い言葉の使いこなしができ、一般的、学術、仕事、娯楽の幅広い話題について、言いたいことを制限せずに、適切な文体ではっきりと自分を表現できる。                                   | 文法的な正確さを大体において維持することができる。誤りはめったにないし、まず気づかれないし、実際に犯したとしてもたいていは自分で訂正できる。 | 概念化が難しいときにのみ、言葉の自然な滑らかさが妨げられるが、それ以外は、流暢に自然に、ほとんど苦勞せずに自己表現できる。                | 手持ちの談話表現からふさわしい語句を選んで、自分の話を切り出したり、話を続けることができる。自分の発言を他の話や相手の発言に関係づけられる。                                      | 談話構築手法、接続表現、結束手段が使いこなせ、明瞭で流れるような、構成の整った話をするることができる。                   |
| B2+ |                                                                                                           |                                                                        |                                                                              |                                                                                                             |                                                                       |
| B2  | 十分に言葉を使いこなすことができ、一般的な話題についてなら、ある程度複雑な文を用いて、言葉をわざわざ探さなくても自分の観点を示し、はっきりとした説明をすることができる。                      | 比較的高い文法能力を示す。誤解を起こすような誤りはしない。たいていの間違いは自分で訂正できる。                        | 文例や表現を探すのに詰まったりするが、気になるような長い休止はほとんどなく、ほぼ同じテンポである程度の長さで表現ができる。                | いつもエレガントとはいえないが、適切に発言の機会を獲得したり、必要なら会話を終わらせることができる。身近な話題の議論で、人の発言を誘ったり、理解を確認したり、話を展開させることができる。               | 使うことができる結束手段は限定されており、長く話すとするときこちなさがあるが、発話を明瞭で一貫性のある談話につなげることができる。     |
| B1+ |                                                                                                           |                                                                        |                                                                              |                                                                                                             |                                                                       |
| B1  | 家族、趣味、興味、仕事、旅行、現在の出来事のような話題について、流暢ではないが、言い換えを使いながら表現するだけの語彙を十分に有している。                                     | 予測可能な状況で、関連した非常によく用いられる「決まり文句」や文型をかなり正確に使える。                           | 長い一続きの自由な発言をするとき特に、文法を考えたり語彙を探したりする際の言いよみや言い直しが多く、修正が目立つが、わかりやすく話を進めることができる。 | 身近な個人的な関心事について、一対一なら、話を始め、続け、終わらせることができる。お互いの理解を確認するために、誰かが言ったことを部分的に繰り返して言うことができる。                         | 一連の短い、不連続な単純な要素を連結し、並べていって、話ができる。                                     |
| A2+ |                                                                                                           |                                                                        |                                                                              |                                                                                                             |                                                                       |
| A2  | 覚えていくつかの言い回しや数少ない語句、あるいは定式表現、基本的な構文を使って、日常の単純な状況の中でなら、限られてはいるが情報を伝えることができる。                               | まだ基本的な間違いが決まったところで出てくるが、いくつかの単純な構造を正しく用いることができる。                       | 休止が目立ち、話し出しの仕方の間違いや、言い直しが非常にはっきり見られるが、短い話ならできる。                              | 質問に答えられ、簡単な話に対応することができる。自分で会話を続けることができるほどには十分に理解できていないことが多いが、話についていることをわかるることができる。                          | 'and」「そして」、'but」「でも」、'because」「なぜなら」などの簡単な接続表現を使って単語の集まりを結びつけることができる。 |
| A1  | 個人についての情報や具体的な状況に関する基本的な語や言い回しは使える。                                                                       | 限られた文法構造しか使えず、構文も暗記している範囲でのみ使える。                                       | 表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するためにつかえ、つかえ話すが、単発的な、予め用意された発話ならすることができる。 | 個人的な事柄について詳しく質問をしたり、答えることができる。繰り返し、言い換え、修正に完全に頼ったコミュニケーションではあるが、簡単な会話はできる。                                  | 単語の集まりや個々の単語を 'and」「そして」、'then」「それで」などのごく基本的な接続表現を使って結びつけることができる。     |

参考資料 Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝(訳、編)朝日出版社

# 文献

## <開発時に参考にした主な文献>

- ARCLE 編集委員会、田中茂範（編）（2005）『ECF:幼児から成人まで一貫した英語教育のための枠組み』、リーベル出版
- 伊東祐郎（2006）「評価の観点から見た日本語教育スタンダード」『日本語学』 vol.25、18-25、明治書院
- Council of Europe（2004）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）、朝日出版社
- 嘉数勝美（2005）「日本語教育スタンダードの構築—第1回国際ラウンドテーブルの成果から—」『遠近第6号』36-41、国際交流基金
- 嘉数勝美（2006）「ヨーロッパの統合と日本語教育—CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）をめぐる—」『日本語学』 vol.25、46-58、明治書院
- 鎌田修・嶋田和子・迫田久美子（編）（2008）『プロフィシェンシーを育てる～真の日本語能力をめざして～』、凡人社
- 国際交流基金（2006）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割／コースデザイン』、ひつじ書房
- 国際交流基金（2008）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ14 教材開発』、ひつじ書房
- 国際交流基金（2009）『JF 日本語教育スタンダード試行版』
- 国際交流基金、日本国際教育支援協会（2009）『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』
- シャクリー、B.D.、N. バーバー、R. アンブローズ、S. ハンズフォード（2001）『ポートフォリオをデザインする—教育評価への新しい挑戦—』、田中耕治（監訳）、ミネルヴァ書房
- 田中耕治（2008）『教育評価』、岩波書店
- 田中真理・長阪朱美（2006）「第二言語としての日本語ライティング評価基準とその作成過程」、『第二言語としての日本語ライティング評価基準とその作成過程—国立国語研究所編—世界言語テスト』、253-276、くろしお出版
- 谷口すみ子（2003）「日本語能力とは何か」青木直子・尾崎明人・土岐哲（編）『日本語教育を学ぶ人のために』、世界思想社
- 當作靖彦（1999）「アメリカの外国語教育における評価の動向—代替評価法を中心として—」『平成11年度日本語教育学会秋季大会予稿集』17-27、日本語教育学会
- 平高史也（2006）「言語政策としての日本語教育スタンダード」『日本語学』 vol.25、6-17、明治書院
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤真理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子（2001）『ACTFL-OPI入門』、アルク
- 村野井仁（2007）『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』、大修館書店
- 横溝紳一郎（2000）「ポートフォリオ評価と日本語教育」『日本語教育』107号、105-114、日本語教育学会

- 和田朋子 (2004) 「TUFES 言語能力記述モデル開発のための試み : Common European Framework (of Reference for Languages) の考察 (第二言語の教育・評価・習得)」『言語情報学研究報告 5』 89-102、東京外国語大学
- Bachmann, Lyle F. (1990) *Fundamental Considerations in Language Testing*. Oxford University Press.
- Bachmann, Lyle F. and Adrian S. Palmer (1996) *Language Testing in Practice Designing and Developing Useful Language Tests*. Oxford University Press.
- Byram, Michael (1997) *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Multilingual Matters Ltd.
- Byram, Michael (2008) *From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship. Essays and Reflection*. Clevedon: Multilingual Matters.
- Canale, M. and Swain, M. (1980) Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1; 1-47
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Council of Europe (2009) *Relating Language Examinations to the Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment (CEFR): A Manual*. Council of Europe Language Policy Division.
- Glaboniat, Manuela, Martin Müller, Paul Rusch, Helen Schmitz and Lukas Wertenschlag (2005) *Profile deutsch. Niveau A1-A2・B1-B2・C1-C2*. Berlin: Langenscheidt Verlag.
- Lenz, Peter and Günter Schneider (2004) *A bank of descriptors for self-assessment in European Language Portfolios*. Strasbourg: Council of Europe.
- Little, David (2006) The Common European Framework of Reference for Languages: Content, Purpose, Origin, Reception, and Impact. *Language Teaching*, 39: 3, 167-190
- Hamp-Lyons, Liz and William Condon (2000) *Assessing the portfolio: principles for practice theory and research*. Cresskill, NJ; Hampton Press.
- North, Brian (2000) *The Development of a Common Framework Scale of Language Proficiency*. New York: Peter Lang.
- North, Brian (2007) *The CEFR Common Reference Levels: Validated Reference Points and Local Strategies*. Intergovernmental Policy Forum “The Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) and the development of Language Policies: Challenges and Responsibilities.” Council of Europe Language Policy Division.
- Weigle, Sara C. (2002) *Assessing Writing*. Cambridge: Cambridge University Press.

### <参考ウェブサイト>

- 青木直子 (2007) 「日本語ポートフォリオ」 < <http://www.let.osaka-u.ac.jp/~naoko/jlp> > (2016年7月8日最終アクセス)



「JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック」は、  
「JF日本語教育スタンダード 2010利用者ガイドブック【第三版】」  
に加筆修正したものです。



---

## **JF日本語教育スタンダード 【新版】利用者のためのガイドブック**

2017年3月 初版第一刷発行

【編著・発行】 独立行政法人国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

【担 当】 日本語国際センター 教材開発チーム  
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36  
TEL：048-834-1183 FAX：048-831-7846

- 
- JF日本語教育スタンダードに関するその他詳しい情報は、ウェブサイト<<http://jfstandard.jp>>をご覧ください。
  - 『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』に対するご意見やご質問は、<[jfstandard@jpf.go.jp](mailto:jfstandard@jpf.go.jp)>にご連絡下さい。

---

©2017 The Japan Foundation

『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』の著作権は、独立行政法人国際交流基金が所有しています。

